岩手県文化財調査報告書　第145集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成26年度　国庫補助事業）

平成28年３月

岩　手　県　教　育　委　員　会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成26年度　国庫補助事業）

岩 手 県 教 育 委 員 会

序

埋蔵文化財は、先人の残した貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産です。文化財保護法の理念にもとづき、埋蔵文化財を保護し後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの責務です。

当教育委員会では、昭和52年度から国庫補助金の交付を受け、遺跡の分布調査を実施しており、現在、１万２千箇所を上回る数の遺跡が登録されています。

これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図るため、遺跡の範囲や内容確認を目的とした試掘調査の記録に加え、小規模な記録保存目的の発掘調査についても、その成果を報告書として、平成元年度から刊行しております。

現在、本県では、平成23年３月11日に発災した東日本大震災からの復興に係る埋蔵文化財調査に鋭意取組んでいるほか、国・県開発事業に関連する埋蔵文化財調査もあわせて進めているところです。

本報告書は、平成26年度に実施した県内遺跡調査事業による発掘調査、試掘調査及び分布調査、工事立会の成果をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護の一助に役立つことがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導と御協力をいただきました多くの方々に、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

岩手県教育委員会
教育長　高 橋 嘉 行

目　次

序
例言
凡例

Ⅰ　発掘調査

1　北上川上流河川改修事業（霞畑遺跡）…… 3
2　集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事（新堰端遺跡）…… 13
3　一般国道456号関口地区交通安全施設整備事業（上野々遺跡）…… 15
4　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）湯田地区（段ノ越遺跡）…… 45

Ⅱ　試掘調査・工事立会

1　経営体育成基盤整備事業天下田地区（油沢遺跡）…… 50
2　集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事（新堰端遺跡）…… 51
3　主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業（小堀内Ⅱ遺跡）…… 52
4　一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業（可能性あり（和井内地区））…… 53
5　一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業（田鎖遺跡）…… 54
6　地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線（千鶏Ⅱ遺跡）…… 55
7　河川等災害復旧事業二級市道沼の浜青の滝線沼の浜地区（重津部Ⅰ遺跡）…… 56
8　地域連携道路整備事業（野田Ⅰ遺跡）…… 58
9　地域連携道路整備事業一般国道340号（世田米城跡）…… 59
10　一般県道遠野住田線下組町地区道路改築工事（可能性あり（下組町地区））…… 60
11　国営和賀中央農業水利事業上堰幹線用水路改修工事（大橋遺跡）…… 61

Ⅲ　市町村支援

1　保育園舎建設工事（大平野遺跡）…… 69

調査一覧表
1　発掘調査一覧表
2　試掘調査一覧表
3　分布調査一覧表
4　工事立会一覧表
報告書抄録

例　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成26年度に実施した県内遺跡調査事業に係る調査成果の報告である。

2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下、県埋蔵文化財センターと略記する）及び関係市町村教育委員会の協力を得て行った。

3　遺跡位置図は、国土地理院発行『数値地図25,000（地図画像)』（ＣＤ−ＲＯＭ版）を 使用した。

4　発掘調査の調査区位置図、試掘調査の調査図などは各事業者から提供された工事計画図・地形図などを原図として作製した。

5　遺跡位置図・調査区位置図などにおいては、遺跡範囲をアミフセ、トレンチ・調査区をシロヌキでそれぞれ示した。

6　発掘調査の遺物実測図・遺物観察表は遺跡ごとに、試掘調査・工事立会の遺物実測図は一括して掲載した。

7　遺構名称は次のように略号を付した。

竪穴住居：SI、竪穴遺構：SKI、土坑：SK、陥し穴状遺構：SKT、溝：SD、柱穴：pp、不明遺構：SX、土器：P、石器：S

8　遺構・遺物実測図の縮尺は以下のとおりで、それぞれにスケールを付した。実測図の表現は凡例のとおりである。

遺構：1/30、1/40、1/60、1/80、1/150

遺物：土器1/3、1/4、石器2/3、1/3、陶磁器1/3、木製品1/3

9　写真図版は、主な遺構・遺物を選択して掲載した。掲載縮尺は遺構については任意、遺物については実測図と同寸である。

10　平成26年度の調査体制は次のとおりである。

〈埋蔵文化財担当総括〉上席文化財専門員　菅常久　〈予算・経理〉主任　藤村フサ子

〈通常事業担当〉文化財専門員　千葉正彦・佐々木務・晴山雅光　文化財調査員　高橋祐

〈復興事業担当〉文化財専門員　半澤武彦・鳥居達人・相原伸裕

［派遣専門職員］文化財調査員　村本周三（北海道)・中澤寛将（青森県)、文化財専門員　加藤竜（秋田県)、上席文化財専門員　浅野晴樹（埼玉県)・今福利恵（山梨県)、文化財専門員　丸杉俊一郎（静岡県)、上席文化財専門員　上垣幸徳（滋賀県)、文化財専門員　関真一（大阪府)・柏原正民（兵庫県)・坂井田端志郎（熊本県)・小林昭彦（大分県)（４月〜９月)・上床真（鹿児島県)

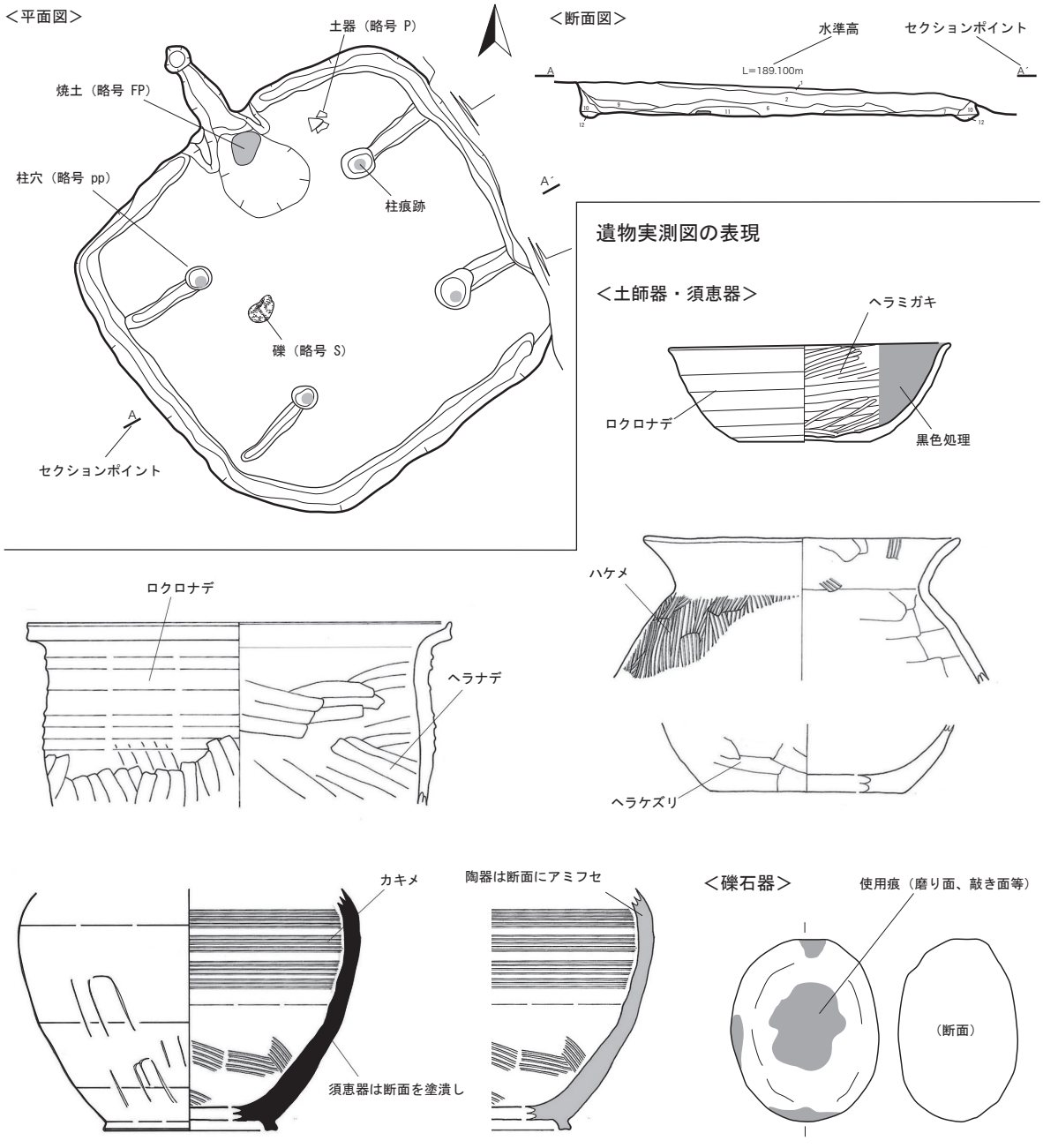
※（　）は派遣元の道府県、文化庁の調整による復興調査支援

11　本書には、埋蔵文化財緊急調査費国庫補助金を受けて実施した通常事業関係調査を収録した。野外調査・室内整理は主として千葉・晴山・高橋が担当し、報告書の作成は千葉・佐々木・高橋、編集は高橋が行った。なお、復興事業関係の調査については、第146集として別途刊行している。

12　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

凡　例

遺構図の表現



第１図　凡例

Ⅰ　発掘調査

第２図　発掘調査位置

発掘調査

1　霞畑遺跡（一関市）
2　新堰端遺跡（盛岡市）
3　上野々遺跡（花巻市）
4　段ノ越遺跡（二戸市）

1　北上川上流河川改修事業

霞畑遺跡（かすみがはたいせき）（OE09－2100）

所 在 地：一関市川崎町門崎地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

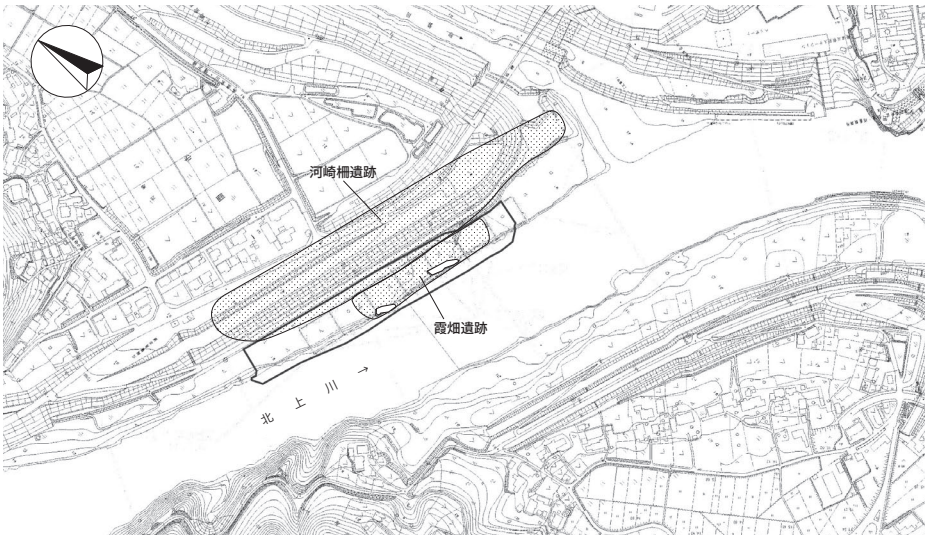
調査期日：平成26年５月２日（金）～30日（金）

今回の調査は一関市川崎町の北上川護岸工事（施工延長420m）に係るもので、調査地は一関市役所の東南東約12㎞、砂鉄川との合流点に近い北上川左岸の川岸部分である。工事箇所に近接する既設堤防部分から北東側の谷底平野にかけて、“安倍氏十二柵”の一つに擬定される河崎柵遺跡が所在している。

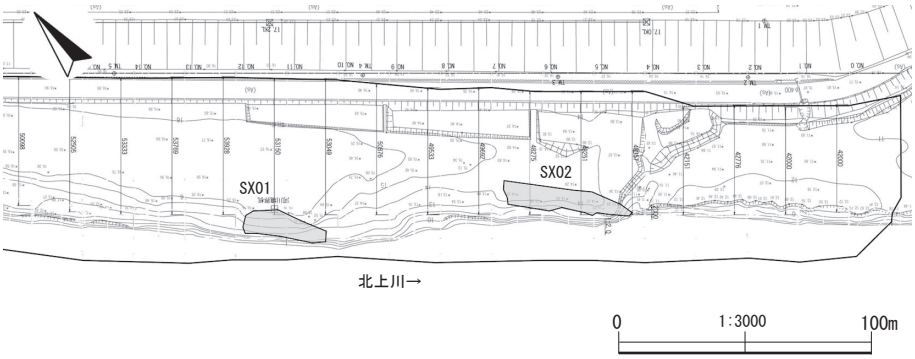
第３図　霞畑遺跡位置

当事業に係る試掘調査は平成26年２月に実施している。既設堤防と北上川との間の氾濫低地面にトレンチ３箇所を設定して掘削した結果、遺構・遺物は確認されなかったため、工事による遺跡への影響はないと判断した。しかし、平成26年３月、工事による掘削が進んだ段階で北上川川岸部分において２箇所の石敷が発見された。これを受けて当課と事業者で協議し、当該石敷について記録保存の発掘調査を行うこととなった（約1,500㎡）。調査地は周知の遺跡ではなかったため、新規発見の「霞畑（かすみがはた）遺跡」として登録した。

確認された石敷は北上川左岸の川岸に位置しており、工事範囲の上・下流部分のそれぞれに粘板岩礫を用いた石積が築かれている。２基の石積は川側に大形の粘板岩礫（１m×0.6～0.8m程度）を用いて小口面を揃えるように積み、控えが長くとられている。石積は川側だけではなく、下流側の先端部では川とは反対側へも部分的に及んでいる。一方、上面にも扁平な礫が面を揃えて敷かれている。２基ともに全体が下流側に向けて緩く傾斜し、川に向けて下るような形となっている。また、ともに北上川の河道に対して下流側がやや斜めに張り出す形で構築されており、構築当時は川に対して先端が突き出す形だったと推測される。その形態から見て河岸（船着場）跡と推定される。上流のものをSX01、下流をSX02と呼称する。調査開始した時点で２基ともに露出した状態だったため詳細な埋土の記録はないが、現況の地表面標高から逆算すれば、SX01は約４m、SX02は２～３m、地表下に埋もれていたことになる。なお、試掘調査で確認した基本層序は次のとおりである。Ⅰ層：暗褐色砂質シル



第４図　霞畑遺跡調査位置



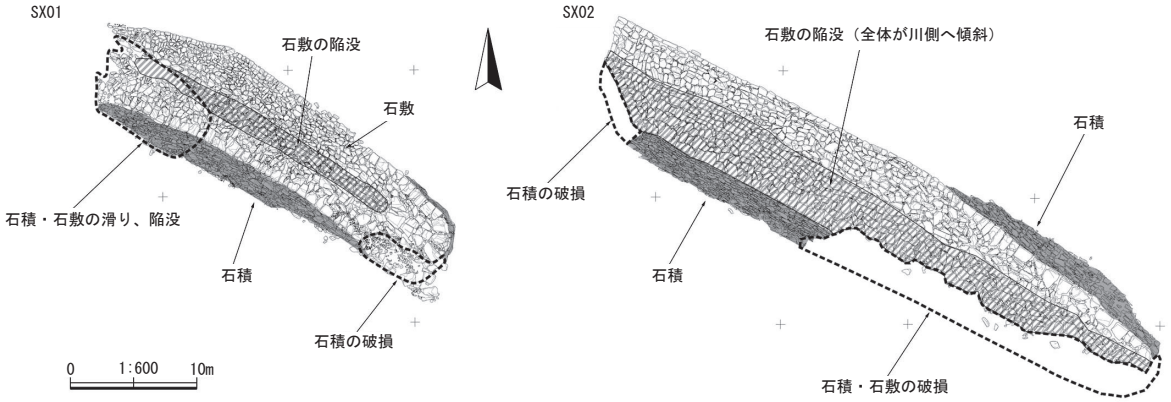
第５図　霞畑遺跡遺構配置

ト（層厚30㎝、小礫混入）、Ⅱ層：褐色砂質土（層厚90㎝、しまりなし）、Ⅲ層：にぶい黄褐色砂質土（層厚130㎝、小礫や粘土粒を疎らに含む）、Ⅳ層：暗褐色砂（層厚80㎝）、以下不明。

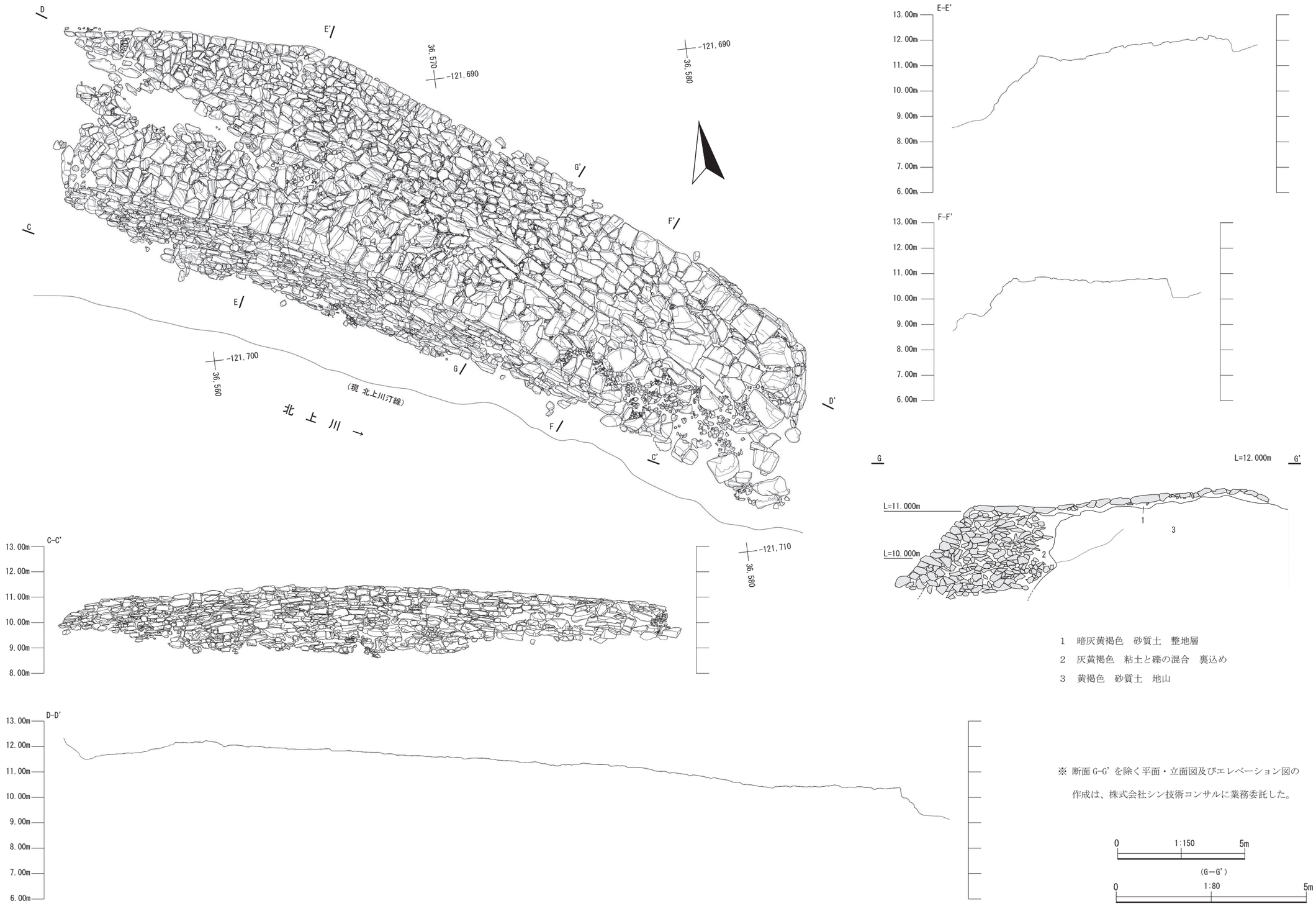
＜SX01＞　長さ33m、幅７～8.5m、高さ1.2～2.5mである。平面形は北西－南東を軸とする長方形、断面形は台形状を呈し、先端は丸みを帯びている。全体が工事による切土範囲に含まれる計画であることから、構造把握のためにほぼ中央付近にトレンチを設定して断面を観察した。上面の石敷部分では、石の直下に小礫を含む暗灰黄褐色の砂質土層が見られる。この層は厚さ10～20㎝程と薄いものであるが、石を敷く際に整地した痕跡と考えられる。一方、側面の石積部分では、表面の積み石の内側に裏込めが確認された。裏込めは、人頭大～拳大の多量の礫、粘土の小塊、砂が混合したもので、厚さ２m程である。川による浸食を考慮して、強固に裏込めしたものと考えられる。裏込め層と地山の境界付近には褐鉄が薄い層をなしている。当遺構は自然堆積の洪水堆積層を地山としてその上に石敷き・石積みして構築されているが、地山である洪水堆積層は砂と粘土の互層であり、地盤の支持力に欠けている。実際、検出時点で上面の石敷部西側の一部陥没が観察されており、地山の砂層の流出がその原因と考えられる。なお、石積基底部については後術するSX02とともに、調査途中に遺構の保存が決まったため、調査するに至っていない。

＜SX02＞　長さ66m・幅3.5～7.5m・高さ２～2.5mである。平面形はSX01同様に長方形だったものと推測されるが、川側の石積は約1/3が崩れて失われている。断面形は台形状である。北西側の一部が工事により影響を受けることから当該箇所にトレンチを設定した。トレンチ箇所は遺構の西側末端付近であり、かつ川側の石積は崩壊していたため、断面で構造把握できたのは上面の石敷部のみである。石敷部はSX01と同様、石の直下に薄い整地層が見られた。

SX01・02ともに周辺からの遺物の出土はない。また、トレンチ部分でも裏込め及び地山からも遺



第６図　SX01・02概略



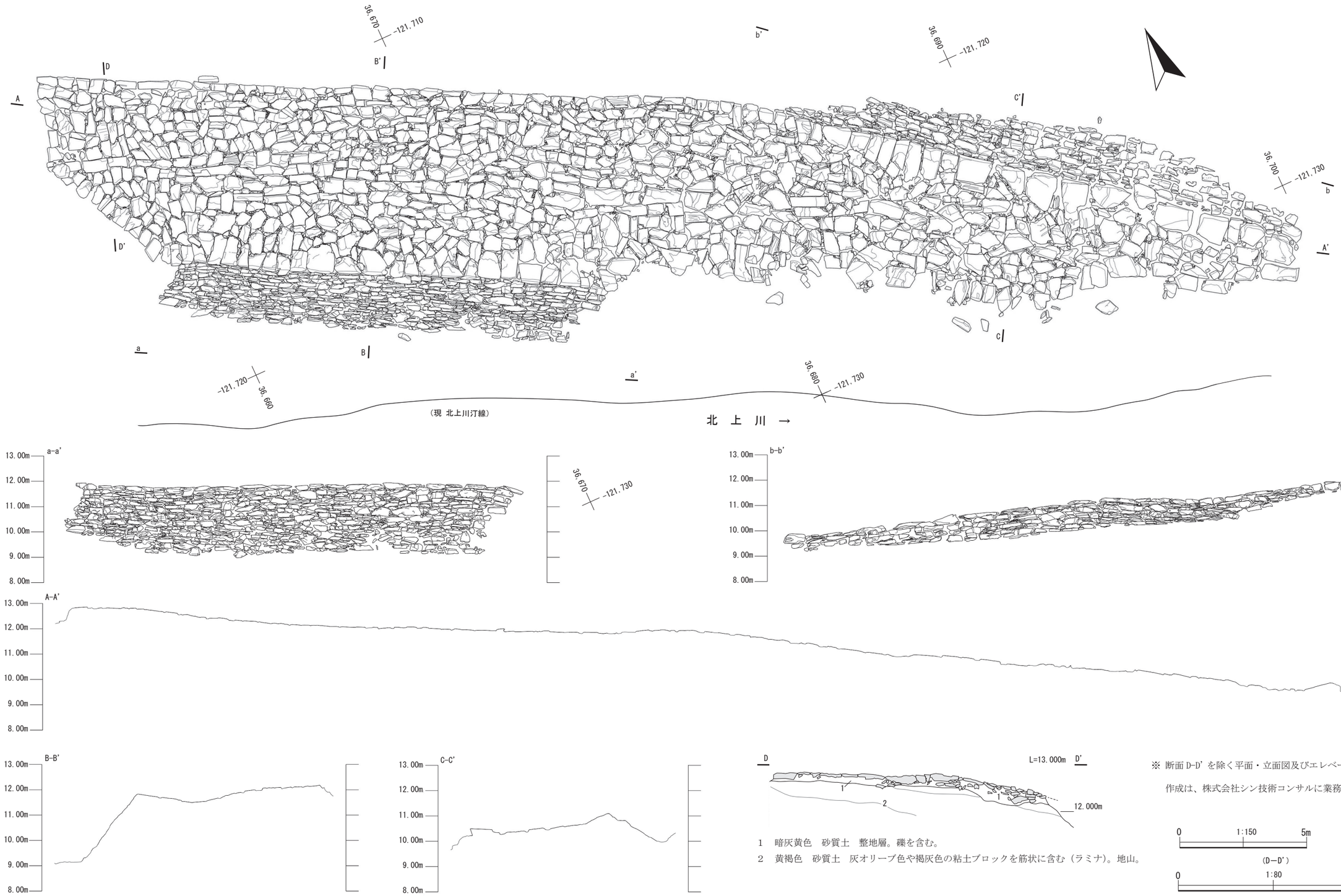
1　暗灰黄褐色　砂質土　整地層

2　灰黄褐色　粘土と礫の混合　裏込め

3　黄褐色　砂質土　地山

※ 断面 G-G' を除く平面・立面図及びエレベーション図の作成は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した。

第７図　霞畑遺跡　検出遺構(1)　SX01



1　暗灰黄色　砂質土　整地層。礫を含む。

2　黄褐色　砂質土　灰オリーブ色や褐灰色の粘土ブロックを筋状に含む（ラミナ）。地山。

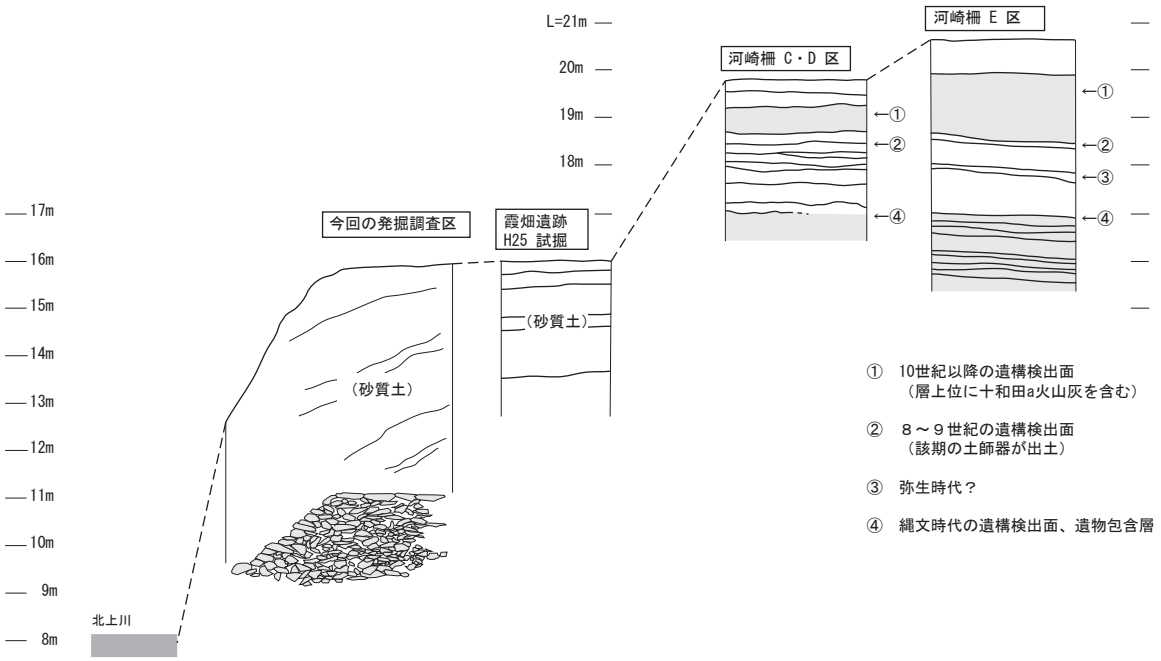
※ 断面 D-D' を除く平面・立面図及びエレベーション図の作成は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した。

0　1:150　5m

(D−D')

0　1:80　5m

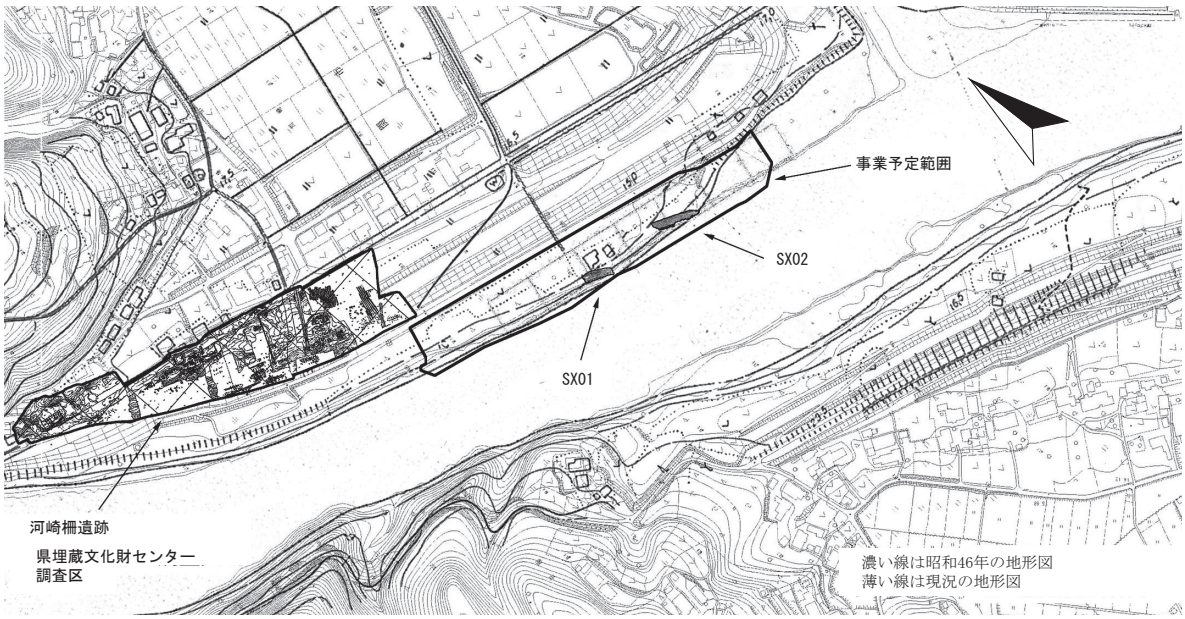
第８図　霞畑遺跡　検出遺構(2)　SX02



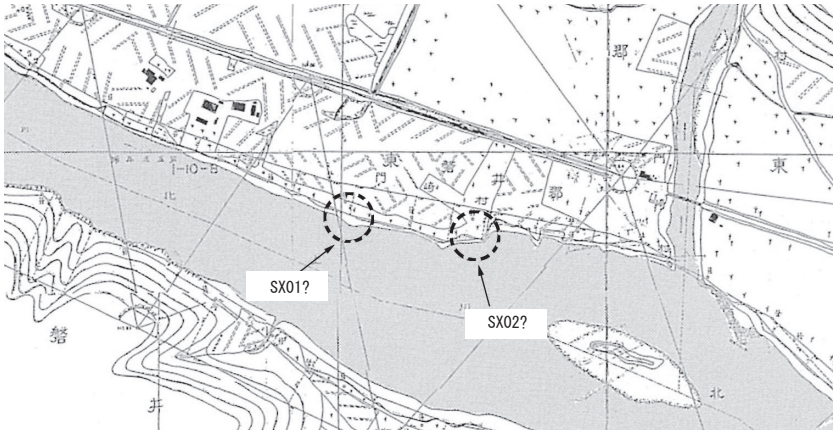
第９図　霞畑遺跡・河崎柵遺跡の層序

物は出土していない。

遺構の構築時期については、共伴する遺物がないため、直接の判断根拠を欠いている。まず考えられるのは、当遺跡に近接する河崎柵遺跡との関連性である。河崎柵遺跡は北上川の左岸自然堤防上に立地している。平成12～15年度に県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査では、自然堤防を横断する堀跡（堀幅４ｍ・深さ1.2m）が検出され、11世紀代の土師質土器が出土している。川側の調査区南寄り部分は急激に落込んで洪水堆積層が厚く堆積している状況であった。今回の調査区は県埋蔵文化財センター調査区と比べて砂鉄川との合流点により近い低位面であり、砂層の堆積は最大４ｍに及んでおり、県埋蔵文化財センターの調査において古代の遺構検出の鍵層となった十和田ａ火山灰（10世紀初）は、今回調査区では確認されなかった。今回調査区は北上川に近い氾濫低地であり、古代の遺構検出面は洪水によって流出して残存していないと推測される。厚く堆積する砂



第10図　昭和40年代の調査地付近



第11図　明治時代の調査地付近

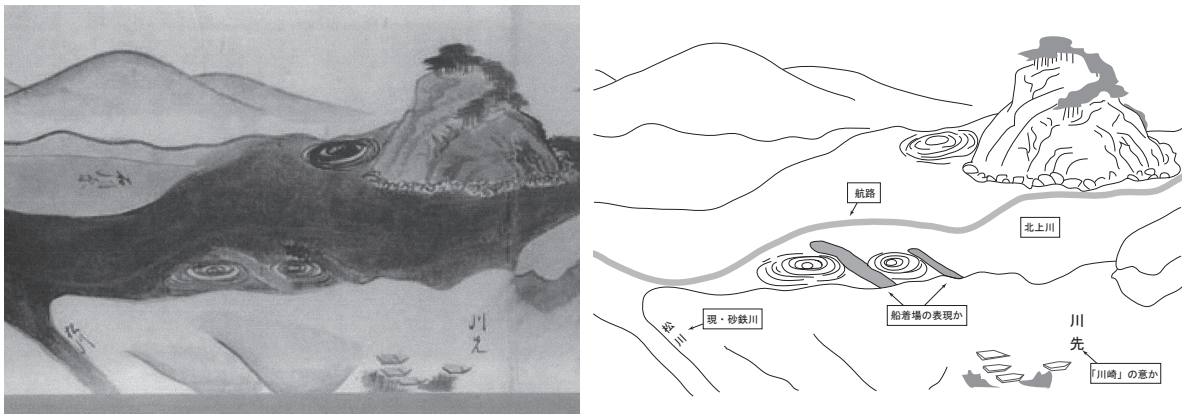
層は繰り返される北上川の洪水の所産であり、その時期は少なくとも10世紀後半以降である。以上から考えると、位置的には近接するが、今回検出された石積遺構と河崎柵を関連付ける根拠は乏しい。

第10図は、現況地形図と昭和46年の地形図、今回調査と過去に県埋蔵文化財センターが行った発掘調査（河崎柵遺跡）の遺構配置図を合成したものである。昭和46年時点では、砂鉄川の河道は現在よりも北寄りにあり、北上川と砂鉄川との合流点は現在よりも北側に奥まって広がっており、SX02付近は土砂の堆積が進んでなだらかに弧を描く形となっている。また、『北上川河川台帳平面図副本』（明治37年）（岩手河川国道事務所所蔵）における調査区周辺の平面図（第11図）を見ると、SX01付近が川へと孕み出し、SX02付近は舌状に川へと突き出している。旧地形ではSX01・02ともに北上川に対して先端が張り出すような配置であり、明治30年代には両遺構ともに当時既に埋没していたことがわかる。構造的に稚拙な部分が見られることに鑑みても、両遺構が近代の土木工事の所産とは思われない。さらに遡って近世の資料として19世紀半ばの北上川艜之航路図（岩手県立図書館所蔵）によると、今回調査地付近に北上川へと張り出す船着場状の施設が２箇所描き込まれている（第12図)。この絵図が厳密に当時の様子を表現したものではないにせよ、1850年頃に付近に船着き場があった可能性は高い。絵図の施設が今回検出した遺構そのものとは言い切れないが、年代推定の根拠を欠く現状においては当遺構を近世期の船着き場と考えるのが妥当と考えられる。

なお、発掘調査中から遺構の保存を求める住民要望があったことを受けて、事業者である国土交通省では当課及び一関市教育委員会と協議の上、護岸工事の設計を一部変更して遺構を保存することを決定した。そのため遺構精査は一部トレンチによる構造把握に止め、２基ともに埋め戻して現状保存した。

【参考引用文献】

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006 『河崎柵擬定地発掘調査報告書』　岩文振埋文調査報告書第474集



第12図　北上川艜之航路図

霞畑遺跡　遠景（南東から）

SX01　遠景（西から）

SX01　平面（直上。上が北東）

SX01　近景（北西から）

SX01　川側の石積（北西から）

SX01　上面の石敷（南東から）

SX01　川側石積の断面（南から）

SX01　上面石敷の断面（南から）

図版１　霞畑遺跡検出遺構・調査状況（1）

SX02　平面（直上。上が北東）

SX02　遠景（西から）

SX02　近景（東から）

SX02　上面の石敷（南東から）

SX02　川側の石積（西から）

SX02　陸側の石積（東から）

SX02　上面石敷の断面（北から）

写真測量の作業状況（北西から）

図版２　霞畑遺跡検出遺構・調査状況(2)

2　集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事

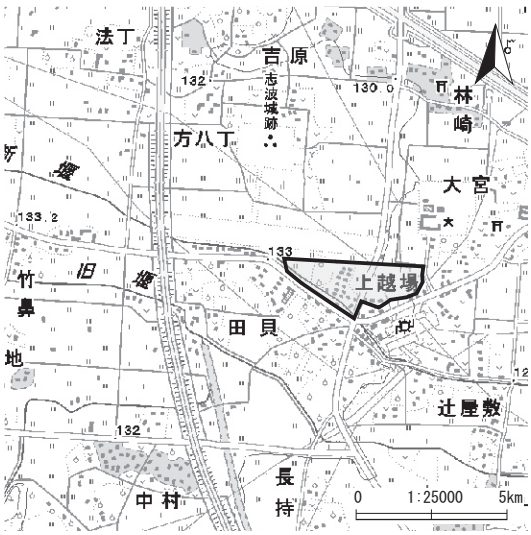
新堰端遺跡（LE15－2359）

所 在 地：盛岡市下太田字新堰端地内

事 業 者：盛岡広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成27年２月４日（水）

新堰端遺跡（LE15−2359）は、盛岡市役所から南西に約4.6㎞の盛岡市下太田字新堰端に所在する。雫石川右岸に形成された低位段丘面に立地する古代の城柵跡及び集落跡で、志波城跡（LE15−2317）南東端と接している。調査は鹿妻新堰の改修工事に係るものである。



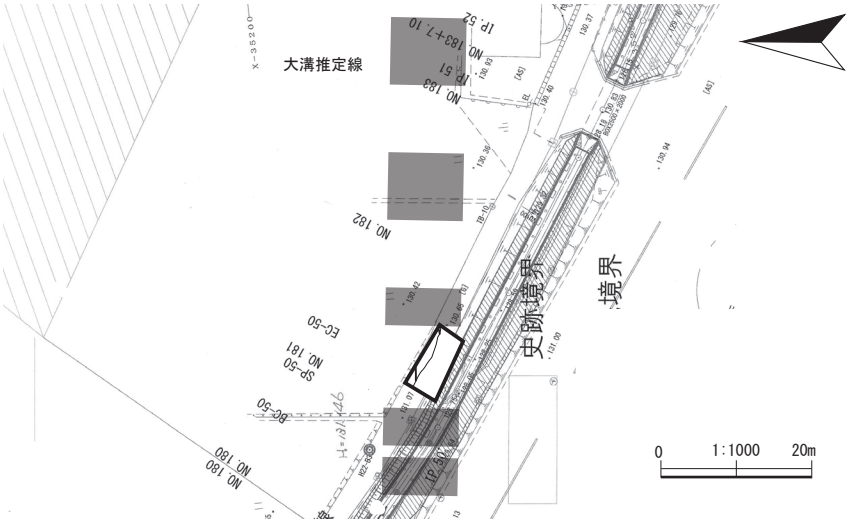
第13図　新堰端遺跡位置

事業地は新堰端遺跡の南西端にあたり、城柵外に位置する。周辺の調査で、事業地周辺には志波城の外郭南辺築地線中央より約一町（約109ｍ）の距離に、志波城軸線と平行に、城柵と関係すると考えられる大溝跡が検出されている（盛岡市教育委員会1988『志波城跡－昭和62年度発掘調査概報－』）。

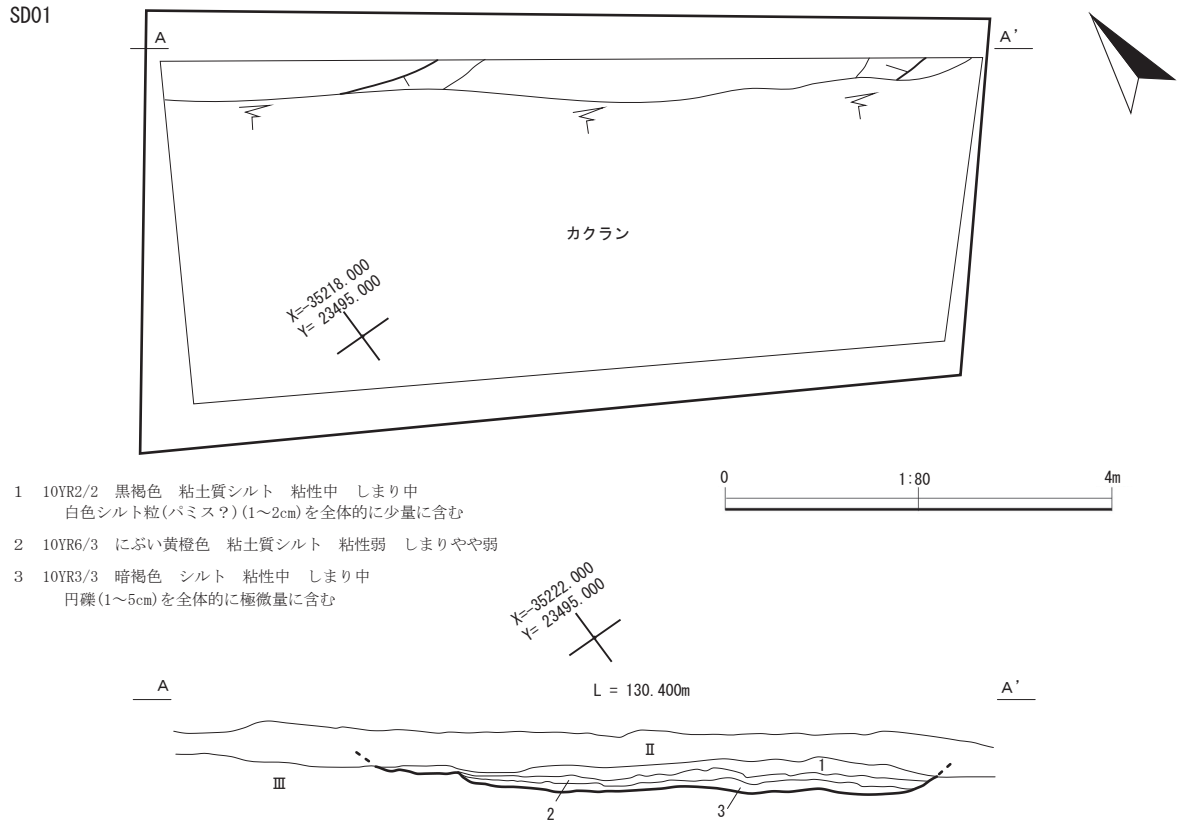
試掘調査の結果、事業地の一部から大溝跡と考えられる遺構が検出されたため、大溝跡とその周辺（約40㎡）について発掘調査を行った。

調査の結果、遺構の掘込面はⅡ層中と考えられるものの、色調の判断に至らず、平面形・断面ともⅢ層上面の底面付近で判断した。検出した溝跡は土層断面より幅約5.4ｍ以上、深さ約0.3ｍ以上、埋土は自然堆積であり色調により３層に分層した。底面から拳大の礫を極微量に含んだ腐食土（３層）が堆積し、氾濫土起源のにぶい黄橙色土（２層）、十和田ａ火山灰（10世紀初）の二次堆積を含む黒褐色土（１層）が堆積する。過去の調査結果から大溝跡と推定される延長線上に遺構が位置していることを確認した。

今回の調査区は狭小であり、得られた情報は限られたものであったものの、一町溝の存在を確認することができたことは、志波城築城期の景観を復原するにあたって、追加資料となる成果であった。



第14図　新堰端遺跡調査位置



第15図　新堰端遺跡検出遺構

調査区　近景（南東から）

１号溝跡　検出状況（南西から）

１号溝跡　断面（南西から）

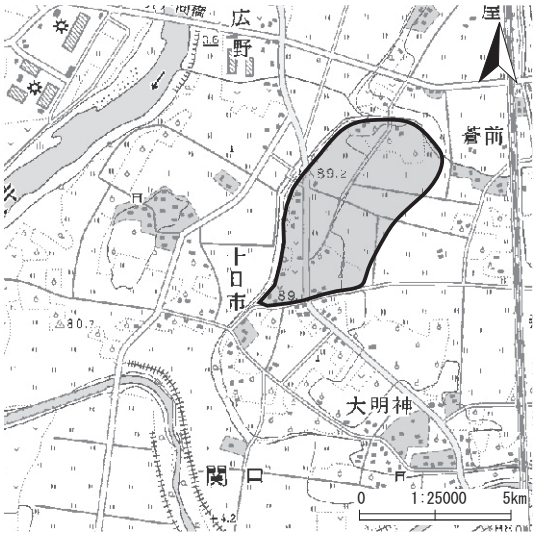
１号溝跡　完掘（西から）

図版３　新堰端遺跡検出遺構・調査状況

３　一般国道456号関口地区交通安全施設整備事業

上野々遺跡（LE97－2160）

所 在 地：花巻市石鳥谷町新堀地内
事 業 者：県南広域振興局土木部花巻土木センター
調査期日：平成26年５月12日(月)～16日(金)、
６月９日(月)～25日(水)、
10月20日(月)～23日(木)



第16図　上野々遺跡位置

上野々遺跡（LE97－2160）は、花巻市役所から北北東へ約9.5㎞、北上川と稗貫川の合流付近の低位段丘面に立地する。周辺の地形は、蛇行する北上川流域の氾濫低地から低位砂礫段丘面に区分されており（岩手県1970『北上山地系開発地域　土地分類基本調査　花巻』）、当遺跡は北上川の左岸、氾濫低地に張り出す段丘の北西縁に広がっている。事業地は遺跡を縦断する国道456号線の東側隣接地で、麦畑の広がる平坦な水田転作地である。

今回の発掘調査は、一般国道456号線の石鳥谷新堀～関口地区の交通安全施設整備工事に係るものである。調査に先立つ試掘調査で、遺跡範囲から竪穴住居跡や溝跡が検出され、それに伴い土器片などの遺物も出土したため、遺構の広がる範囲について調査を行った。

調査期間は上記の通り３期に分かれ、延べ１か月弱である。調査地の基本層序は、Ⅰａ層：表土（層厚10～30㎝・下位に粘土質の水田時耕作土）、Ⅰｂ層：黒褐色土（層厚15～30㎝・旧表土）、Ⅱ層：暗褐色土（層厚20～80㎝・盛土整地層）、Ⅲ層：黒～黒褐色土（層厚0～30㎝）、Ⅳ層：褐色土（層厚不明・遺構検出面・いわゆる地山）である。

調査の結果、炭化材などが出土した焼失住居跡と考えられる遺構を含め竪穴住居跡が５棟、土坑が１基、調査区を東西方向に走る溝跡が５条、柱穴が８個検出された。出土遺物は、須恵器・土師器を中心に大コンテナで約３箱、土錘片１点、石器が１点、遺構外のⅡ層及びⅢ層から縄文土器片が大１袋出土している。遺物の多くは竪穴住居跡からの出土である。また、土師器の坏には墨書がみられるものや、時期の遡ると考えられる高坏などが出土している。以下、各遺構について記載していく。

第１号竪穴住居跡（SI01）

［位置］平面直角座標系Ｘ軸−59,413ｍ、Ｙ軸28,785ｍ周辺の調査区北端に位置する。

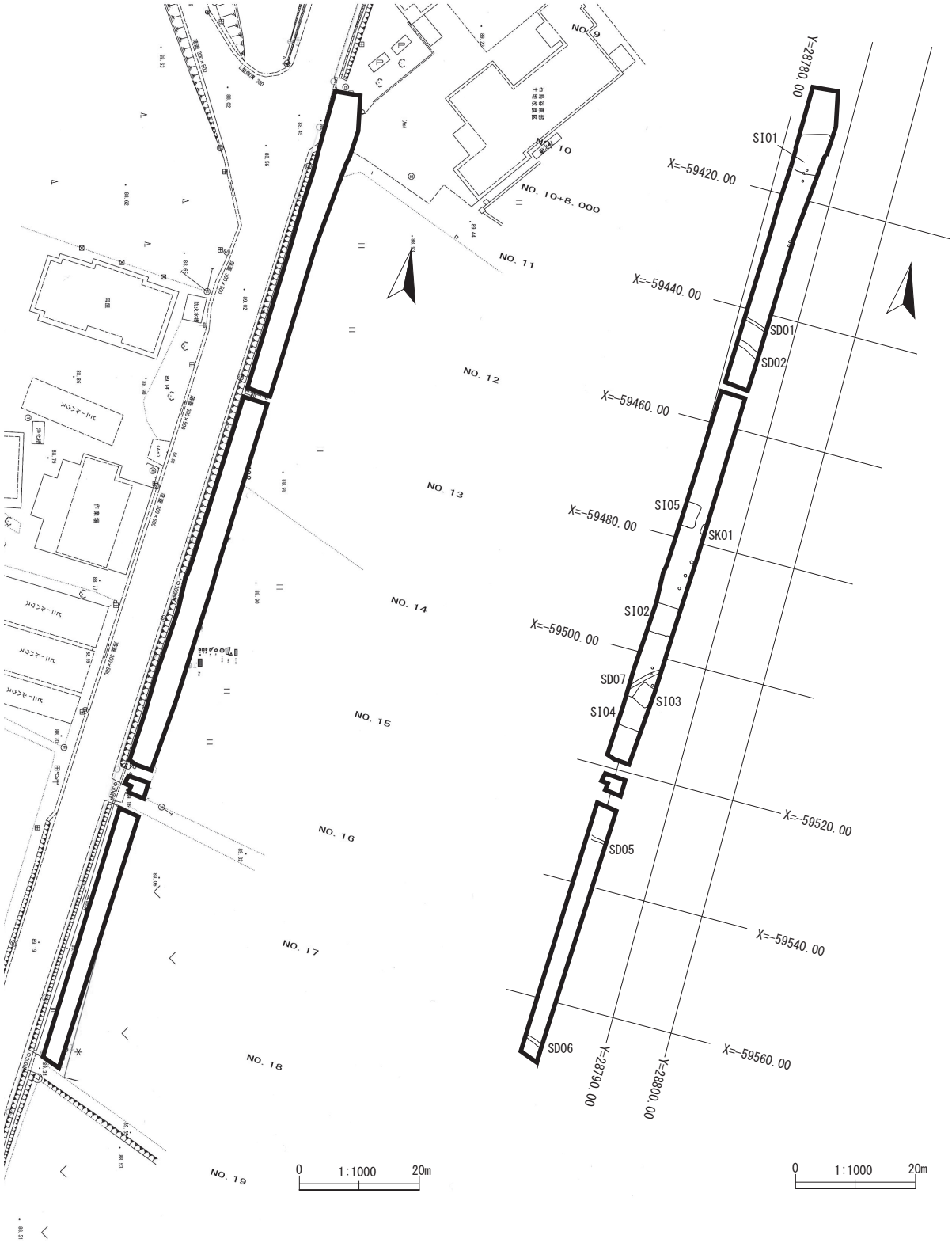
［検出］一次調査開始とともに、遺構の南側をⅣ層上面で検出した。調査区壁面より掘込面はⅢ層中と考えられる。現道の付替え工事後の第三次調査で遺構の北側部を検出した。

［規模］平面規模は約6.5ｍ ×3.8ｍ以上で、平面形は隅丸方形と考えられる。検出面からの深さは最大で約35㎝である。

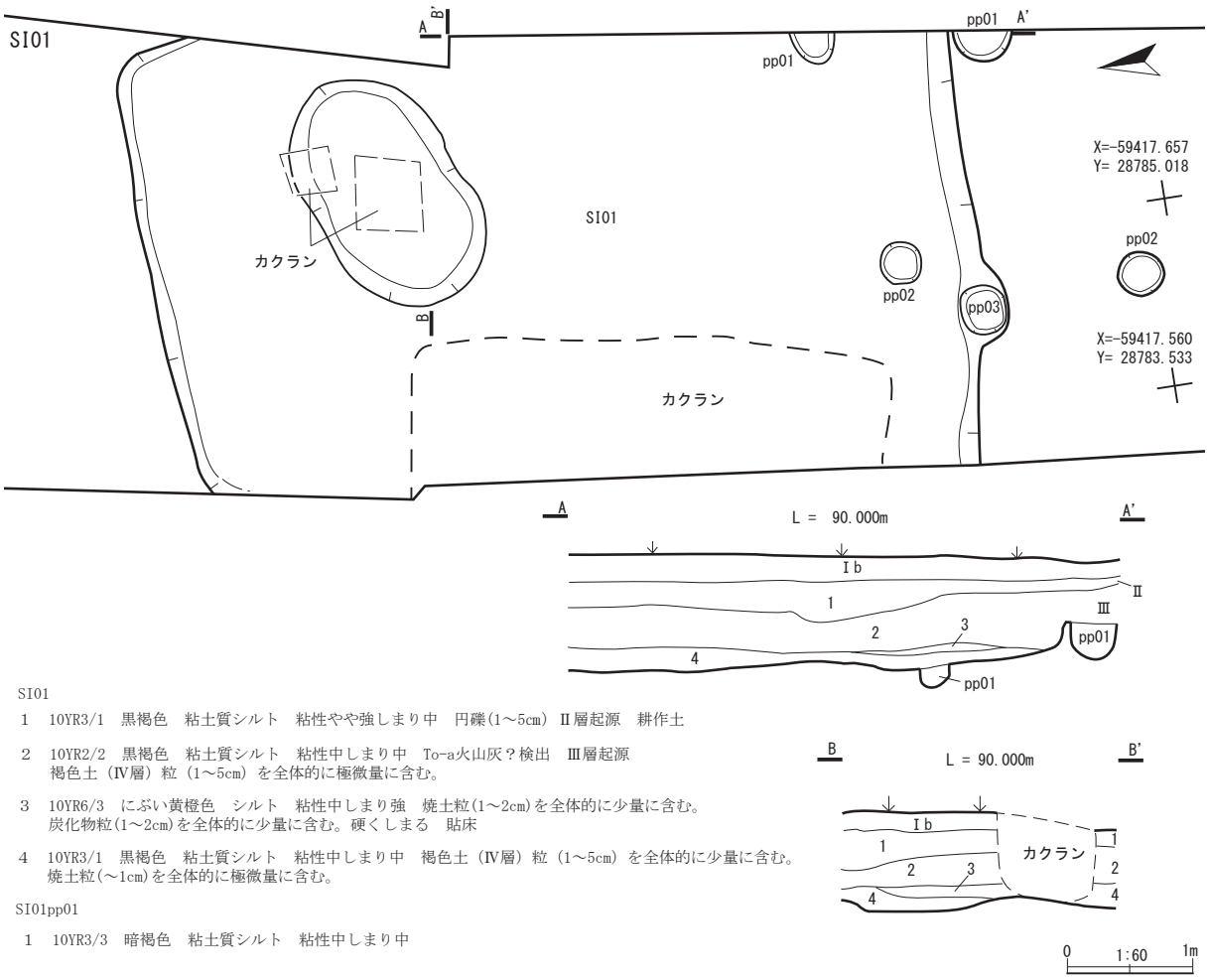
［堆積土］自然堆積で４層に分層した。１層は基本層Ⅱ層起源、２層は基本層Ⅲ層の住居内堆積土である。断面図上に示せていないが、中央部の２層中より915年降下とされる（町田ほか2003）十和田ａ火山灰（以下、To-a 火山灰）と考えられる黄白色シルトが途切れ

調査位置

遺構配置



第17図　上野々遺跡位置・遺構配置



SI01

1　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強しまり中　円礫(1～5cm) Ⅱ層起源　耕作土

2　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性中しまり中　To-a火山灰？検出　Ⅲ層起源
褐色土（Ⅳ層）粒（1～5cm）を全体的に極微量に含む。

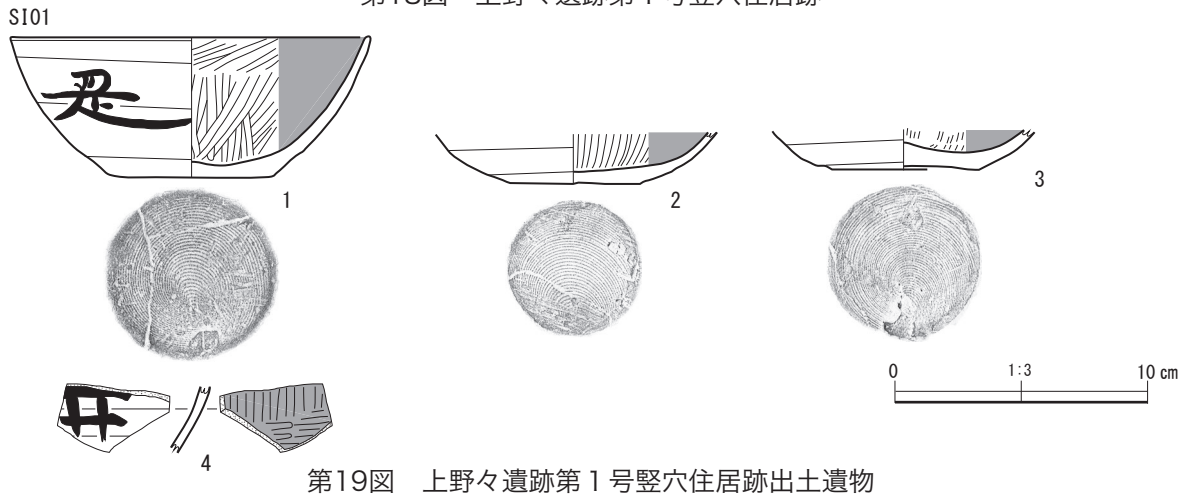
3　10YR6/3　にぶい黄橙色　シルト　粘性中しまり強　焼土粒(1～2cm)を全体的に少量に含む。
炭化物粒(1～2cm)を全体的に少量に含む。硬くしまる　貼床

4　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中しまり中　褐色土（Ⅳ層）粒（1～5cm）を全体的に少量に含む。
焼土粒(～1cm)を全体的に極微量に含む。

SI01pp01

1　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　粘性中しまり中

第18図　上野々遺跡第１号竪穴住居跡



第19図　上野々遺跡第１号竪穴住居跡出土遺物

第１表　上野々遺跡第１号竪穴住居跡出土遺物観察表

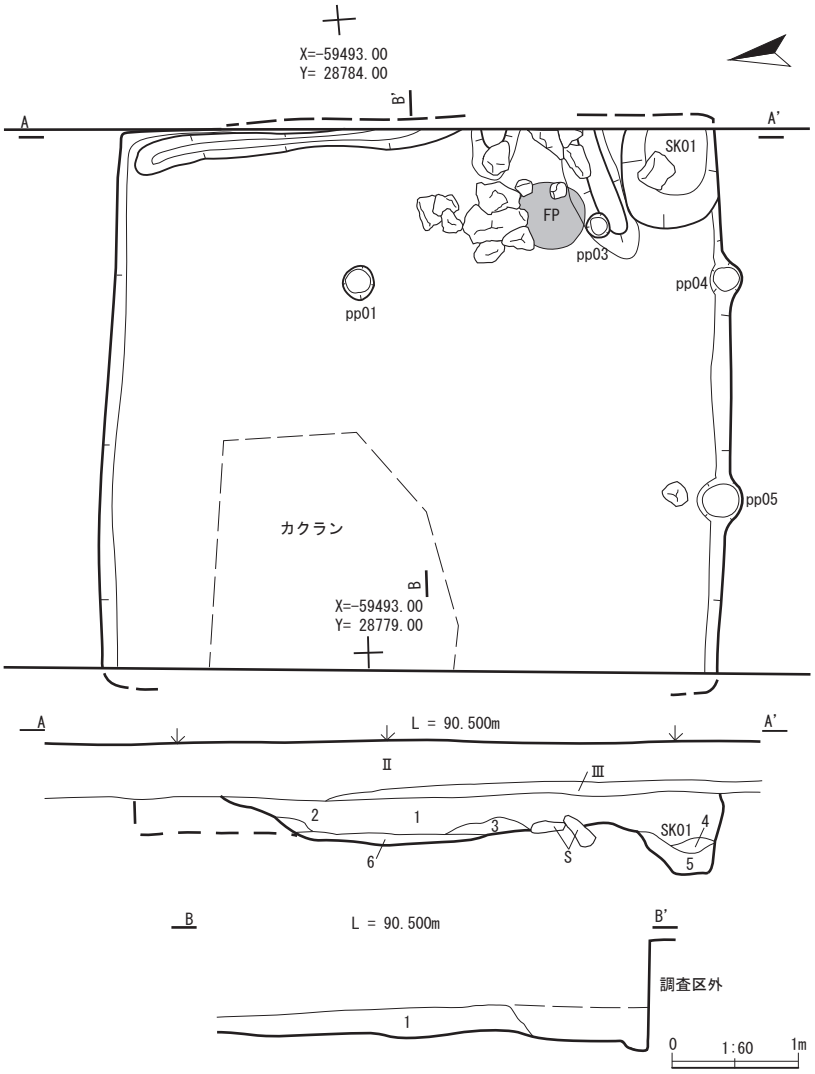
掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g） 口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	特　　徴
1	SI01 SI01 SI01pp01	床面 2 1	土師器	坏	口縁部～底部	14.5	5.7	6.8		外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、墨書「是」？、底部回転糸切り痕
2	SI01	2	土師器	坏	底部		(2.1)	5.1		外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、底部回転糸切り痕
3	SI01pp01 SI01	1 盛土	土師器	坏	底部		(1.6)	6.0		外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、底部回転糸切り痕
4	SI01	2	土師器	坏	体部					外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、墨書「井」？

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

途切れ、帯状に堆積するのを確認している。炭化粒・焼土粒を含み硬くしまる３層が貼床、４層が整地層と考えられる。
［床面］貼床がなされ、平坦に整地されている。掘方は全体的に凹凸がある。
［壁面］ほぼ垂直に立ち上がる。
［カマド］確認できていない。調査区外にあたるものと考えられる。
［付属施設］柱穴を３個検出した。いずれも断面形はＵ字状であり、うち１個は壁際で検出した。上屋を想定するには至らない。また、住居中央には浅いⅢ状の落込みがみられた。土坑であったかもしれない。
［出土遺物］１は床面より出土したロクロ土師器坏である。体部外面正位で「是」の墨書が確認できる。４もロクロ土師器坏片で墨書は「井」と考えられる。
［時期］To-a 火山灰と考えられる堆積土は一次堆積か二次堆積か判断には至らなかったため、床面出土遺物よりおおよそ９世紀後半～10世紀前半にあたると考えられる。

第２号竪穴住居跡（SI02）
［位置］平面直角座標系Ｘ軸−59,493ｍ、Ｙ軸28,779ｍ周辺に位置する。
［検出］Ⅳ層上面でⅢ層の落込みを検出した。調査区壁面より掘込面はⅢ層中と考えられる。
［規模］平面規模は約5.0ｍ ×4.3ｍ以上で南北の両壁面の一部のみ検出した。平面形はおそらく方形と考えられる。検出面からの深さは最大で約35㎝である。
［堆積土］自然堆積で SK01を含む６層に分層した。断面図上に示せていないが、中央部の１層中より To-a 火山灰と考えられる黄白色シルトが途切れ途切れ、帯状に堆積するのを確認している。堆積土にはそれぞれ炭化材や炭化物粒、焼土粒、焼土塊を含んでいることから、焼失住居と推定される。
［焼失状況］床面全面に不均一に焼土粒や炭化物の広がりが確認された。焼土塊はいずれも堆積土中より検出した。検出した炭化材は構築材の一部にあたるものと考えられる。
［床面］Ⅳ層を平坦に整地し床面としている。掘方には多少の凹凸が認められた。
［壁面］ほぼ垂直に立ち上がる。
［カマド］住居南東壁面際の床面より袖部の一部と燃焼部を検出した。袖部はⅣ層で両袖を作り出しであり、カマド周辺で礫が点在していたことから、カマドの芯材（袖石）として使用していたものと考えられる。また、袖部周辺より袖石を設置したと考えられる柱穴を検出した。
［付属施設］住居東隅に壁周溝や楕円形状の土坑の一部がみられた。土坑は検出面からの深さは約30㎝である。また、柱穴を５個検出した。いずれも断面形はＵ字状であり、うち２個は壁際で検出した。上屋を想定するには至らない。
［出土遺物］多くの遺物は１層中より出土した。５及び６はロクロ土師器の坏で、いずれも底部に台がつく。７は床面出土の甕で、８は砂底（櫻田隆 1993）の甕で作りは粗く粘土紐ごとに割れ目がみられる。９は土錘である。
［時期］To-a 火山灰と考えられる堆積土は一次堆積か二次堆積か判断には至らなかったため、出土遺物からおおよそ９世紀後半～10世紀前半にあたると考えられ、坏の底部の形態から10世紀前半に下る可能性がある。

SI02



1　7.5YR3/3 暗褐色 しまり疎 粘り弱 砂質シルト
　炭化物粒(2～5mm)焼土粒(2～5mm)を5～10%含む。

2　7.5YR3/3 暗褐色 しまり疎 粘り弱 砂質シルト
　炭化物ブロック・焼土ブロックを50～80%含む。

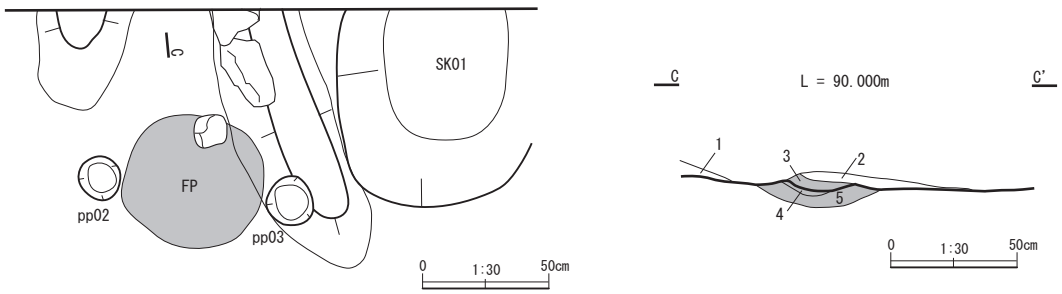
3　7.5YR5/4 にぶい褐色 しまり密 粘り中 クレイ
　炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

4　7.5YR3/6 暗褐色 しまり疎 粘り弱 クレイ
　炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

5　7.5YR3/3 暗褐色 しまり疎 粘り中 シルト
　炭化ブロック(1～2cm)をわずかに含む。

6　7.5YR3/3 暗褐色 しまり密 粘り強 シルト
　褐色粘土ブロック・炭化物粒・焼土粒を多量に含む。

SI02カマド



1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中しまり中　焼土粒(1～10mm)を全体的に少量に含む。
　炭化物粒(1～2cm)全体的に少量に含む。Ⅳ層粒(1～5mm)全体的に極微量に含む。

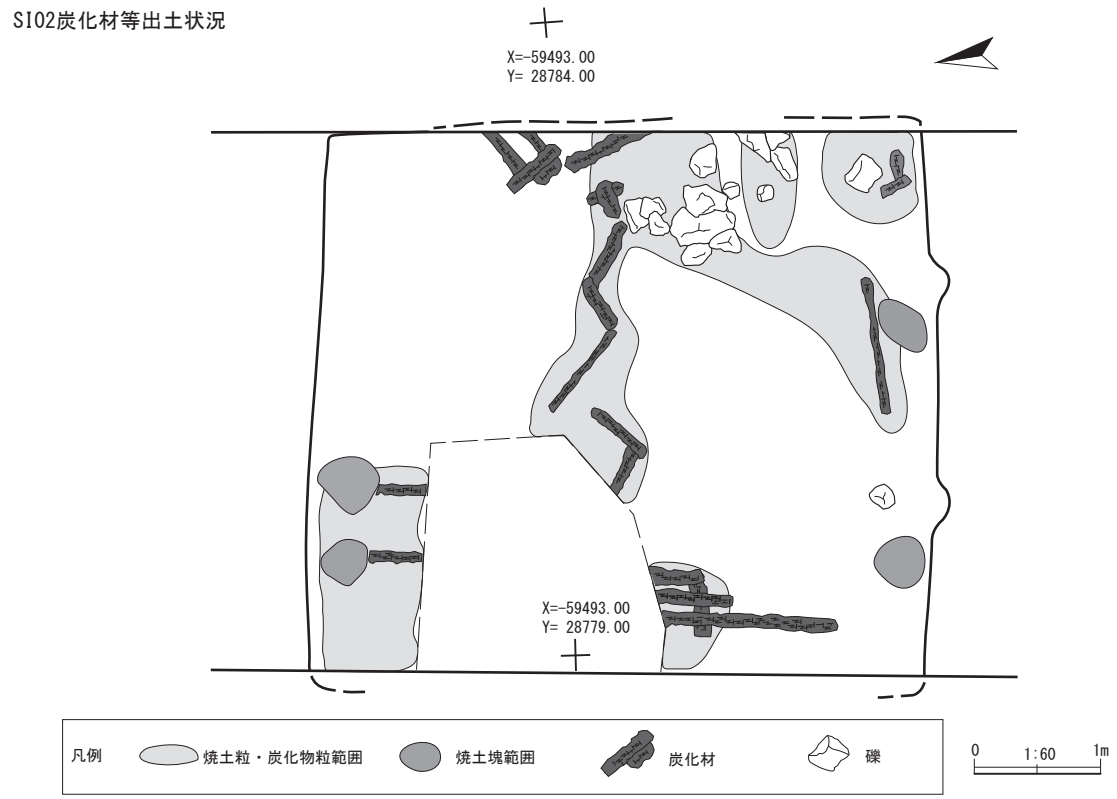
2　10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強しまり中　炭化物粒(1～2cm)を全体的に少量に含む。

3　5YR3/6 暗赤褐色 シルト 粘性やや弱しまり中 炭化物粒(1～5mm)を全体的に極微量に含む。被熱層

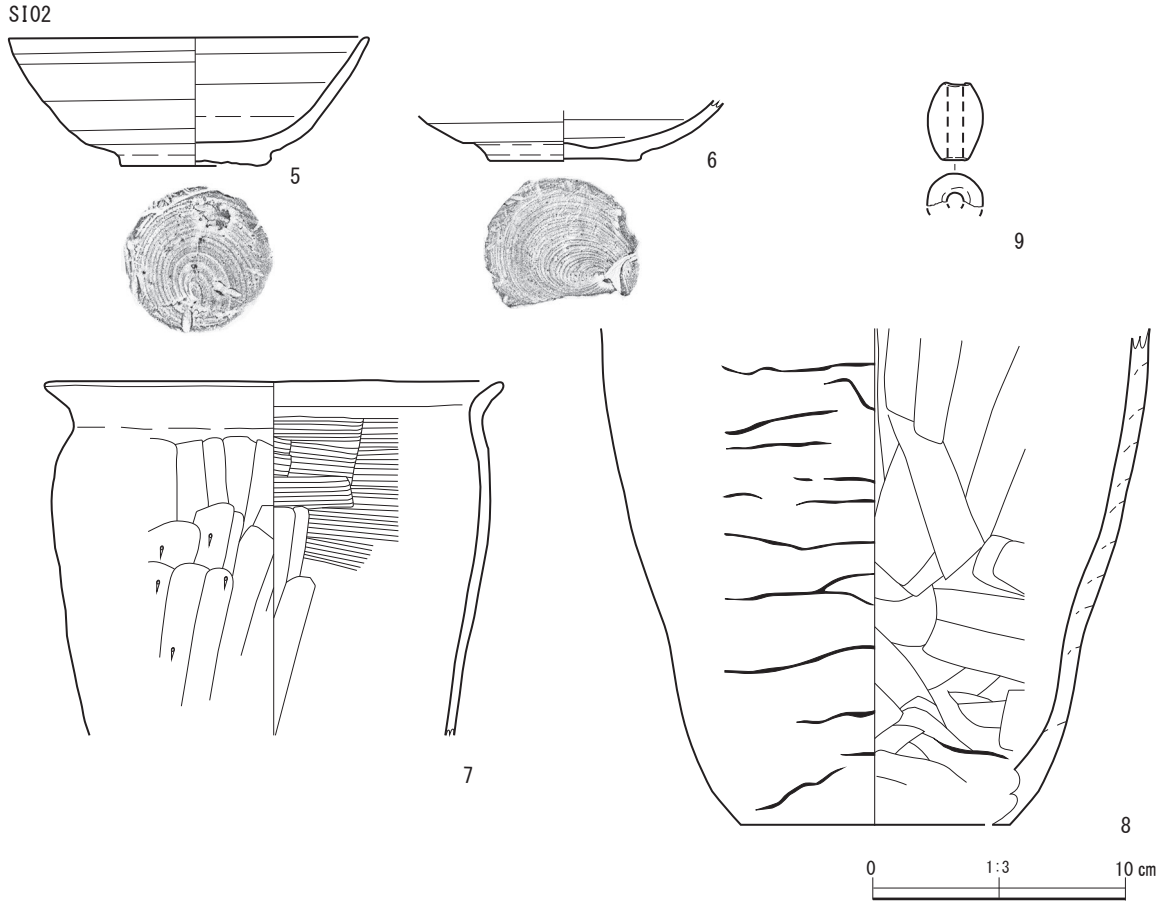
4　7.5YR7/4 にぶい橙 シルト 粘性弱しまり強 Ⅳ層被熱層

5　5YR3/6 暗赤褐色 シルト 粘性弱しまり強 Ⅳ層被熱影響層

第20図　上野々遺跡第２号竪穴住居跡(1)



第21図　上野々遺跡第２号竪穴住居跡 (2)



第22図　上野々遺跡第２号竪穴住居跡出土遺物

第２表　上野々遺跡第２号竪穴住居跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
5	SI02 SI02カマド	床面 2	土師器	坏	口縁部～底部	14.6	5.5	6.0		内外面ロクロナデ、回転糸切り痕
6	SI02	1	土師器	坏	底部		(2.3)	6.2		内外面ロクロナデ、回転糸切り痕
7	SI02 SI02カマド	床面 2	土師器	甕	口縁部～胴部	18.4	(14.2)			外面ヨコナデ、ナデ、ケズリ、内面ヨコナデ、ハケメ、ナデ
8	SI02南壁	埋土	土師器	甕	胴部～底部		(19.8)	[10.8]		内面ナデ、砂底土器、和積み痕
9	SI02西端	上層	土製品	土錘	半分欠	3.1	2.2		7.4	

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

第３号竪穴住居跡（SI03）

［位置］平面直角座標系Ｘ軸−59,507ｍ、Ｙ軸28,780ｍ周辺に位置する。

［検出］Ⅳ層上面で、暗褐色隅丸方形プランを検出した。住居北東側は調査区外である。

［重複関係］SI04と重複する。SI04の埋土を掘込み構築しており、本遺構が新しい。

［規模］平面規模は約3.5ｍ×3.1ｍ以上で、平面形はおそらく隅丸方形と考えられる。検出面からの深さは最大で約45㎝である。

［堆積土］５層に分層した。壁際４層以外はいずれも人為堆積と考えられる。また、北壁では直径約40㎝の焼土塊を２層中より検出した。

［床面］Ⅳ層を平坦に整地し床面としている。

［壁面］北壁・西壁は、僅かに外傾して立ち上がり、南壁・東壁はほぼ垂直に立ち上がる。

［カマド］確認できていない。北東側床面より直径約30㎝、厚さ５㎝の円形の地床炉を検出している。

［付属施設］柱穴や土坑は認められなかった。

［出土遺物］10～12はロクロ土師器の坏で12は墨書がみられる。14は土師器の鉢で胎土が細かい。15は床直上から出土した須恵器の長頸瓶である。

［時期］床面の出土遺物からおおよそ９世紀後半～10世紀前半にあたると考えられる。

第４号竪穴住居跡（SI04）

［位置］平面直角座標系Ｘ軸 -59,510ｍ、Ｙ軸28,780ｍ周辺に位置する。

［検出］Ⅳ層上面で、にぶい黄褐色隅丸方形プランを検出した。住居東側及び西側は調査区外である。

［重複関係］SI03と重複する。本遺構の埋土をSI03が掘込むため、本遺構が古い。

［規模］平面規模は約4.9ｍ×4.3ｍ以上で、平面形はおそらく隅丸方形と考えられる。検出面からの深さは最大で約40㎝である。

［堆積土］自然堆積で７層に分層した。１層は焼土で堆積後にこの場が焼かれたものと考えられる。範囲は記録していない。２層黒褐色土中より多くの遺物が出土した。また、東側床面は焼土粒・炭化粒を含む固く締まった粘土がみられた。

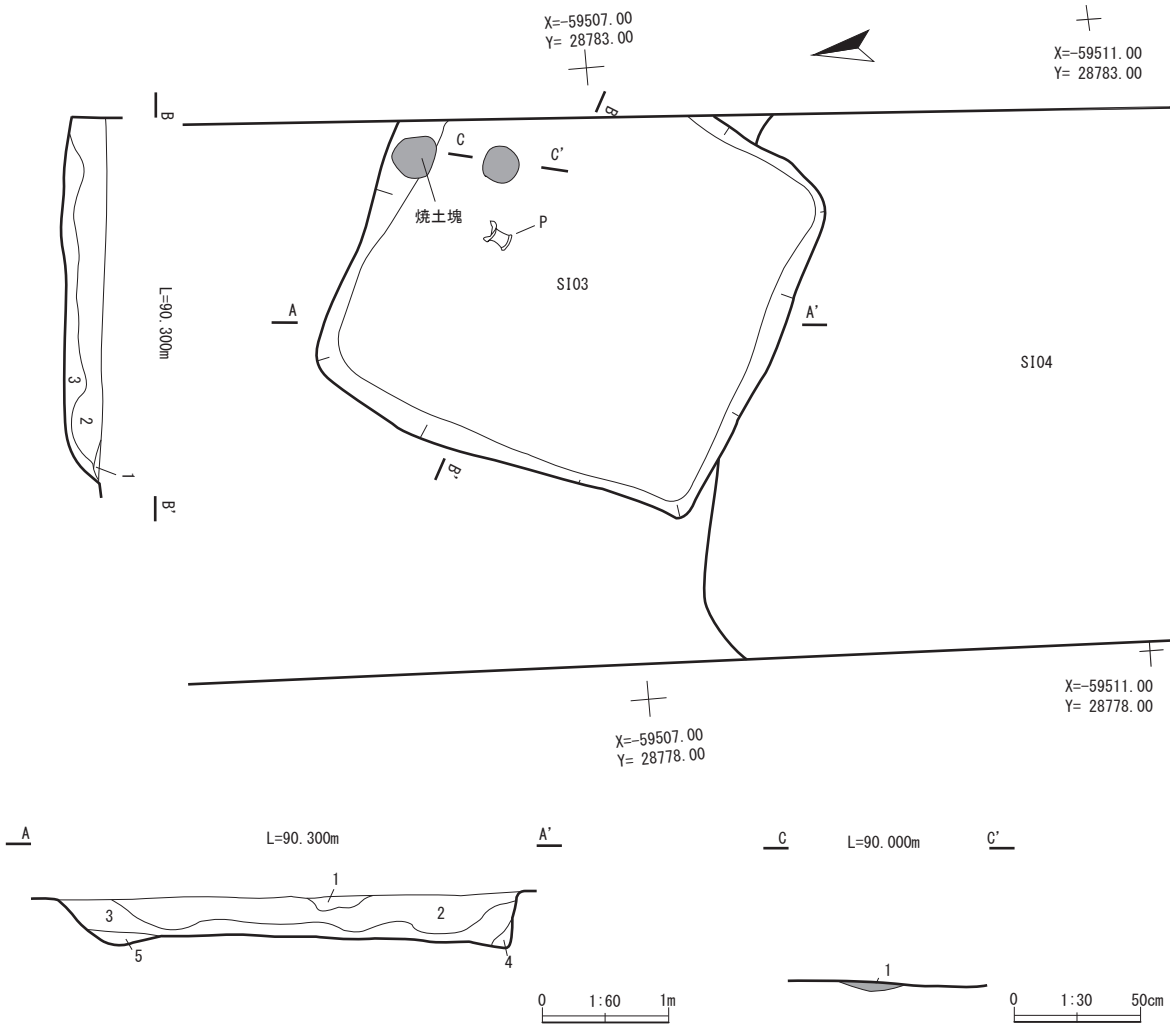
［床面］北壁は僅かに外傾する。

［壁面］南壁はほぼ垂直に立ち上がる。

［カマド］確認できていない。調査区外にあたるものと考えられる。

［付属施設］床面より５個の柱穴を検出した。いずれも断面形はＵ字状である。上屋を想

SI03



1　10YR2/3　黒褐色　砂質シルト　しまり疎　粘り弱
2　10YR3/4　暗褐色　シルト しまり密　粘り強
　10YR5/6　黄褐色シルトが混合(40%)　5YR3/6　暗赤褐色焼土・炭化物を含む
3　7.5YR2/2　黒褐色　シルト　しまり密　粘り強　焼土・炭化物を多く含む
4　10YR4/4　褐色　シルト　しまり疎　粘り強　壁崩落土
5　10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4　褐色土の混合　しまり密　粘り強　炭化物含む

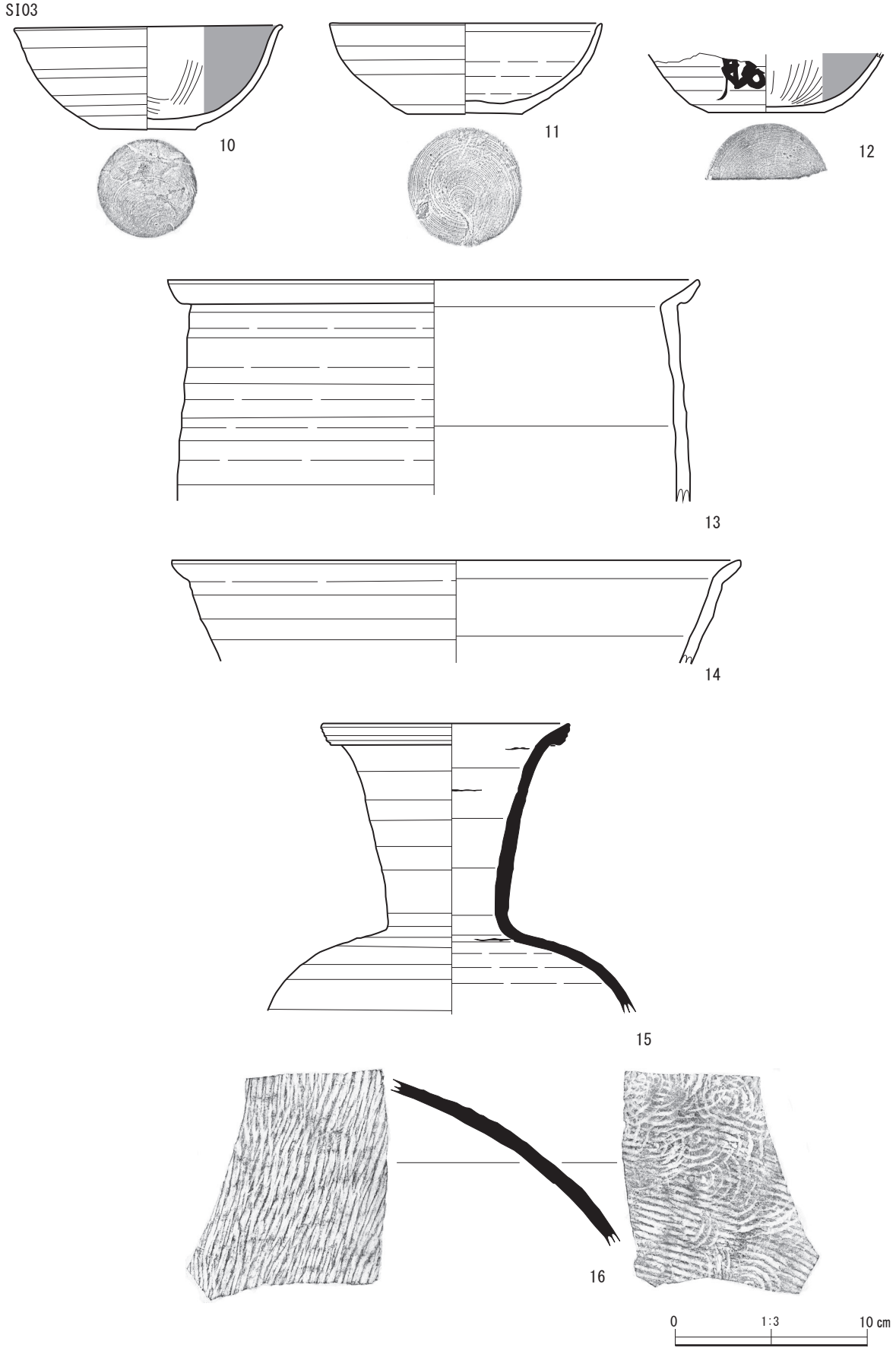
1　5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性やや弱いしまり中　被熱層

第23図　上野々遺跡第３号竪穴住居跡

第３表　上野々遺跡第３号竪穴住居跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
10	SI03	1	土師器	坏	口縁部～底部	14.1	5.5	5.2		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
11	SI03	1	土師器	坏	口縁部～底部	[14.3]	4.8	6.0		内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕
12	SI03	埋土	土師器	坏	体部～底部		(3.1)	[6.0]		外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」勝？、底部回転糸切り痕
13	SI03	埋土	土師器	甕	口縁部～胴部	[28.0]	(11.7)			内外面ロクロナデ
14	SI03	埋土	土師器	鉢	口縁部～胴部	[30.0]	(5.4)			内外面ロクロナデ
15	SI03	床面1	須恵器	長頸瓶	口縁部～胴部	[12.9]	(15.2)			内外面ロクロナデ
16	SI03	1	須恵器	甕	胴部					内外面タタキ

計測値の［　］は推定値、(　) は残存値を表す。

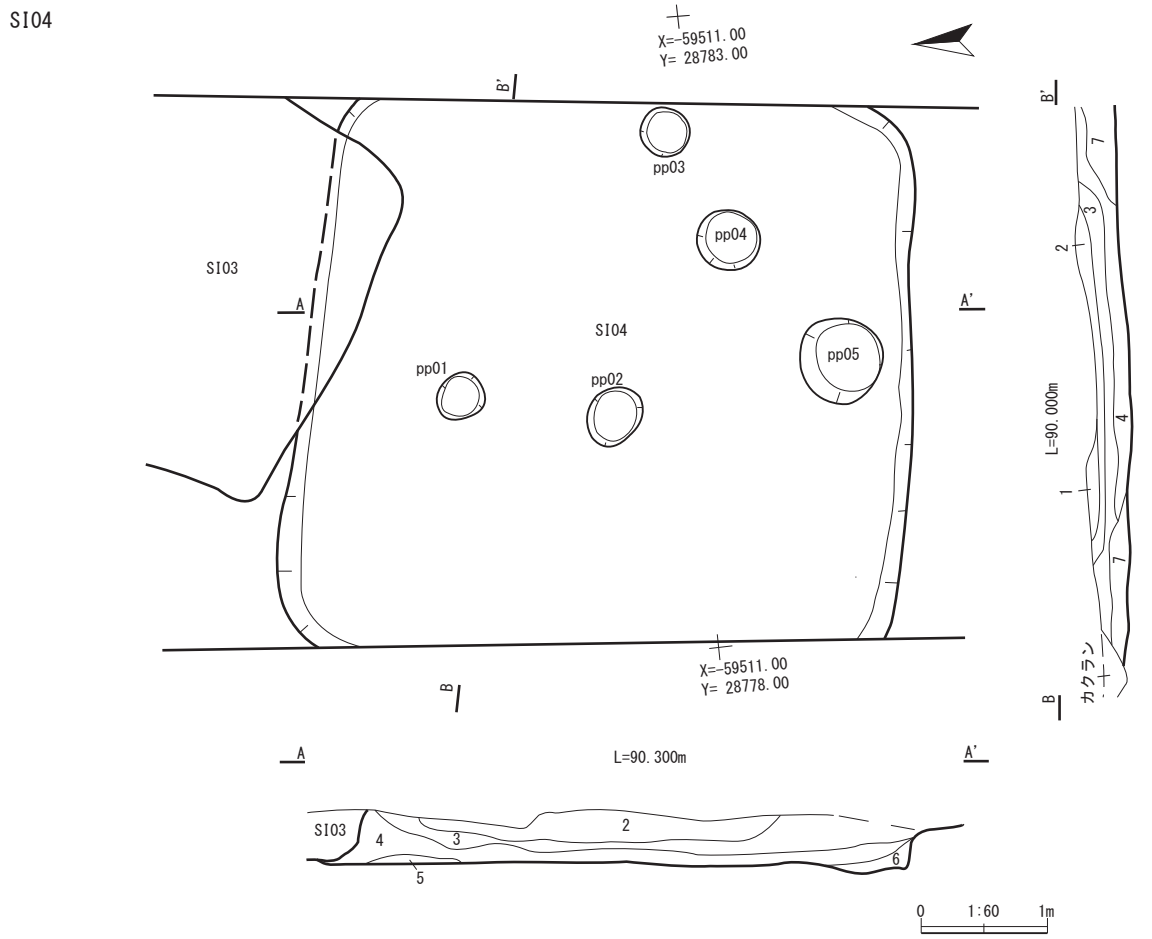


第24図　上野々遺跡第３号竪穴住居跡出土遺物

定するには至らない。

［出土遺物］21～32はロクロ土師器の坏で、21・24～28・32で体部に墨書が確認できる。21は「月」に「束」、24は「八」または記号かもしれない。33は須恵器の坏で胎土は粗い。34～39は甕・壺・鉢・長頸瓶で、37の甕の口縁部下には波状文が施文されている。40は石鍬か。刃部は尖ることなく丸みをもつ。下記の遺物と同時期のものかもしれない。また、17～20は埋土上層から出土したもので時期がやや遡ると考えられる遺物である。17は体部の段が明瞭な高坏、18は坩で外面ミガキ調整がなされている。19及び20は壺と考えられ、20も19同様に胴部に丸みをもつと推測される。20は外面ミガキ調整がなされている。これらの遺物の帰属時期はおおよそ５世紀前半（古墳時代前期末～中期前葉か）にあたると考えられる。

［時期］出土遺物からおおよそ９世紀後半～10世紀前半にあたると考えられる。５世紀前半と考えられる遺物については、流れ込みと判断した。



1　5YR4/8　赤褐色　　しまり密　　粘り強　　焼土
　下位に炭化材をスジ状に含む

2　10YR2/2　黒褐色　　しまりやや密　　粘り強　　砂質シルト
　焼土塊をスジ状に含む(5%)　　炭化物多量に含む（スジ状や斑に）
　土器片多量に含む　　オレンジパミスを含む

3　10YR4/3　にぶい黄褐色　　しまり密　　粘り強　　シルト
　炭化物を多量に含む

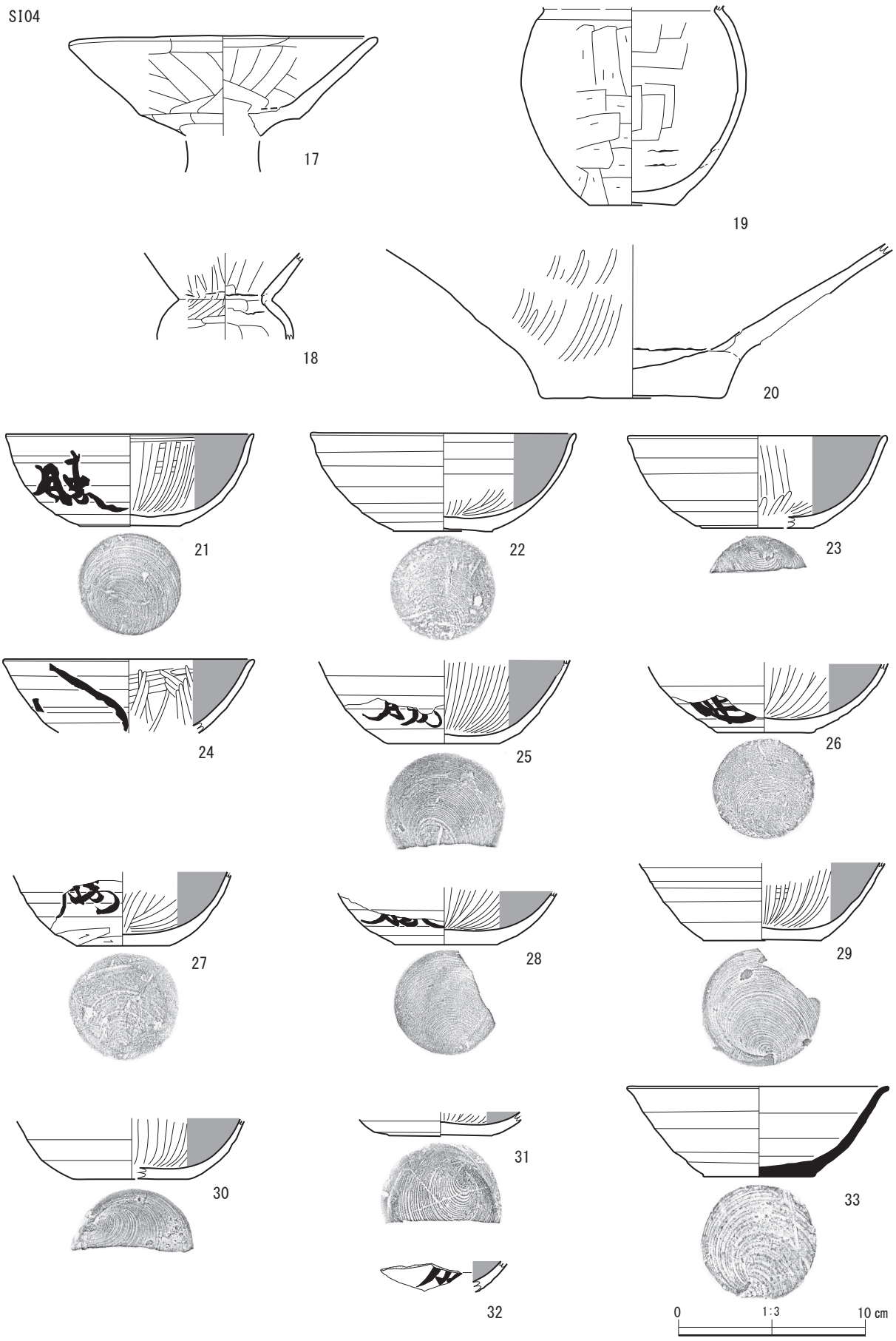
4　10YR4/3 暗褐色　　しまり密　　粘り強　　シルト
　炭化物を多量に含む（一部スジ状）遺物（土器片）を多く含む

5　10YR4/4　　褐色シルト　と 炭化物の混合土　　しまり密　　粘り弱
　貼り床もしくは床の焼成した跡

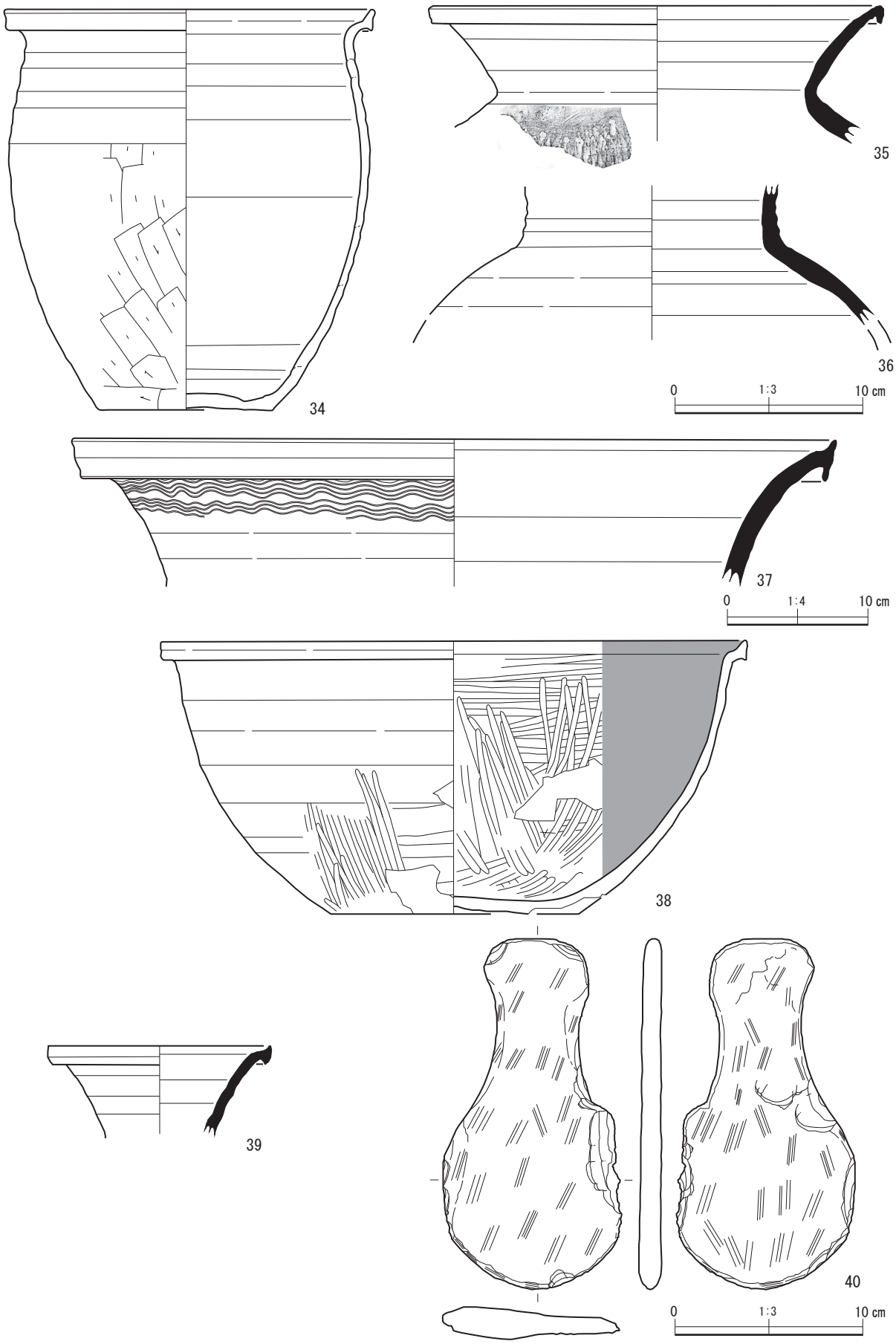
6　2.5Y5/3　　黄褐色シルトに炭化物が混合する
　しまり極密　　粘り強　人為的堆積層

7　10YR4/6　褐色　　しまり極密　　粘り強　　シルト　炭化物微量に含む

第25図　上野々遺跡第４号竪穴住居跡



第26図　上野々遺跡第４号竪穴住居跡出土遺物(1)



第27図　上野々遺跡第４号竪穴住居跡出土遺物(2)

第４表　上野々遺跡第４号竪穴住居跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
17	SI04	上層	土師器	高坏	口縁部～体部	16.8	(5.4)			内外面ヘラナデ
18	SI04	上層	土師器	坩	胴部		(4.8)			外面ミガキ、内面ヘラナデ
19	SI04	上層	土師器	壺？	頸部～底部		(10.8)	4.7		外面ヘラケズリ、底面ナデ、内面ヘラナデ、平安時代の甕か？
20	SI04	上層	土師器	壺？	胴部～底部		(8.4)	10.0		外面ミガキ、内面磨耗
21	SI04	l	土師器	坏	口縁部～底部	[13.2]	5.0	5.5		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「月」に「束」？
22	SI04	埋土	土師器	坏	口縁部～底部	[14.2]	5.3	5.4		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
23	SI04	上層	土師器	坏	口縁部～底部	[14.0]	5.0	[6.0]		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
24	SI04	上層	土師器	坏	口縁部～体部	[13.6]	(4.0)			外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「八」？
25	SI04	上層	土師器	坏	体部～底部		(4.5)	[6.0]		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「勝」？
26	SI04	埋土	土師器	坏	体部～底部		(3.7)	5.5		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」
27	SI04	埋土	土師器	坏	体部～底部		(4.0)	5.0		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「勝」？
28	SI04	埋土	土師器	坏	体部～底部		(2.8)	5.5		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「月」に「束」？
29	SI04	埋土	土師器	坏	体部～底部		(4.2)	6.4		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
30	SI04	上層	土師器	坏	体部～底部		(3.3)	[6.2]		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
31	SI04	埋土	土師器	坏	底部		(1.3)	5.6		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
32	SI04	上層	土師器	坏	体部					外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理、墨書「□」「月」に「□」？
33	SI04	埋土	須恵器	坏	口縁部～底部	14.0	4.9	6.0		外面摩耗、底部回転糸切り痕、内面ロクロナデ
34	SI04	l 上層	土師器	甕	口縁部～底部	[19.8]	21.6	9.4		外面ヘラケズリ、ロクロナデ、底面ナデ、内面ロクロナデ
35	SI04	上層	須恵器	甕	口縁部～頸部	[24.2]	(7.4)			内外面ロクロナデ外面タタキ
36	SI04	上層	須恵器	壺	頸部～胴部		(8.8)			内外面ロクロナデ、自然釉付着
37	SI04	l 上層	須恵器	甕	口縁部～頸部	[54.8]	(10.6)			内外面ロクロナデ、波状文
38	SI04	上層	土師器	鉢	口縁部～底部	[31.4]	(14.7)	[13.5]		外面ロクロナデ、ミガキ、内面ミガキ、黒色処理
39	SI04	上層	須恵器	長頸瓶	口縁部～頸部	[12.0]	(4.9)			内外面ロクロナデ
40	SI04	上層	石器	石鍬	完形	18.9	9.6	1.6	319.5	鍬状石製品？

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

第５号竪穴住居跡（SI05）

［位置］平面直角座標系Ｘ軸−59,4750ｍ、Ｙ軸28,781ｍ周辺に位置する。

［検出］Ⅳ層上面で、隅丸方形プランを検出した。住居西側は調査区外である。

［規模］平面規模は約4.2ｍ×2.5ｍ以上で、平面形は隅丸方形と考えられる。検出面からの深さは最大で約20㎝である。

［堆積土］３層に分層した。１層は混土の多い人為堆積層、２層はⅣ層の土を起源とする黄褐色土の貼床面、３層は整地層と考えられる。

［床面］貼床がなされ平坦に整地されている。掘方は全体的に凹凸がある。

［壁面］北・南・東壁面、検出した全ての壁面が緩やかに外傾して立ち上がる。

［カマド］確認できていない。調査区外と考えられる。

［付属施設］住居東隅に土坑が１基、柱穴が２個検出された。土坑の規模は約1.1ｍ ×0.7ｍの楕円形で、深さは約40㎝、堆積土は住居内の埋土と同様である。柱穴は上屋を支えていたためであろうか、いずれも下端が東側にオーバーハングしている。上屋を想定するには至らない。

［出土遺物］41・42の甕は床面出土の資料である。41は頸部に段を持ち、口縁部は外湾する。

［時期］床面の出土遺物からおおよそ９世紀後半〜10世紀前半にあたると考えられる。

第１号土坑（SK01）

調査区の南北方向ほぼ中央、平面直角座標系Ｘ軸−59,480ｍ、Ｙ軸28,785ｍの北北西方向、東側調査区境で検出した。平面形や規模は一部の検出のため明確でないが、検出部分より楕円形と推測され、検出された一辺は1.5ｍである。壁の立ち上がりは、僅かに外傾し、床面は平坦で固く締まり隅丸方形を成す。埋土は単層で人為堆積である。遺物は出土せず、帰属時期は不明である。

溝跡（SD01・02・05〜07）

調査区全体で、計５条の溝跡をいずれもⅣ層上面で検出した。いずれも全様は不明であり、幅は約40〜90㎝まである。いずれもⅢ層起源の黒褐色土を埋土としている。壁の立ち上がりは緩やかであり、断面形はⅢ状のものが多い。いずれの溝跡も遺物は出土せず、帰属時期は不明である。

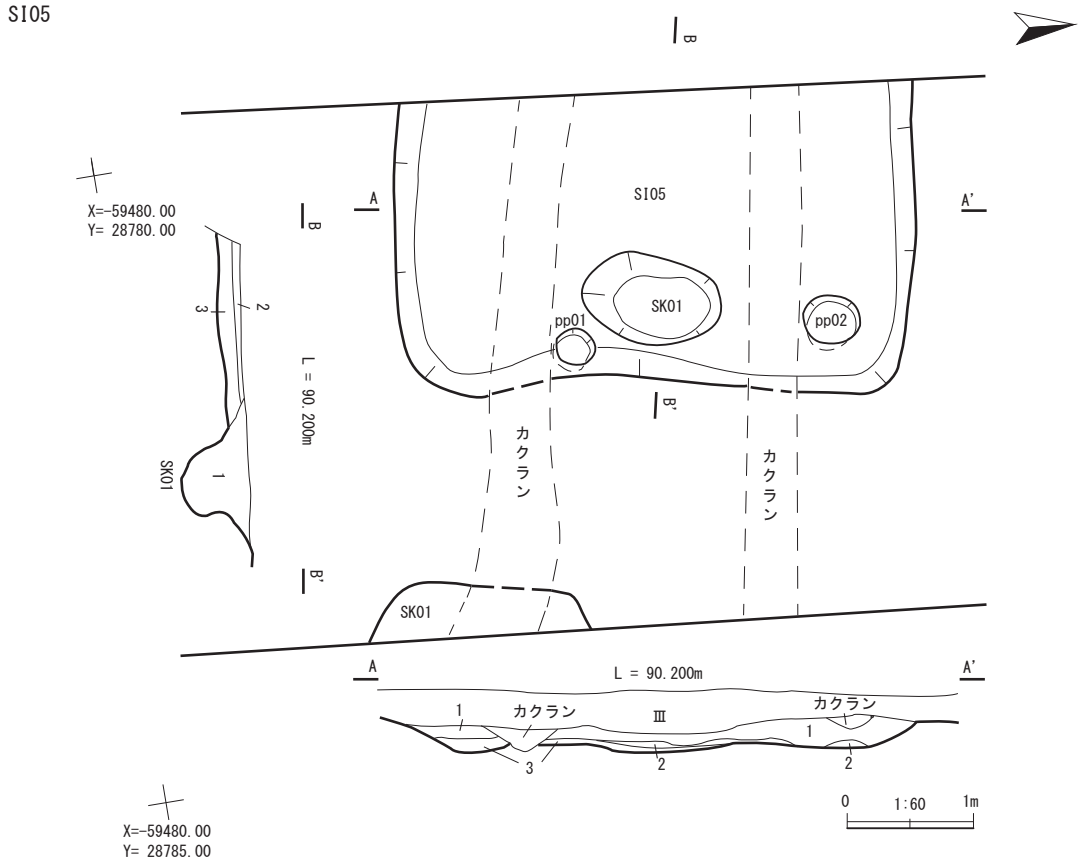
柱穴（pp01〜08）

調査区北側のSI01南側やSI02北側、SI03北側より計８個検出された。いずれもⅣ層上面で検出した。径は約40〜60 ㎝、深さは約30〜40㎝で、いずれも断面形はＵ字状である。

第５表　上野々遺跡第５号竪穴住居跡出土遺物観察表

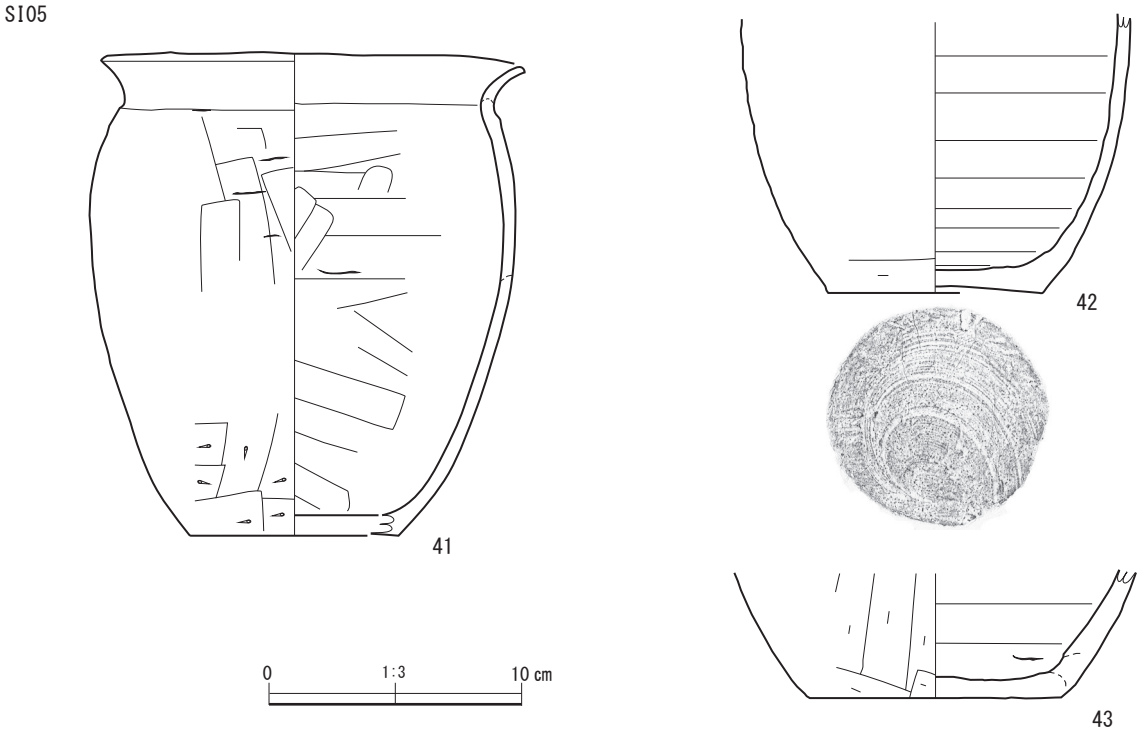
掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（㎝・ｇ）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
41	SI05	床面1	土師器	甕	口縁部〜底部	16.6	19.3	［8.2］		外面ヘラケズリ、ヘラナデ、ヨコナデ、内面ヘラナデ、ヨコナデ
42	SI05	床面	土師器	甕	胴部〜底部			8.6		外面ヘラケズリ、底面ナデ、内面ロクロナデ、底部回転糸切り痕
43	SI05	1	土師器	甕	底部			［10.0］		外面ヘラケズリ、底面ナデ、内面ロクロナデ

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。



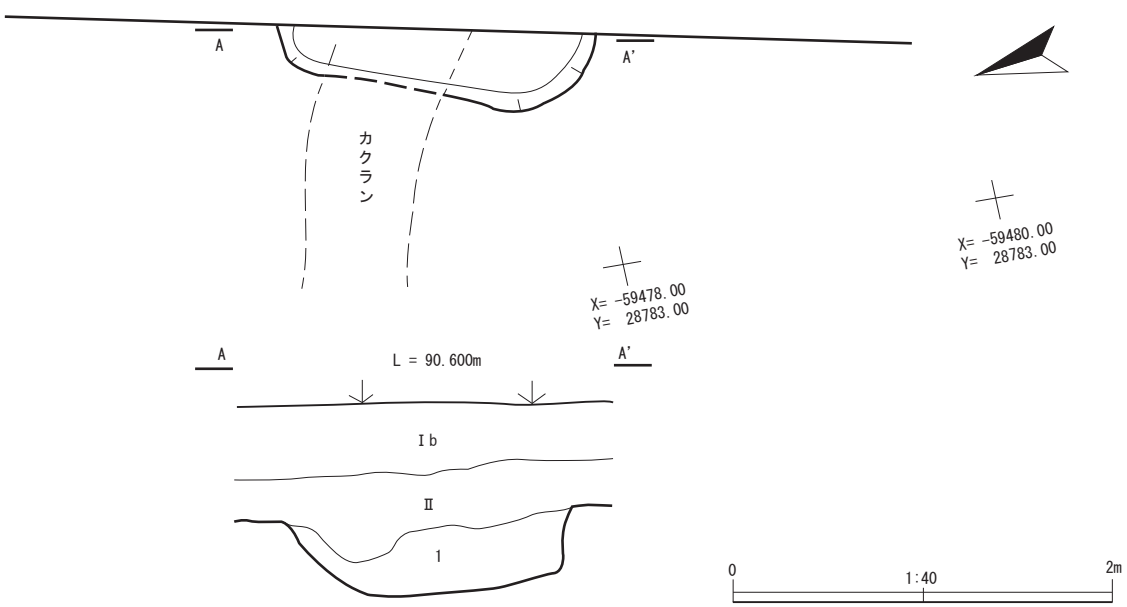
1　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　粘性中しまり中
　Ⅳ層粒（1～3cm）を全体的に少量に含む。炭化物粒（1～5cm）を
　全体的に極微量に含む。埋戻し土か。
2　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘土質シルト　粘性中しまり強　Ⅳ層起源　貼床
3　10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　粘性中しまりやや中
　Ⅳ層粒（1～2cm）を全体的に極微量に含む。貼床整地層

第28図　上野々遺跡第５号竪穴住居跡



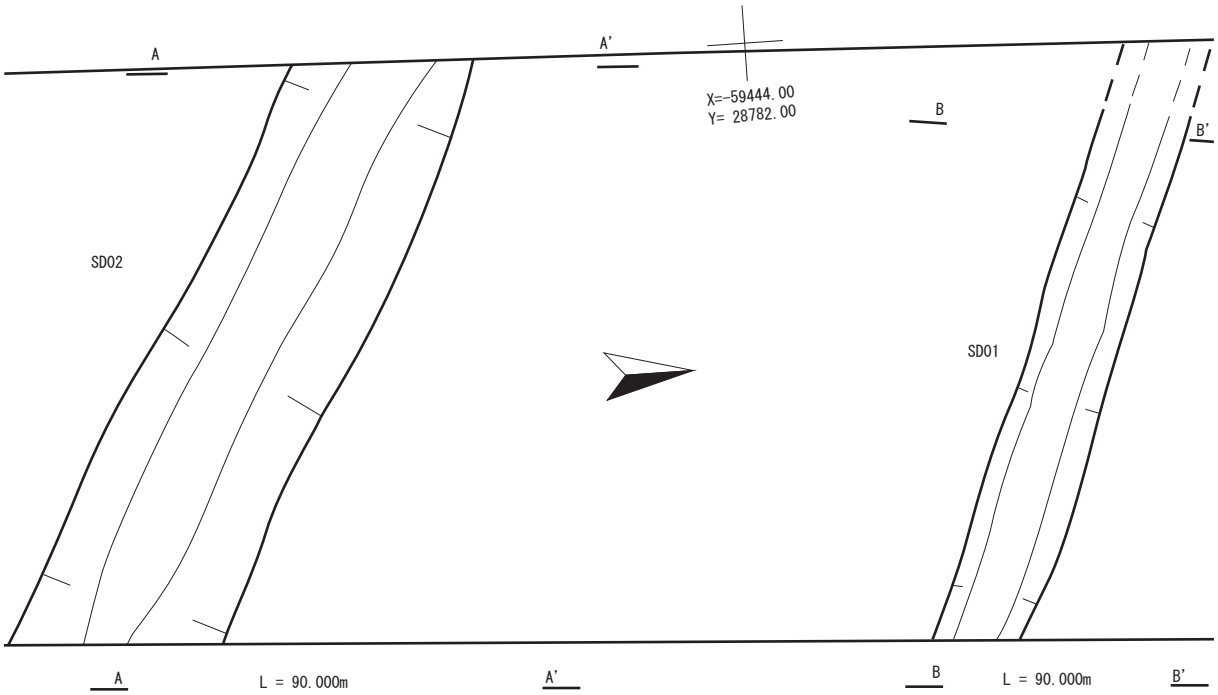
第29図　上野々遺跡第５号竪穴住居跡出土遺物

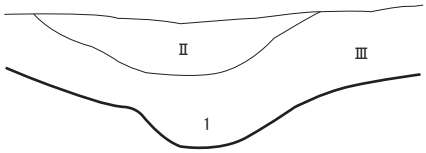
SK01



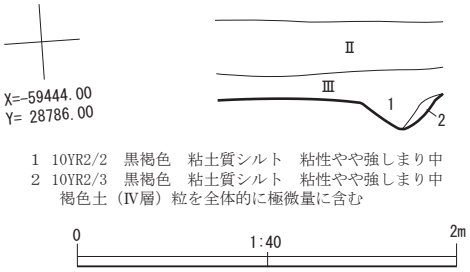
1　10YR2/3 黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強しまりやや強
　Ⅳ層粒（1～2㎝）を全体的に少量含む

SD01・SD02



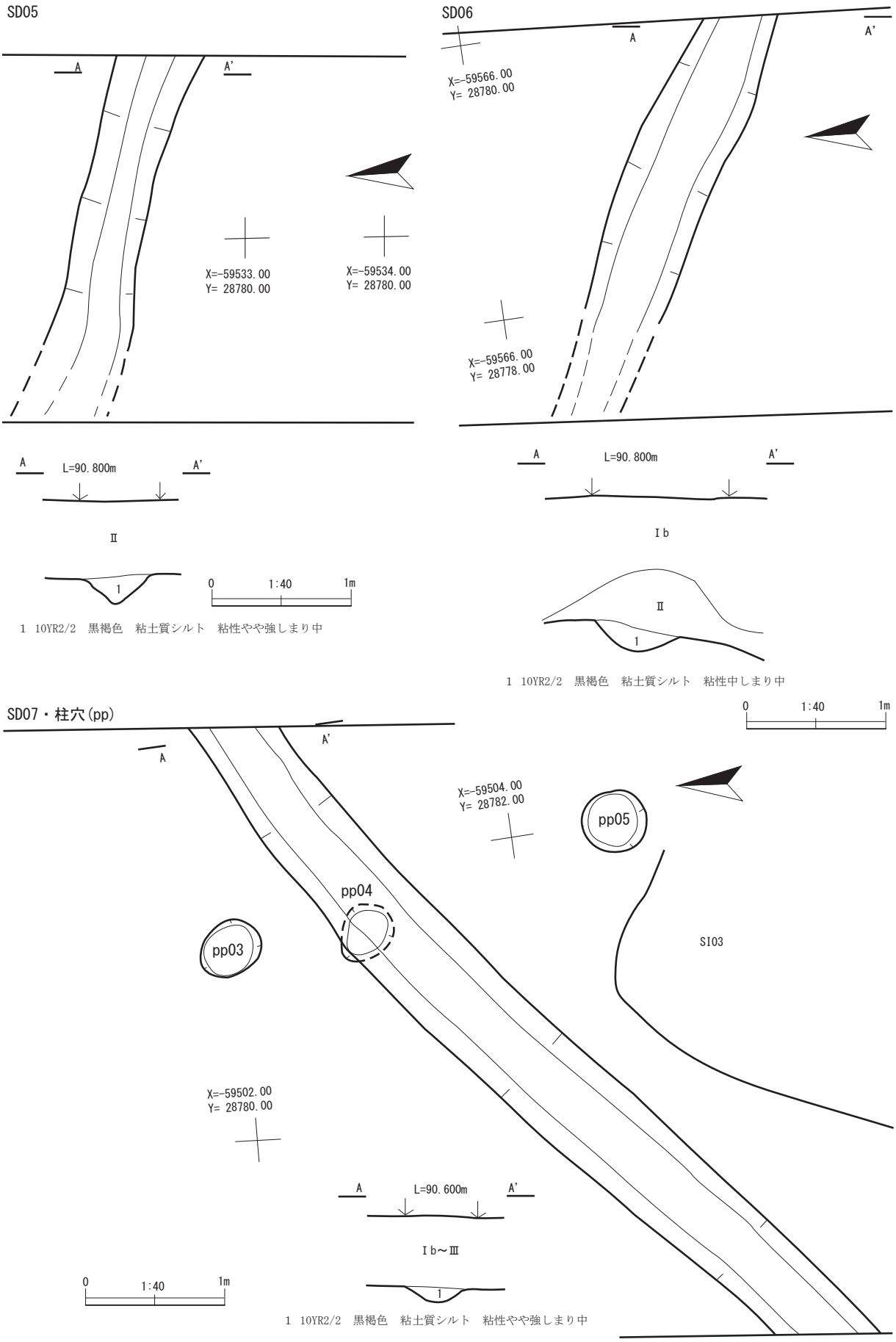


1　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強しまり中

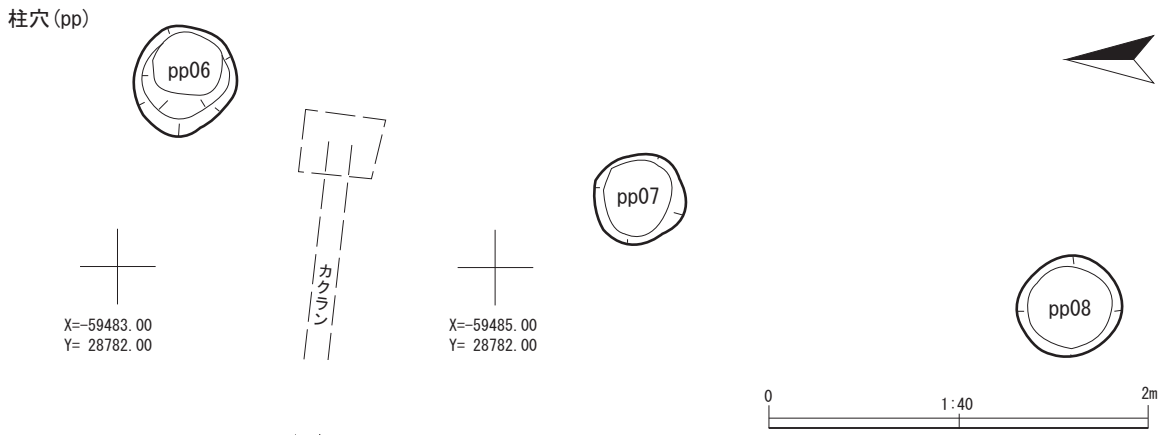


1　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強しまり中
2　10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強しまり中
　褐色土（Ⅳ層）粒を全体的に極微量に含む

第30図　上野々遺跡検出土坑・溝跡



第31図　上野々遺跡検出溝跡・柱穴



第32図　上野々遺跡検出柱穴

第６表　上野々遺跡柱穴属性表

遺構名（付属遺構）		長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）
SI01	pp01	0.35	(0.25)	0.15
	pp02	0.35	0.33	0.17
	pp03	0.40	0.35	0.26
SI02	pp01	0.28	0.25	0.36
	pp02	0.18	0.18	0.27
	pp03	0.20	0.18	0.21
	pp04	0.25	0.25	0.63
	pp05	0.35	0.35	0.58
SI04	pp01	0.40	0.35	0.15
	pp02	0.50	0.42	0.22
	pp03	0.40	0.40	0.13
	pp04	0.50	0.45	0.31
	pp05	0.58	0.55	0.24
SI05	pp01	0.32	0.30	0.14
	pp02	0.45	0.40	0.20
pp01		0.45	(0.25)	0.30
pp02		0.37	0.35	0.27
pp03		0.48	0.38	0.32
pp04		0.48	0.38	0.22
pp05		0.48	0.47	0.27
pp06		0.58	0.54	0.24
pp07		0.50	0.50	0.48
pp08		0.56	0.52	0.43

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

建物跡を想定できる配置はないが、住居跡周辺にみられる。SI02北側の柱穴については直線上に並ぶようにもみえる。pp01より長頸瓶片が出土しており、周辺の住居跡の帰属時期と同一と考えられる。他の柱穴で遺物は出土せず帰属時期は不明である。

発掘区出土遺物

出土遺物のほとんどは遺構内であり遺構外は少ない。SI03・04間に出土した遺物が多くどちらかの遺構に帰属する可能性が高い。45・46は縄文土器片で45は縄文時代中期末葉～後期初頭に位置づけられる。47～50は土師器の坏で50は台付きである。51は須恵器甕の底部である。

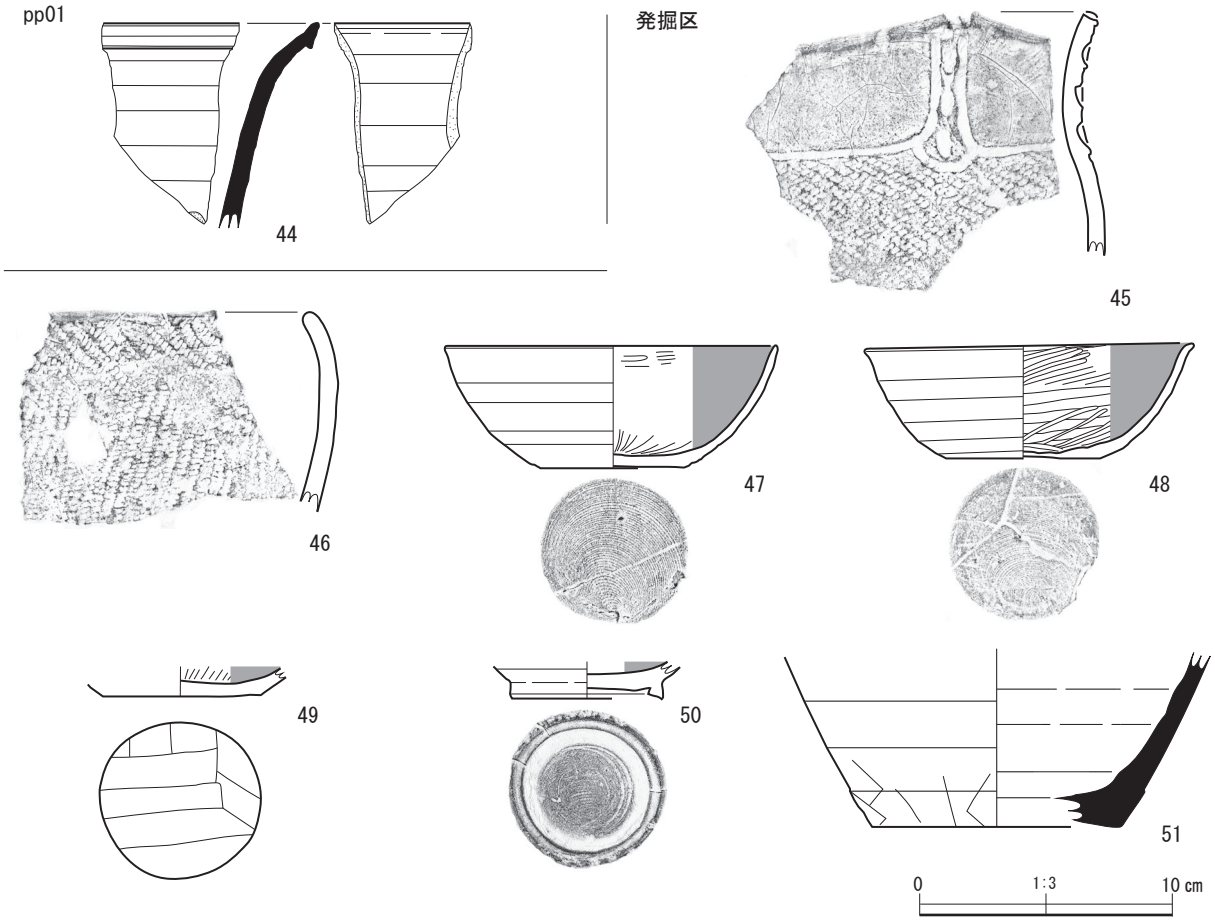
まとめ

調査の結果、北上川左岸の低位段丘面に営まれた古代の集落跡であることが判明した。検出された遺構は竪穴住居跡５棟、土坑1基、溝跡５条、柱穴８個で、竪穴住居跡の帰属時期は出土遺物からおおよそ９世紀後半～10世紀前半にあたるものと考えられる。検出した竪穴住居跡５棟には切合い関係や遺物の特徴から若干時期差があると推測される。本遺跡南側の貝の淵Ⅰ遺跡においても古代の集落跡が確認されていることから（佐々木信一2005）、本遺跡周辺の段丘面は古代の集落を営むうえで適地であったと考えられる。

また、SI04から出土した５世紀前半（古墳時代前期末～中期前葉か）と考えられる遺物が出土したことから、調査区周辺に同時期の遺跡が存在していることが想定される。県内では出土資料が乏しい時期のものであるため、同時期の県内の動向を探る上で追加の資料として評価したい。

〈参考文献〉

青森県史編さん古代部会　2008 『青森県史　資料編　古代２　出土文字資料』青森県
井上雅孝　2007 「岩手県における古墳時代前期の土器様相」『岩手考古学』第18号　岩手考古学会
櫻田隆　1993 「『砂底土器考』」『翔古論聚』久保哲二先生追悼論文集刊行会
佐々木信一　2005 『貝の淵Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第428集
辻秀人ほか　2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部
町田洋・新井房夫　2003 『新編　火山灰アトラス - 日本列島とその周辺 - 』東京大学出版会



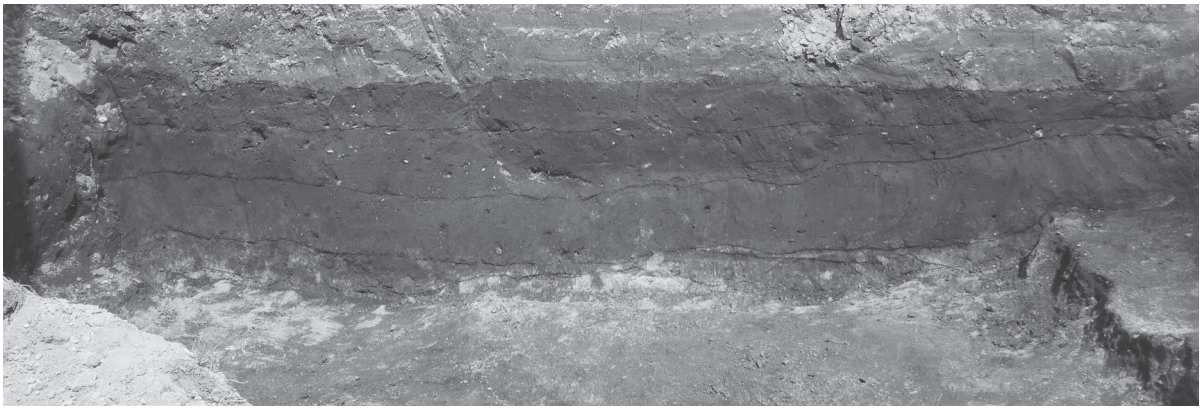
第33図　上野々遺跡柱穴・発掘区出土遺物

第７表　上野々遺跡柱穴・発掘区出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
44	pp01	埋土	須恵器	長頸瓶	口縁部～頸部		(8.3)			内外面ロクロナデ
45	発掘区	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部					刺突、沈線、LR ヨコ
46	発掘区	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部					LR タテ、ヨコ
47	発掘区 (SI03・04間)	Ⅱ	土師器	坏	口縁部～底部	13.0	4.9	5.7		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
48	発掘区	Ⅲ	土師器	坏	口縁部～底部	13.0	4.7	6.0		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
49	発掘区	盛土	土師器	坏	底部		(1.2)	6.4		外面ロクロナデ、底部ナデ、内面ミガキ、黒色処理、
50	発掘区 (SI03・04間)	Ⅱ	土師器	坏	底部		(1.5)	6.0		外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、内面ミガキ、黒色処理
51	発掘区 (SI03・04間)	Ⅲ	須恵器	甕	底部		(7.0)	[10.0]		内外面ロクロナデ、底部ケズリ

計測値の［　］は推定値、(　) は残存値を表す。

１号竪穴住居跡　北側完掘（北西から）



１号竪穴住居跡　断面Ａ－Ａ′（西から）

１号竪穴住居跡　断面Ｂ－Ｂ′（南から）

図版４　上野々遺跡検出遺構・調査状況(1)

２号竪穴住居跡　完掘（南西から）

２号竪穴住居跡　断面Ａ－Ａ′（西から）

２号竪穴住居跡　断面Ｂ－Ｂ′（南から）

図版５　上野々遺跡検出遺構・調査状況(2)

２号竪穴住居跡　炭化物等出土状況（南東から）

２号竪穴住居跡　カマド火床平面（西から）

２号竪穴住居跡　カマド火床断面（北から）

２号竪穴住居跡　西側火山灰堆積状況（北から）

３号・４号竪穴住居跡　検出状況（南から）

図版６　上野々遺跡検出遺構・調査状況 (3)

３号竪穴住居跡　完掘（西から）

３号竪穴住居跡　断面Ａ－Ａ′（西から）

３号竪穴住居跡　断面Ｂ－Ｂ′（北西から）

図版７　上野々遺跡検出遺構・調査状況 (4)

４号竪穴住居跡　完掘（南から）

４号竪穴住居跡　断面Ａ－Ａ′（西から）

４号竪穴住居跡　断面Ｂ－Ｂ′（南から）

図版８　上野々遺跡検出遺構・調査状況(5)

５号竪穴住居跡　完掘（南東から）

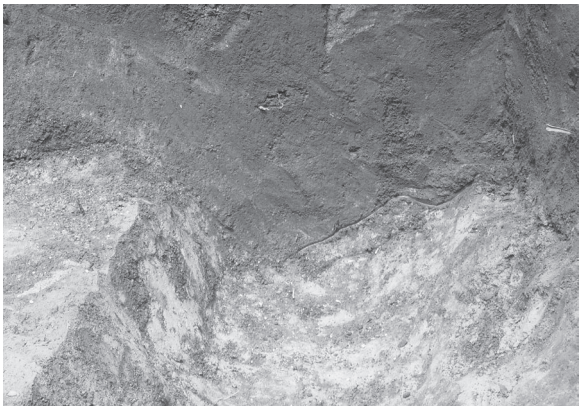
５号竪穴住居跡　断面Ａ－Ａ′（東から）

５号竪穴住居跡　断面Ｂ－Ｂ′（南から）

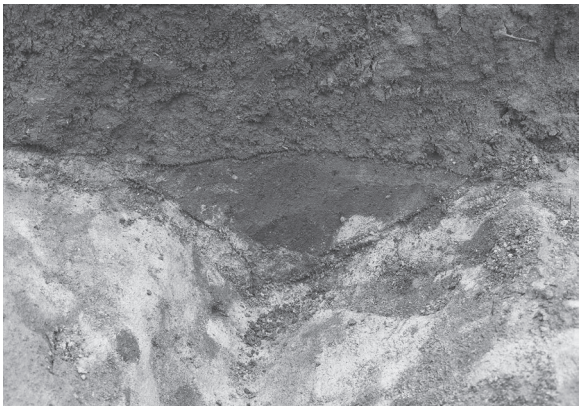
図版９　上野々遺跡検出遺構・調査状況(6)

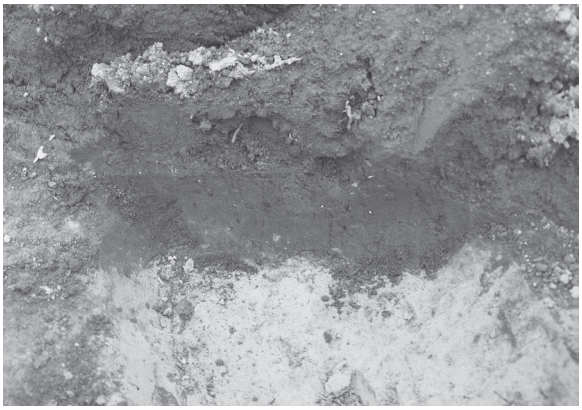
５号竪穴住居跡　遺物出土状況（北から）

１号土坑　断面（西から）


１号溝跡　断面（東から）

２号溝跡　断面（東から）

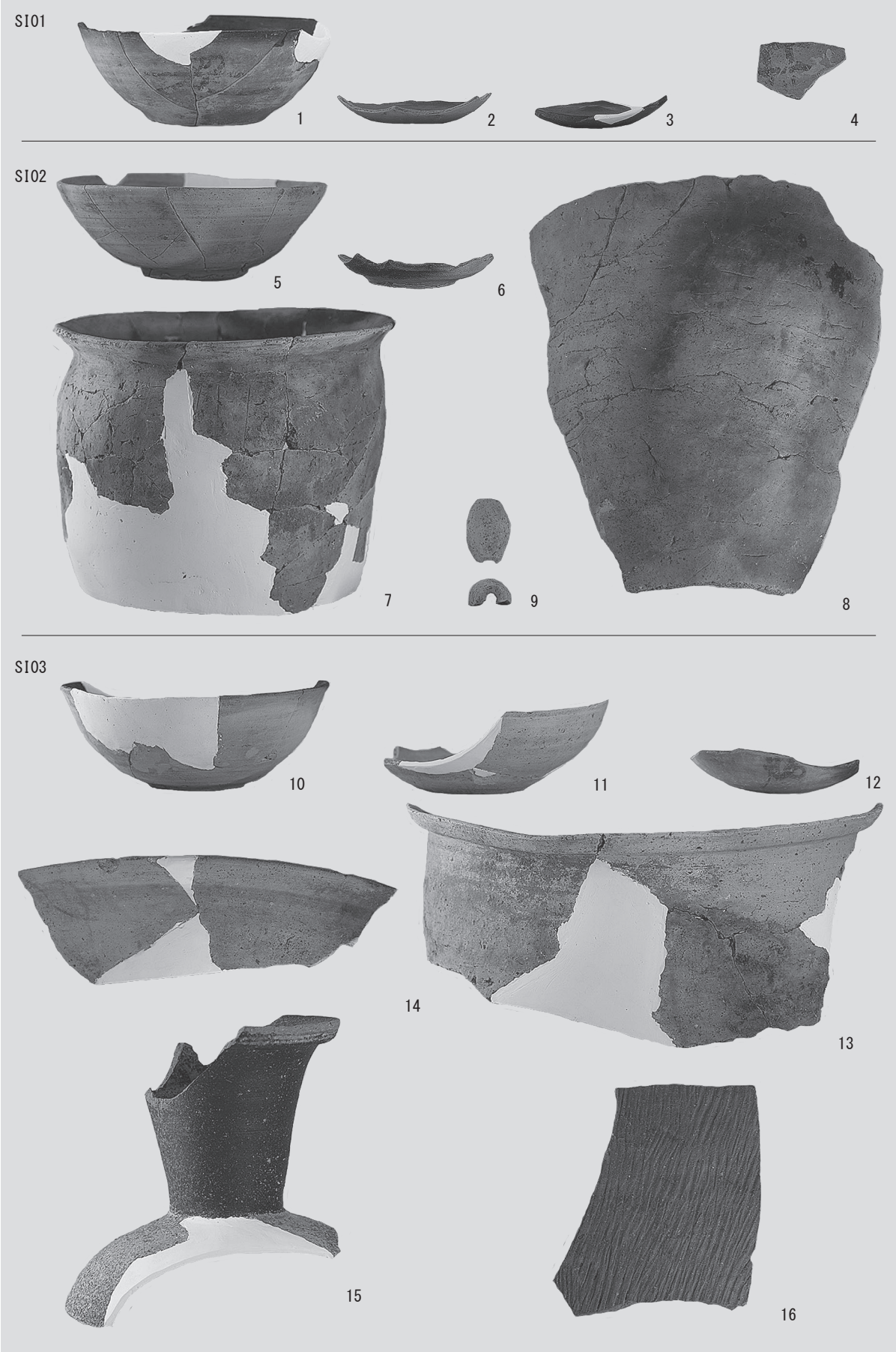

５号溝跡　断面（西から）


７号溝跡　断面（西から）

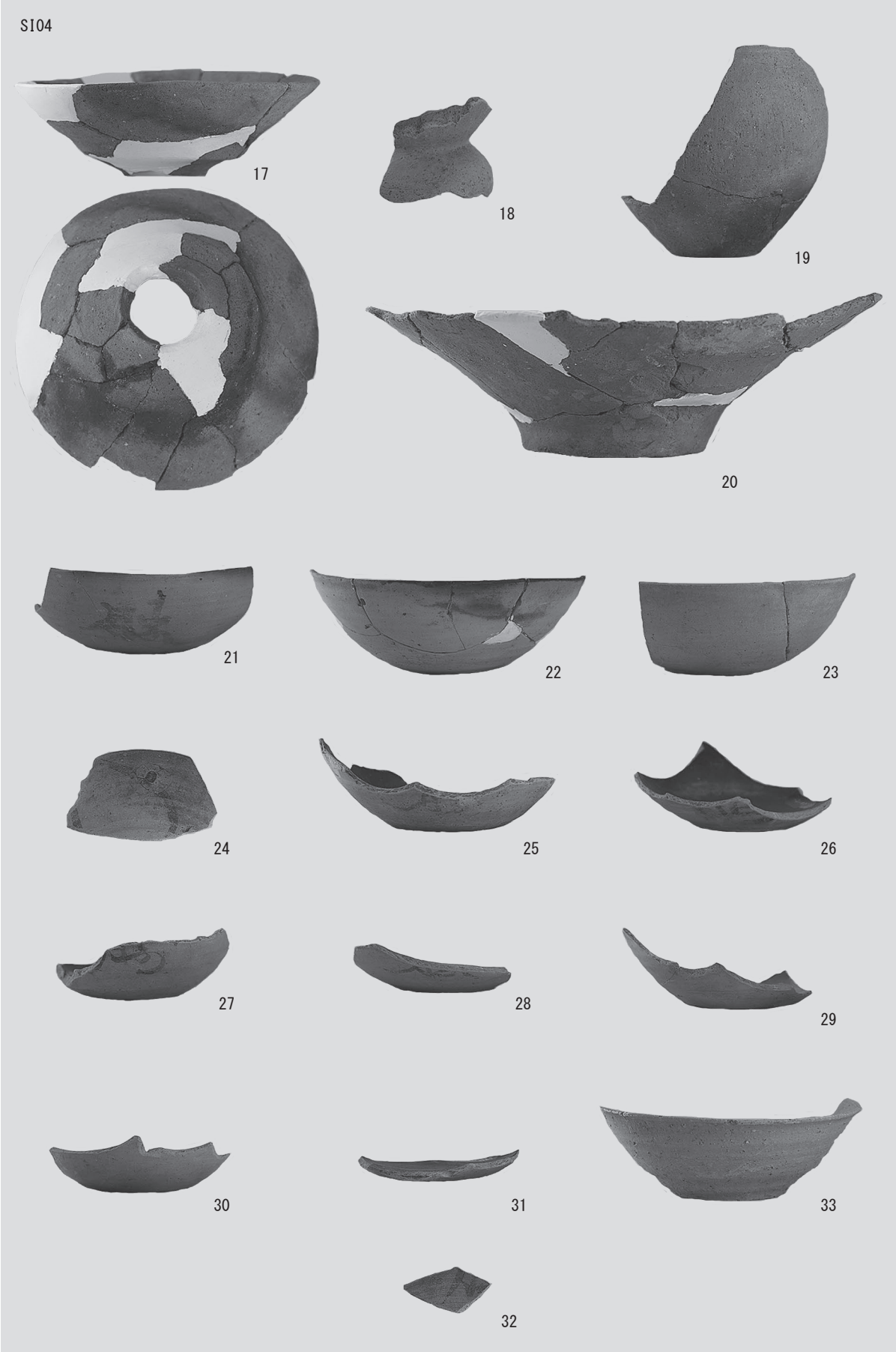
調査前風景（南から）

調査区全景（南西から）

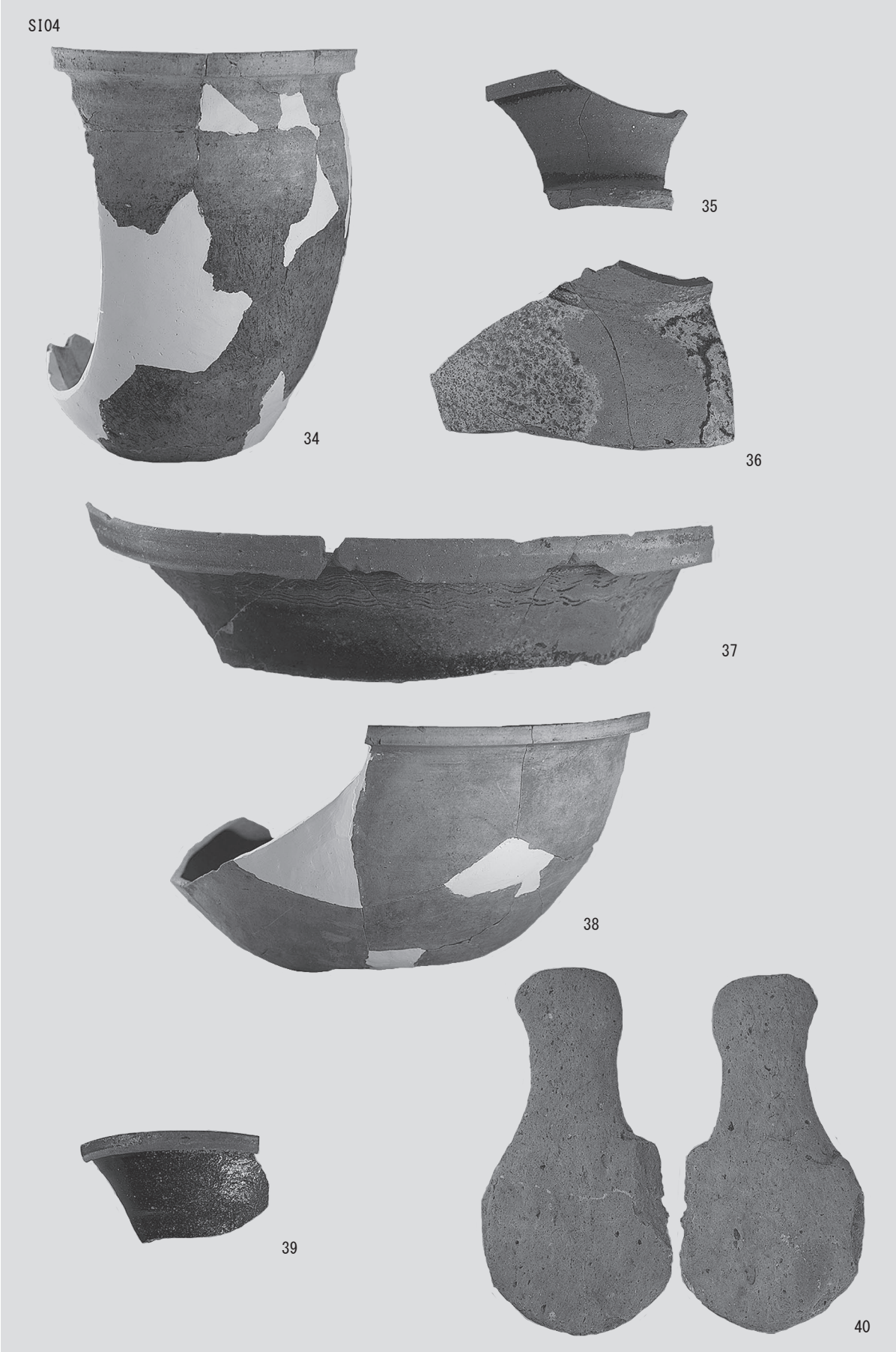
図版10　上野々遺跡検出遺構・調査状況(7)



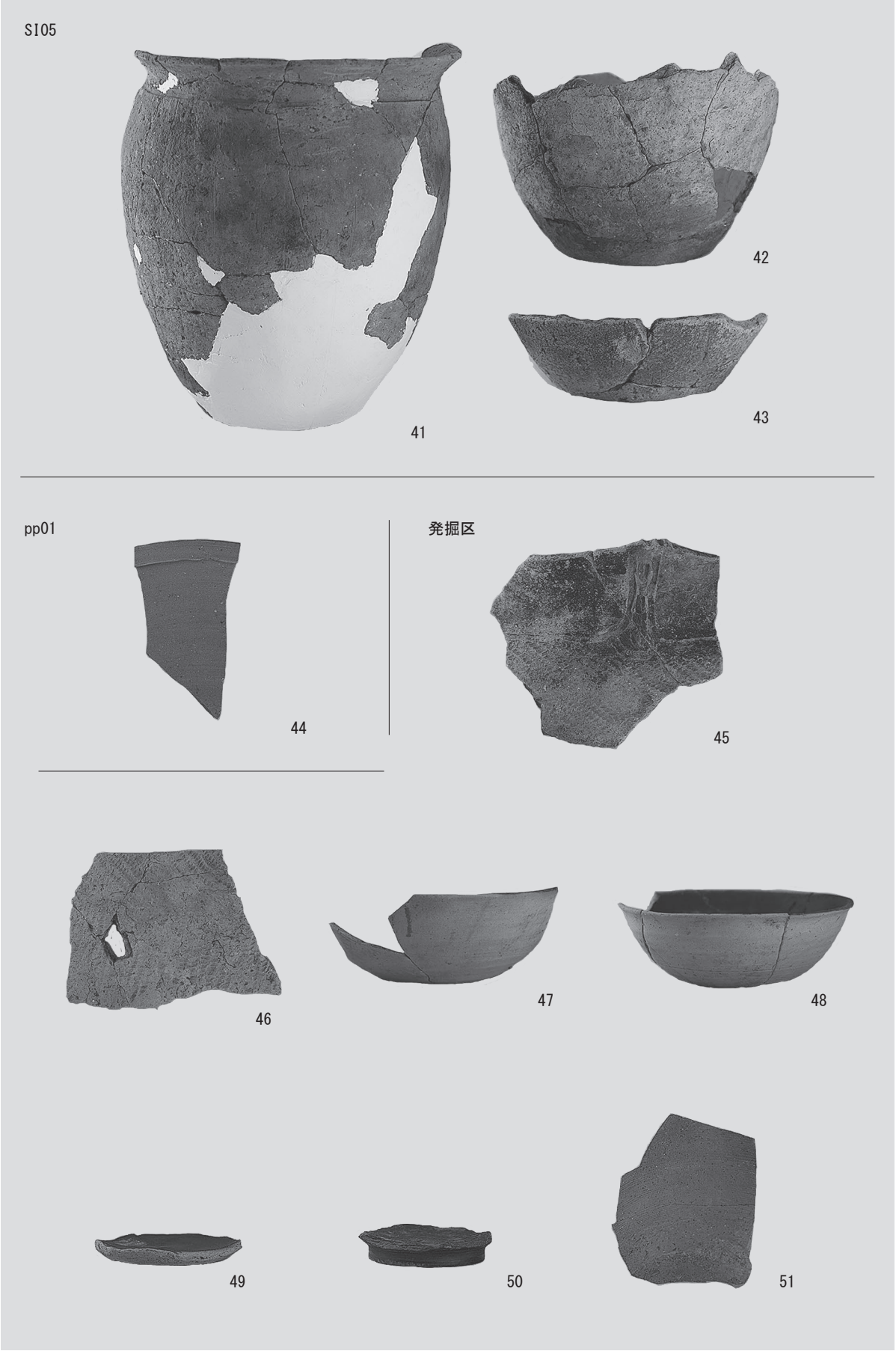
図版11　上野々遺跡出土遺物(1)



図版12　上野々遺跡出土遺物(2)



図版13　上野々遺跡出土遺物(3)



図版14　上野々遺跡出土遺物(4)

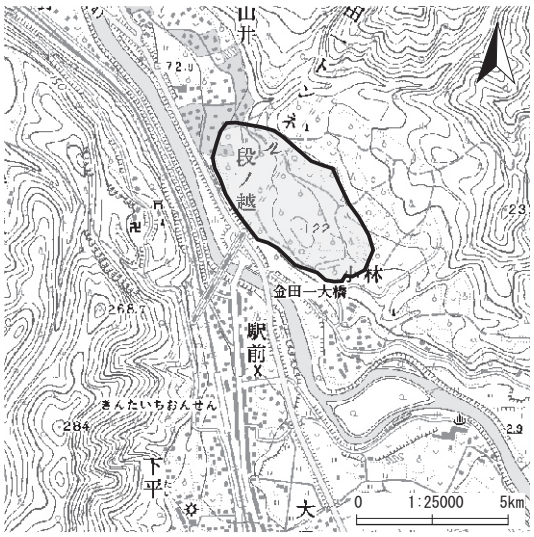
4　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）湯田地区

段ノ越遺跡（IF70－2074）

所 在 地：二戸市金田一字段ノ越地内

事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

調査期日：平成26年９月16日（火）～10月10日（金）



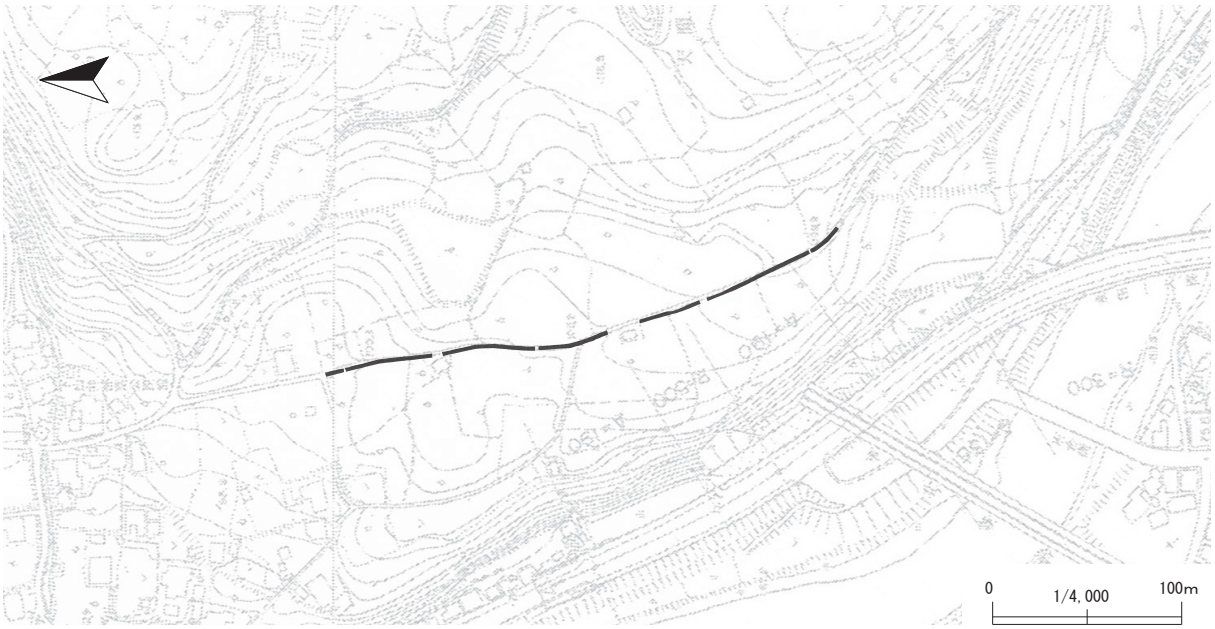
第34図　段ノ越遺跡位置

段ノ越遺跡（IF70−2074）は二戸市役所の北約6.4kmに所在し、馬淵川右岸の丘陵上に立地している。馬淵川との比高差は10m以上である。当遺跡の北側には下山井館遺跡（中世・城館跡）と下山井遺跡（縄文・散布地）が、馬淵川の対岸には駒焼場遺跡（平安・集落跡）が所在している。

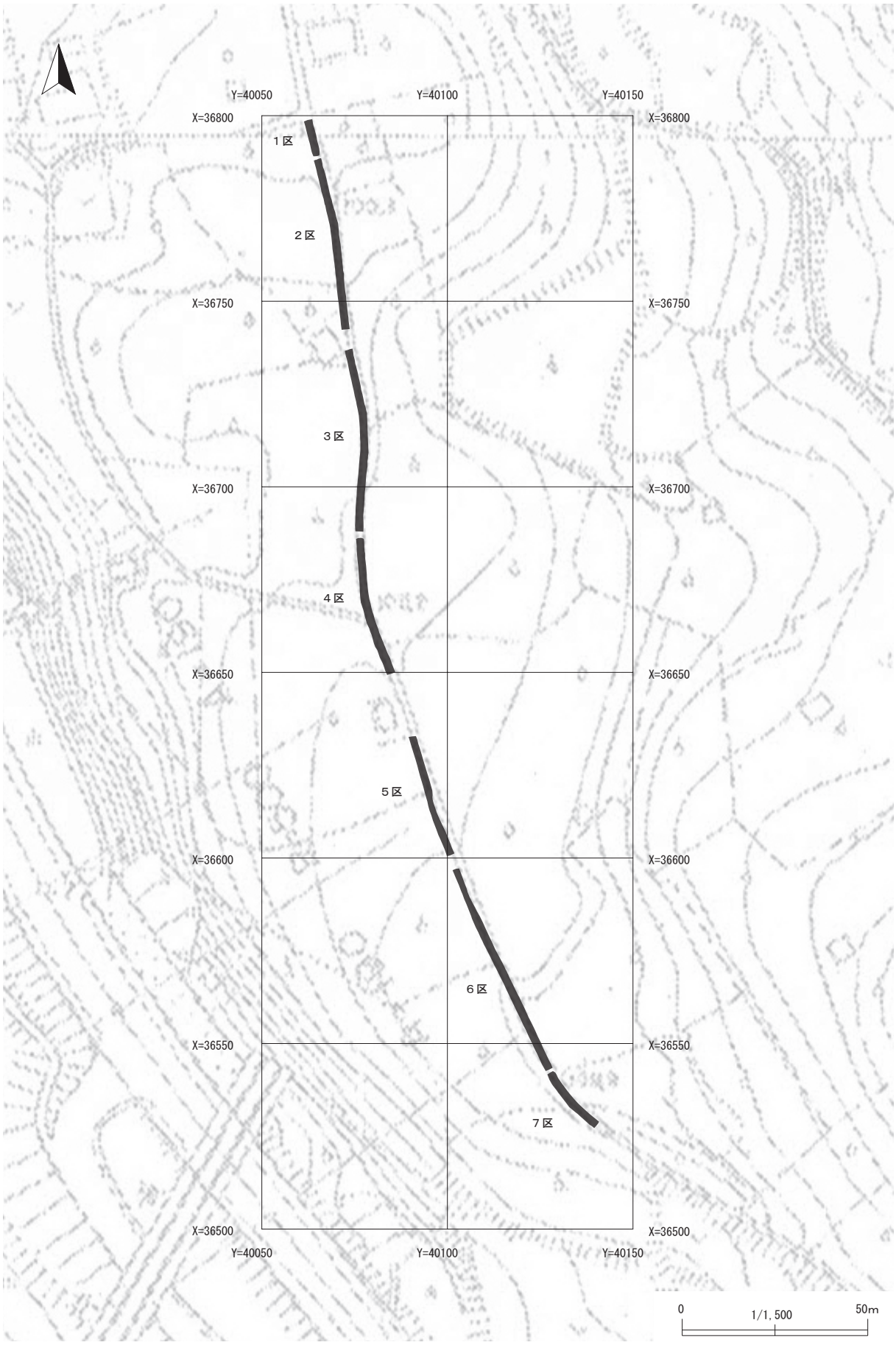
今回の発掘調査は、湯田地区の農業用給水管埋設及び農道整備工事に係る埋蔵文化財の記録保存を目的とした本発掘調査である。対象面積は約666㎡である。

調査の結果、調査区北～中央部の丘陵平坦部・南部の丘陵尾根部ともに大規模な造成が行われ、本来の地形を形成する基盤層は殆ど失われていることが判明した。したがって、人為的活動の痕跡は確認されなかった。

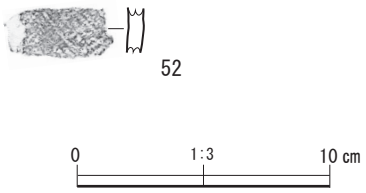
遺物は、縄文土器が５区の客土から１点出土したが、地文のみで時期の判断には至らず、当遺跡の性格・年代を正確に反映するものかは判然としない。



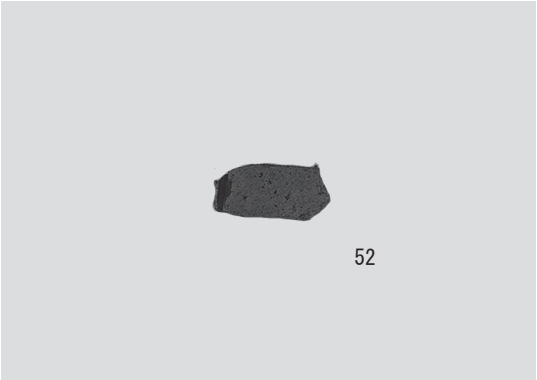
第35図　段ノ越遺跡調査位置



第36図　段ノ越遺跡調査詳細位置



第37図　段ノ越遺跡出土遺物



図版15　段ノ越遺跡出土遺物

第８表　段ノ越遺跡出土遺物観察表

掲載番号	遺跡名	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特徴
							口径	器高	底部径	重量	
							縦	横	厚さ		
52	段ノ越	T2-3	褐色土上面	縄文土器	深鉢	胴部					LR・RL 横、内面ミガキ

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

調査前（北から）

１区　完掘（南西から）

１区北端　完掘（西から）

２区　完掘（南から）

３区　完掘（南から）

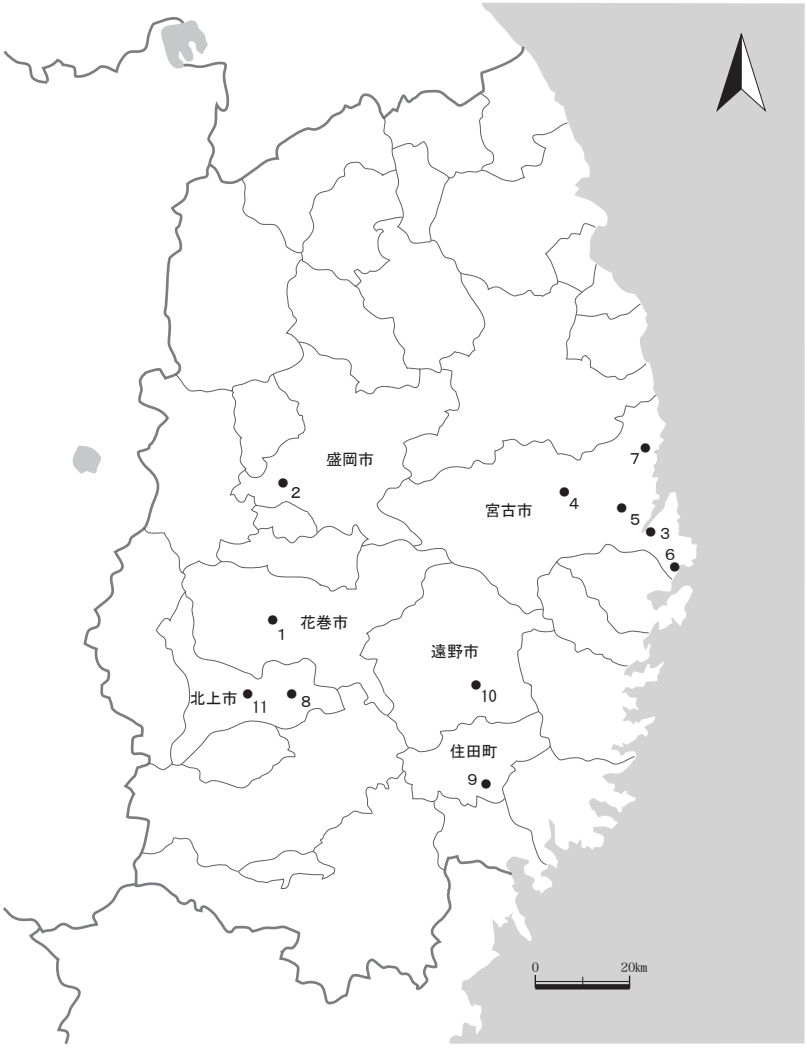
４区　完掘（南から）

５区　完掘（南から）

６区　完掘（北から）

図版16　段ノ越遺跡調査状況

Ⅱ　試掘調査・工事立会



試掘調査

1　油沢遺跡（花巻市）
2　新堰端遺跡（盛岡市）
3　小堀内Ⅱ遺跡（宮古市）
4　可能性あり（和井内地区）（宮古市）
5　田鎖遺跡（宮古市）
6　千鶏Ⅱ遺跡（宮古市）
7　重津部Ⅰ遺跡（宮古市）
8　野田Ⅰ遺跡（北上市）
9　世田米城跡（住田町）
10　可能性あり（下組町地区）（遠野市）

工事立会

11　大橋遺跡（北上市）

第38図　試掘調査・工事立会位置

1　経営体育成基盤整備事業天下田地区

油沢遺跡（ME15－1289）

所 在 地：花巻市椚ノ目第７地割

事 業 者：県南広域振興局農政部北上農村整備センター

調査期日：平成26年９月26日（金）

油沢遺跡（ME15−1289）は花巻市役所から北北西に約3.6km離れた、北上川の支流で奥羽山脈から連なる丘陵地から流れ出る、瀬川の右岸に発達した低位段丘面に位置する。

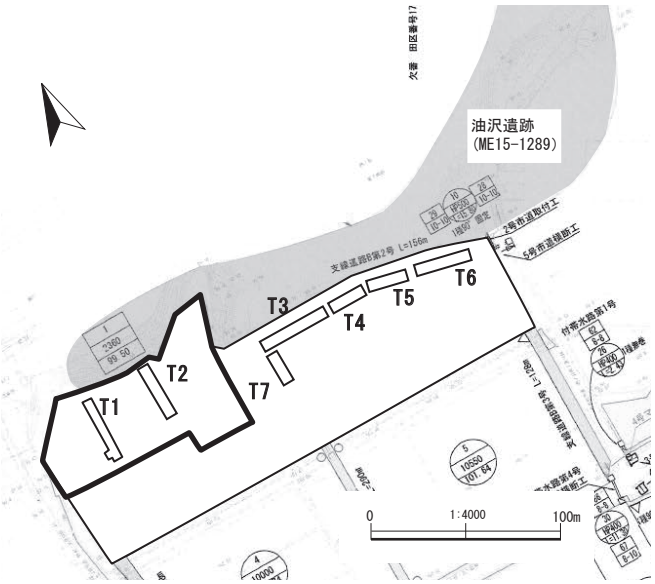
事業は圃場整備に係る土地造成である。試掘トレンチは、排水路設置に係る掘削部分を中心に、調査区全体で７箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘下げた。

第39図　油沢遺跡位置

Ｔ１では約10～20cmの表土下よりにぶい黄橙色の粘土質の強い自然堆積層（Ⅱ層）が確認された。このⅡ層上面より、トレンチ南側では直径約1.4ｍの楕円形をした土坑と考えられる黒褐色土の落込みが検出された。また、同黒褐色土内部からは坏の底部と考えられる土師器片が出土した。

Ｔ２では約20～30cmの表土下のⅡ層上面より、トレンチ北側と南側でそれぞれ、一辺約4.4ｍ以上の方形と考えられる竪穴住居跡の一部や、直径約5.2ｍ、幅約0.9ｍの円形周溝跡の一部と考えられる黒褐色土の落込みが検出された。Ｔ３～７では、表土下のⅡ層上面より、遺構や遺物は発見されなかった。

調査の結果、調査区域の表土は田畑造成時の耕作土と考えられ、いずれも多量にⅡ層起源のものと考えられる黄褐色土粒を含んでいたことから、調査区域は全体的に削平されているものと推定される。地形改変が及んでいると推定されるものの、Ｔ１・２では、遺構・遺物が検出されたことから、両トレンチ周辺には削平が及んでいない、古代の遺構が分布しているものと考えられる。　（遺跡の範囲変更及び保護盛土を実施）



第40図　油沢遺跡調査地点

２　集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事

新堰端遺跡（LE15－2359）

所 在 地：盛岡市下太田字新堰端地内

事 業 者：盛岡広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成27年１月30日（金）

新堰端遺跡（LE15−2359）は、盛岡市役所から南西に約4.6㎞の盛岡市下太田字新堰端に所在する。雫石川右岸に形成された低位段丘面に立地する古代の城柵跡及び集落跡で、志波城跡（LE15−2317）南東端と接している。

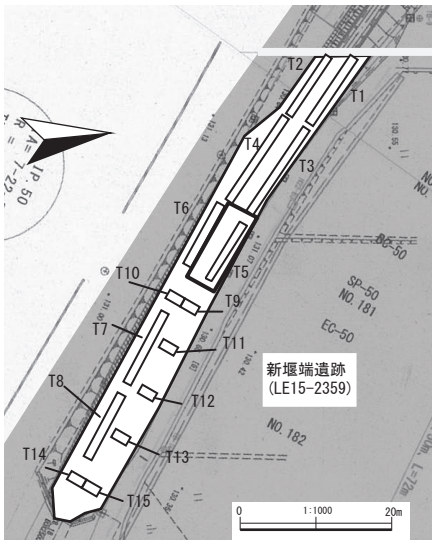
第41図　新堰端遺跡位置

今回の調査は、鹿妻新堰の改修工事に係るものである。鹿妻新堰は新田開発のため近代に整備された農業用水路である。周辺地域の水利事業は、古くは約400年前に整備された鹿妻堰まで遡り、水田地帯を形成している。

事業地は新堰端遺跡の南西端にあたり城柵外に位置する。周辺の調査では志波城の外郭南辺築地線中央より約一町（約109ｍ）の距離に、志波城軸線と平行に城柵と関係すると考えられる大溝跡が検出されている。事業地は大溝跡の延長線上に該当していることから、同遺構が検出されることが想定された。

試掘トレンチは調査区全体で15箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘下げた。堆積層の概略は以下のとおりである。表土（Ⅰ層）以下に黒褐色の自然堆積層（Ⅱ層）が確認され、さらに洪水堆積起源と考えられる黄褐色土（Ⅲ層）、砂礫層（Ⅳ層）が堆積する。

調査の結果、北側のＴ５より緩やかに黒色土（Ⅱ層）が落込む箇所が確認された。検出面での推定幅は約５ｍ、深さは約１ｍで、検出が想定された大溝と考えられる。南側については、Ｔ４及びＴ６でも同遺構の検出が想定されたものの、堆積層は前回堰改修時に掘削されたことを示し、遺構は残存していなかった。また、他のトレンチでも遺構・遺物は検出されなかった。



第42図　新堰端遺跡調査地点

以上、事業地内の多くの堆積物は前回堰改修時に掘削されたことを示すものであったが、大溝跡と考えられる遺構が検出されたＴ５周辺については、遺構が残存しているものと考えられる。

（平成26年度、当課で発掘調査実施）

3　主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業

小堀内Ⅱ遺跡（LG54－0123）

所 在 地：宮古市赤前第14地割小堀内地内

事 業 者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

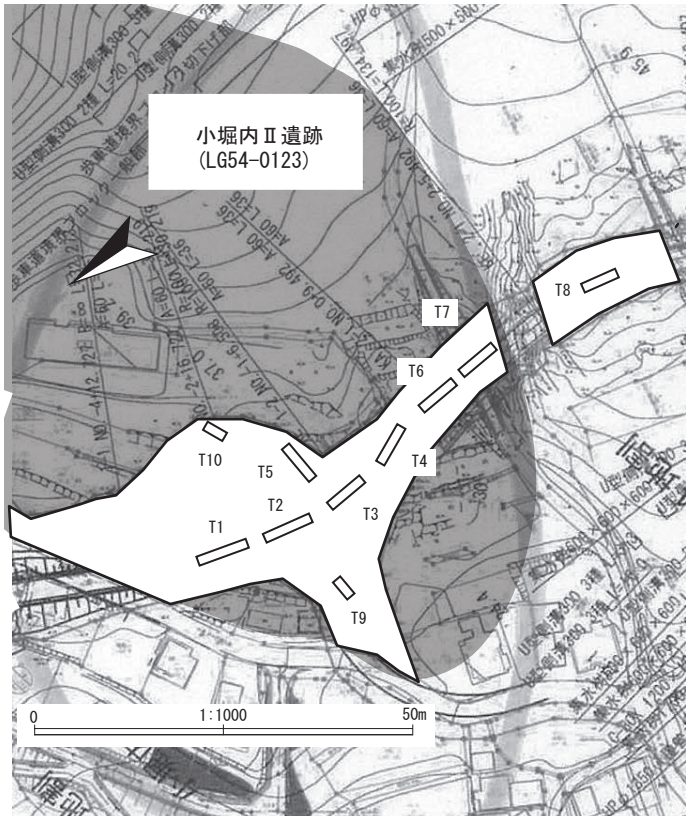
調査期日：平成26年11月５日（水）～６日（木）、20日（木）

第43図　小堀内Ⅱ遺跡位置

小堀内Ⅱ遺跡（LG54-0123）は宮古市役所の南約5.8㎞の宮古湾に面した丘陵斜面に位置する。地形は小起伏山地の斜面地にあたり、現状は畑地及び雑木林となっており、遺跡を縦断し現道による地形の改変がみられる。

事業は道路建設に係るもので、調査の結果、層厚に差異はあるものの、対象地全域でほぼ基本層序どおり土層が確認された。Ｔ３のⅠ層より縄文土器片が検出されたが、遺構は確認できなかった。Ｔ３の上位緩斜面及び調査区境平場も追加確認したが、造成時の削平により改変されたと思われる部分であり、遺構・遺物は確認できなかった。

Ｔ３の遺物については畑地造成時の周辺からの流れ込みと考えられ、遺跡の主体部は今回の調査区（事業地）外にあると推測される。また、南側の休耕地についても造成による改変がみられた。



第44図　小堀内Ⅱ遺跡調査地点

4　一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業

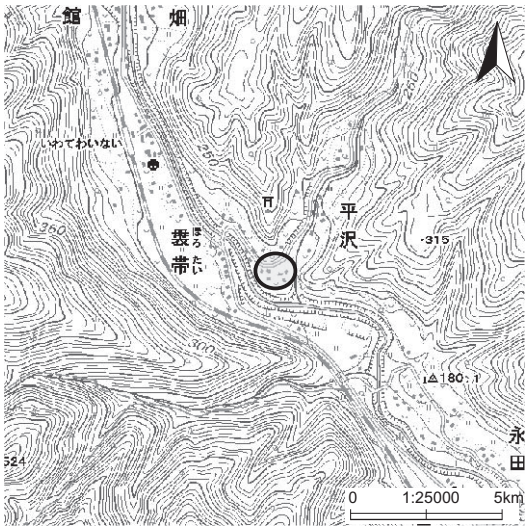
可能性あり（和井内地区）

所 在 地：宮古市和井内地内

事 業 者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

調査期日：平成26年12月２日（火）

調査地は宮古市役所の西約21 km に位置し、国道340号（茂市－岩泉）沿線、刈屋川の左岸に立地する。河岸段丘面上にあたり、緩斜面が広がる場所である。現況は畑・水田及び宅地として使用されている。刈屋川を挟んで西側対岸の段丘面に袈帯遺跡が所在する。

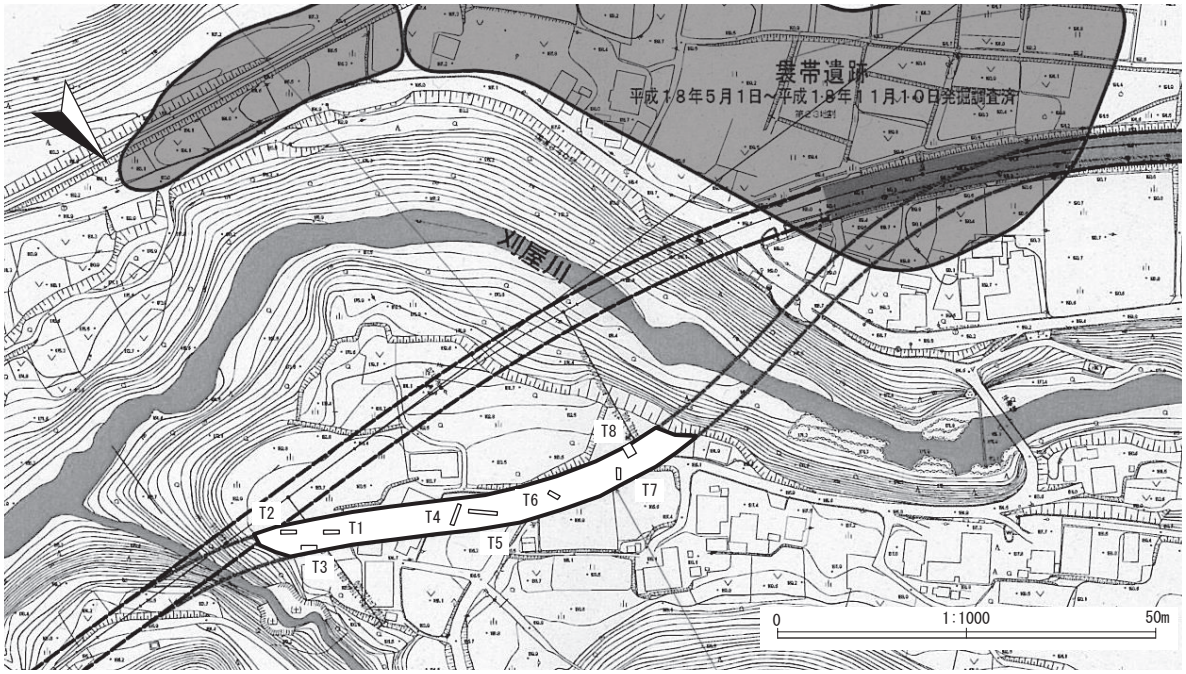


第45図　可能性あり（和井内地区）位置

今回の調査は国道340号（茂市－岩泉）線新規敷設に係る本線部分である。試掘調査は、対象範囲（宅地部分を除く）を重機により表土除去後、人力により遺構や遺物の検出を行った。

調査の結果、耕作土（Ⅰ層）直下に地山（Ⅲ層）が確認されたものや造成盛土（Ⅱ層）（最大層厚2.4m以上）の堆積が確認された。Ｔ１～Ｔ３・５のⅠ層中より縄文土器片が出土したものの、Ⅰ層直下にⅢ層がみられ、Ⅰ層内にⅢ層粒が多量に含まれていることから、本来の地形は改変された可能性が高く、出土遺物の帰属する遺物包含層及び遺構構築面は削平されたものと推測される。

現在の地形は造成により形成されたもので、以前は現況より急な斜面であった可能性が高い。遺物の出土から、調査区周辺に遺跡があったと推定されるものの、土地改変により消滅したと考えられる。



第46図　可能性あり（和井内地区）調査地点

5　一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業

田鎖遺跡（LG32－2358）

所 在 地：宮古市田鎖第２地割地内

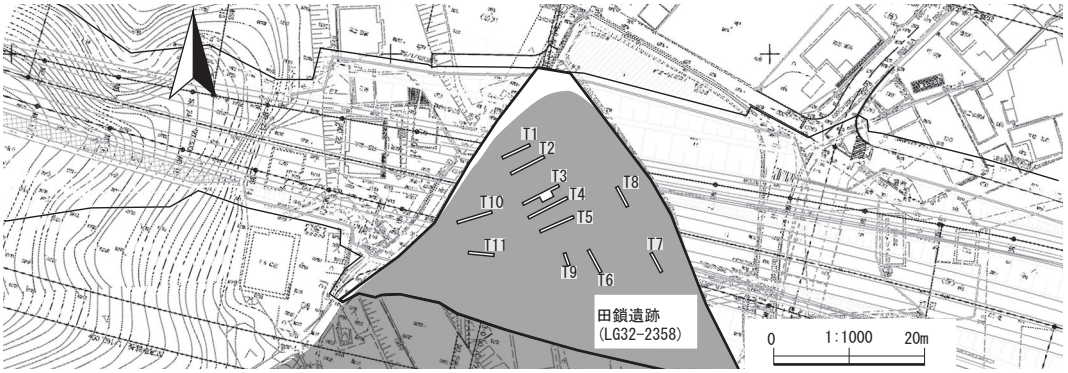
事 業 者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

調査期日：平成26年11月25日（火）～26日（水）

第47図　田鎖遺跡位置

田鎖遺跡（LG32-2358）は宮古市役所の西南西約５㎞、閉伊川右岸の氾濫平野に位置する。付近は閉伊川と長沢川の合流点に近く、周辺には水田が広がっている。遺跡は丘陵裾の微高地であり、主に宅地・畑地となっている。当遺跡の東側の畑地・水田には田鎖車堂前遺跡、西側の丘陵には田鎖館遺跡がそれぞれ所在している。試掘調査は道路建設工事に係るもので、調査地は遺跡範囲の北東端部分である。調査地は西側の丘陵（田鎖館）側から順に標高を下げる段をなしており、宅地・畑地・水田となっている平場面が上・中・下段の３面ある。中段及び下段平場にトレンチ11箇所を設定し、Ｔ８を除く10箇所で遺構を検出した。

下段平場にはＴ１～６を設定した。Ｔ１～５では土層が薄く、西側で地山が削平されている。柱穴、土坑、焼土、溝跡を検出した。Ｔ２・３では箱堀状の落込み（開口部長4.5ｍ、深さ1.2ｍ）を検出した。Ｔ２の東端でその続きと思われるプランを検出した。Ｔ３からＴ２方向へと延びていると推測されるが、Ｔ３を南側へ拡張したところそこで止まっている。下段平場東隣の畑地のＴ７・８では、黒土層が厚くなっており、地表下１ｍ程度で湧水することから、付近は低湿地状だったと思われる。但しＴ７の褐色土（地山）面で土坑を検出しており、疎らではあるが遺構は所在している。下段平場より一段高い宅地跡のＴ９では、盛土（１ｍ程度）の下で土坑・柱穴を検出した。中段平場は西側が削平・整地されていたが、Ｔ10・11で溝跡・柱穴・焼土が検出されている。調査地の旧地形は南西から北東へと向斜する緩い斜面であり、下段平場の東辺付近から低湿地となっていると考えられる。遺物はＴ６で縄文土器と陶磁器片、Ｔ11で縄文土器片が出土した。遺物が殆どないため検出遺構の時期特定に至らなかったが、小径の柱穴群など遺構が中世的であること、調査地に近接して田鎖館が所在していることなどから、田鎖館に関連するものである可能性が考えられる。　　（平成27年度、県埋蔵文化財センターが発掘調査実施）



第48図　田鎖遺跡調査地点

6　地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線

千鶏Ⅱ遺跡（LG75－0345）

所 在 地：宮古市重茂第11地割千鶏上野地内

事 業 者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

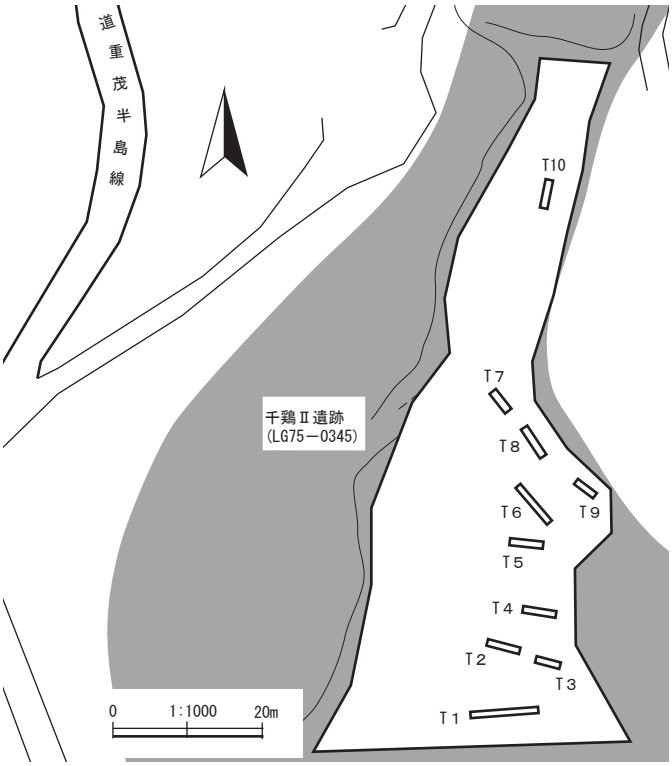
調査期日：平成26年11月11日(火)～12日(水)

第49図　千鶏Ⅱ遺跡位置

千鶏Ⅱ遺跡（LG75－0345）は、宮古市役所の南南東約14㎞、重茂半島南東岸に位置する千鶏漁港北側の谷に所在している。谷は山田湾側へと開口しており、遺跡が立地する谷底部分は緩斜面地及び中位砂礫段丘に分類される。

試掘調査は、県道重茂半島線改築工事に係る残土捨て場予定地が千鶏Ⅱ遺跡の範囲に含まれるため実施した。調査地は概ね遺跡範囲北半部にあたり、現況は畑地である。調査地の東側には沢が蛇行しつつ南流し、西側は山稜裾の斜面で、中腹には現県道が、その下方には宅地が造成されている。調査範囲は沢沿いから山稜裾までの範囲である。

調査地にトレンチ10箇所を設定した。Ｔ６・７でそれぞれ焼土遺構を検出し、Ｔ１・３～７で縄文土器・石器が出土した。Ｔ６の焼土は表土・黒褐色土を除去した後、暗褐色土中で検出した。トレンチ掘削の際に一部を破壊したため規模不明で、投げ込み焼土の可能性もある。周辺には縄文土器片が散在している。一方、Ｔ７の焼土は暗褐色土層下位～地山面で検出した。現地性のものである。住居跡の炉跡ないし屋外炉と推測される。遺物は、主にⅡ・Ⅳ層から縄文土器片と石器が出土している。



第50図　千鶏Ⅱ遺跡調査地点

調査地西側のトレンチでは堆積土は薄く、東側では地山が落込む様相が認められた。また、Ｔ10では埋没沢状の堆積様相が見られた。現況地形やトレンチの様相から、調査地一帯では東の沢へと向斜する緩斜面が造成されていると考えられるが、旧地形の斜面下方にあたる東側では遺構・遺物が遺存していると推測される。なお、一部トレンチにおいて、黒褐色土と暗褐色土の間に中掫火山灰と思われる黄褐色土の堆積層（Ⅲ層）が見られたことから、検出された焼土遺構が縄文時代前期初～早期まで遡る可能性がある。

（計画見直しにより工事中止）

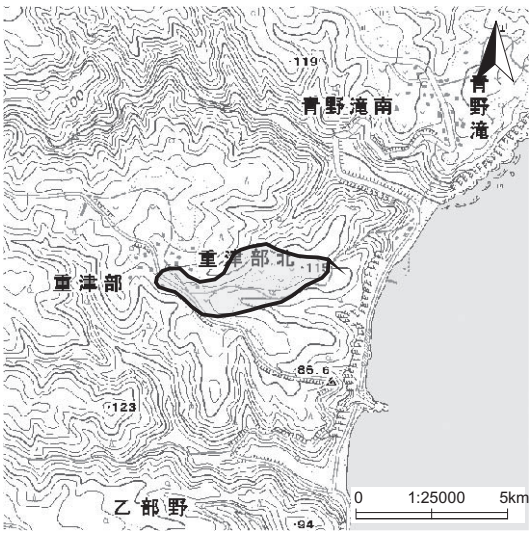
7　河川等災害復旧事業二級市道沼の浜青の滝線沼の浜地区

重津部Ⅰ遺跡（KG84－1259）

所 在 地：宮古市田老字重津部地内

事 業 者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

調査期日：平成26年11月６日(木)～７日(金)



第51図　重津部Ⅰ遺跡位置

重津部Ⅰ遺跡は、宮古市役所の北約14㎞、道の駅たろうの東約1.8㎞の丘陵地に位置している。遺跡周辺は丘陵地であるが、遺跡部分では東西方向に延びる谷底平野とその両側に狭い砂礫段丘面が見られる。

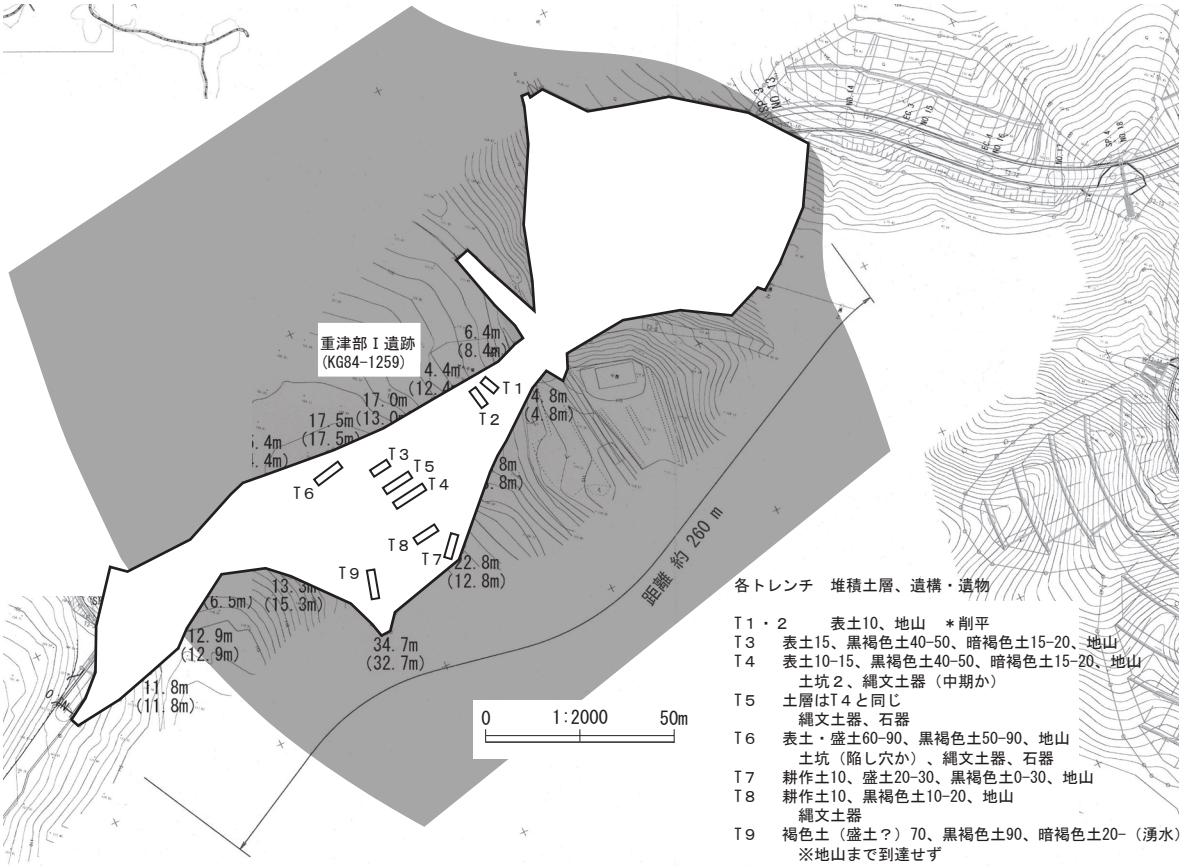
試掘調査は市道沼の浜青の滝線の災害復旧工事（改築工事）に係り、工事予定範囲に含まれる遺跡部分について行った。なお、北側の谷部及び南側の北向き斜面部分については立木未伐採の関係で試掘は実施できず、主に谷底部分と南向き斜面について試掘調査した。

トレンチを９箇所に設定した。南向き斜面上方のＴ１・２では、表土下で褐色土面（Ⅳ層）が確認され、遺構・遺物ともになかった。付近は削平されていると推測される。Ｔ３～５は南向きの緩斜面に設定した。これらのトレンチでは表土下に厚さ40㎝程度の黒褐色土（Ⅱ層）が見られ、Ｔ４・５では同層中から縄文土器片や石器が出土した。疎らで量は多くないが、Ⅱ層中には遺物が混入していると思われる。Ｔ４の北端付近では土坑２基が重複して検出され、うち１基の埋土から縄文土器が出土した。

一方、斜面から続く谷底付近のＴ６では、人為的な埋戻しと思われる褐色土（Ⅰ′層）が１ｍ弱見られ、その下には縄文土器・石器を疎らに含む黒褐色土（Ⅱ層）が最大90㎝堆積していた。また、地表下190㎝の地山面で陥し穴状遺構を検出した。付近は南向き斜面から沢跡への落ち際にあたると推測される。南向き斜面の東側の休耕地にはＴ７・８を設定し、Ｔ７の整地土中で縄文土器が出土し、Ｔ８のⅣ層面では土坑１基が検出された。現地形や層序から見て、この休耕地は切土・盛土造成したものと思われるが、トレンチ付近では遺構・遺物が残存している。休耕地の南に接する沢跡状の窪地にはＴ９を設定したが遺構・遺物は見られず、この部分が沢跡の最深部にあたると考えられる。

以上の結果から、今回調査範囲のうち、南向き斜面部を中心として遺構が分布しており、量は多くないもののⅡ層に遺物が包含されていることを確認した。

（平成27年度、県埋蔵文化財センターが発掘調査実施）



第52図　重津部Ⅰ遺跡調査地点

8　地域連携道路整備事業

野田Ⅰ遺跡（ME60－0306）

所 在 地：北上市才の羽々地内

事 業 者：県南広域振興局土木部花巻土木センター

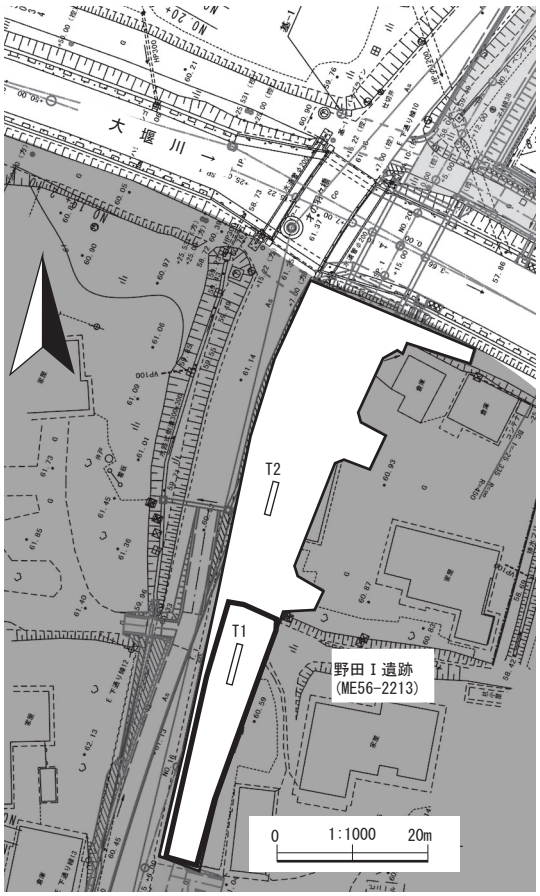
調査期日：平成26年12月24日（水）

野田Ⅰ遺跡（ME60-0306）は、北上市役所の北東約３㎞、大堰川右岸の自然堤防上に位置している。遺跡は縄文時代から平安時代の集落跡であり、昭和51年に東北新幹線建設に係り県教育委員会文化課が、平成18年に県道改修工事に係り県埋蔵文化財センターが、それぞれ発掘調査を実施している。遺跡の中央付近を東北新幹線と県道北上東和線が縦貫し、遺跡北側は大堰川によって区切られている。

第53図　野田Ⅰ遺跡位置

今回の調査は県道北上東和線の改築工事に係るもので、現道東側の道路用地について試掘調査を実施した。南側の畑地にＴ１、北側の宅地にＴ２を設定した。Ｔ１では、表土・盛土の下に厚さ30㎝程度の黒褐色土層（Ⅲ層）が見られた。この土層は旧表土層と思われ、その層中には赤褐色の土器細片が混入している。土器片は微小であるため時期は特定できなかったが、縄文土器か土師器であると推測される。Ⅳ層上面まで掘削したところ、東西方向に延びる溝跡と推測される遺構を検出した。溝幅は50㎝で、埋土はⅢ層系の黒色土である。溝跡に伴う遺物は出土しなかったため、時期は特定できなかった。この畑地は盛土で嵩上げされているものの、周囲の水田面よりも一段高い地形面であり、自然堤防の縁辺にあたると推測される。一方、Ｔ２では盛土層が最大140㎝と厚くなされていた。盛土の下ではグライ化した粘土層となって旧表土は見られず、遺構・遺物ともに確認されなかった。Ｔ２を設定した宅地は南側畑地よりも高い地形面であるが、地権者によれば旧状では低い水田面だったが、新幹線建設工事の際の基盤掘削残土を入れて盛土整地したものであるという。古い地形図を見ると、現在の宅地部分は水田として表示されており、もともとは低位の地形面（旧河道）だったと考えられる。Ｔ１を設定した畑地に遺構・遺物が所在しており、この部分について事前の発掘調査が必要であると考えられる。

（平成27年度、当課で発掘調査実施）



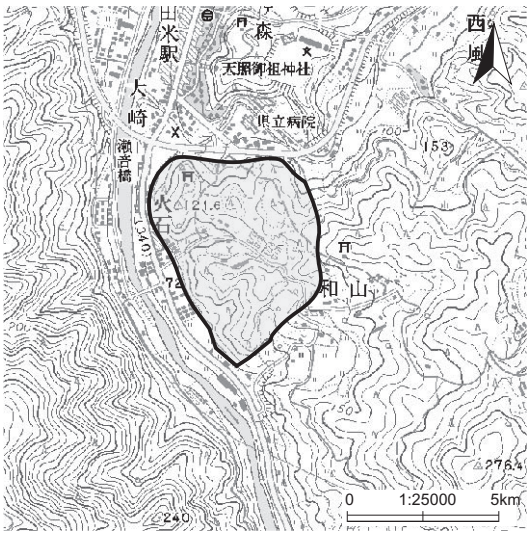
第54図　野田Ⅰ遺跡調査地点

9　地域連携道路整備事業一般国道340号
世田米城跡（せたまいじょうあと）（NF26－0006）

所 在 地：気仙郡住田町字火石地内

事 業 者：沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

調査期日：平成26年12月4日（木）



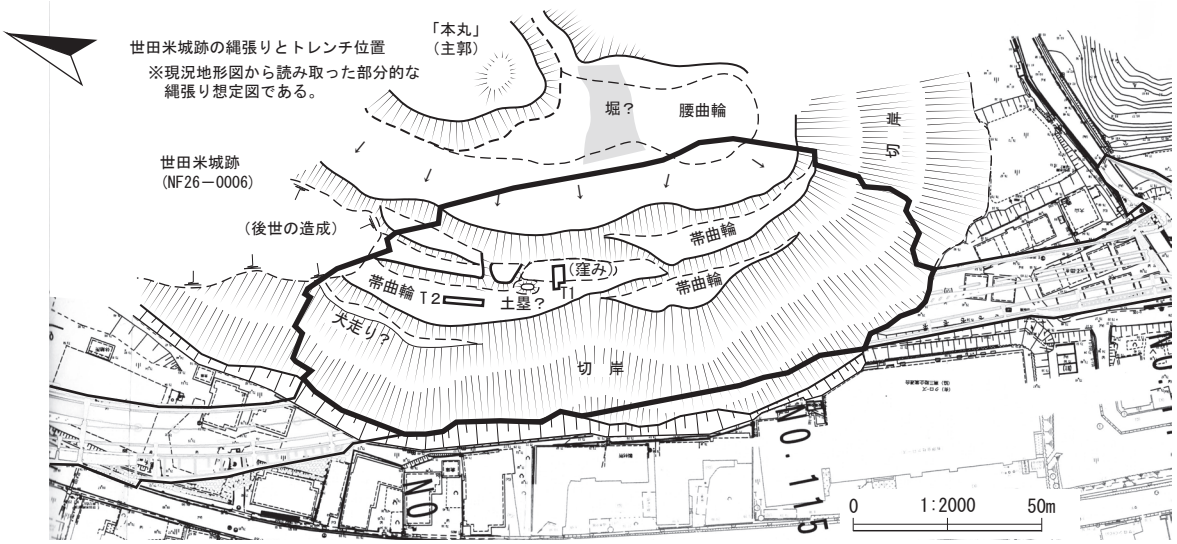
第55図　世田米城跡位置

世田米城跡（NF26−0006）は住田町役場の南南東約800m、国道107号と同340号の分岐点の北東側に隣接する丘陵に所在する。付近は気仙川と中沢川の合流点付近で、遺跡は北東から気仙川へと張出す丘陵先端部分に立地する。現況は山林で、丘陵頂部には八幡神社が鎮座している。城域の北端部は国道107号の改築により削られたらしく、現道法面の擁壁が設置されている。『岩手県中世城館跡分布調査報告書』（岩手県教育委員会1986）によれば、丘陵先端部が「本丸」、その南北両側に「腰曲輪」、西側には「帯曲輪」が付随する連郭式城館とされており、「本丸」部分が周知の遺跡範囲に一致する。普請は室町時代初めに葛西氏の命を受けた阿曽沼氏が行ったと伝承されている。

試掘調査は国道340号改築工事に係る城域西辺部を対象として行った。城の縄張りでいえば「帯曲輪」群と「本丸」・「腰曲輪」の一部が係る形である。調査時点で立木未伐採であり、かつ切岸と思われる急斜面については試掘が難しいため、「帯曲輪」と推測される平場で重機侵入可能な箇所を試掘対象とした。現況を確認したところ、幅５～10m程度の幅狭い平場が、上下に段をなして連なっており、一部に土塁と思われる土盛りが認められた。上段平場からの法面裾と土盛りの間にＴ１を設定したところ、地山の立上がりが認められ、柱穴１個（径50㎝）を検出した。この窪みは竪穴建物跡の掘込みと推測される。

平場面での遺構の有無を確認するためＴ２を設定したところ、平坦な地山面で柱穴２個（径45～50㎝）が検出された。今回の調査では遺物は出土せず、検出遺構の時期は特定できなかったが、中世城館に付随するものである可能性が高いと思われる。

（平成28年度、県埋蔵文化財センターが発掘調査実施予定）



第56図　世田米城跡調査地点

10　一般県道遠野住田線下組町地区道路改築工事

可能性あり（下組町地区）

所 在 地：遠野市下組町地内

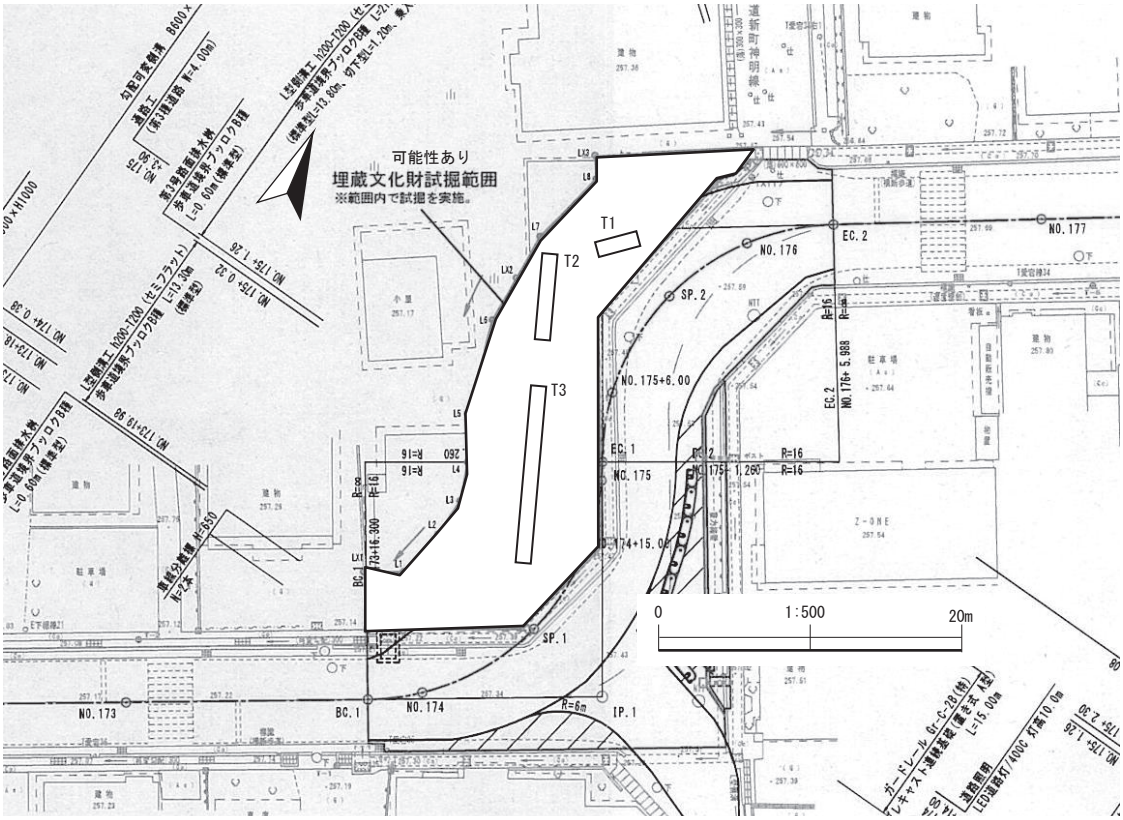
事 業 者：県南広域振興局土木部遠野土木センター

調査期日：平成26年９月26日（金）

第57図　可能性あり（下組町地区）位置

調査地は遠野市下組町地内にあり遠野市役所から西南西約1.1㎞の猿ヶ石川左岸に位置する。周辺地形は猿ヶ石川水系の谷底平野にあたり、平坦で大起伏山地に囲まれた盆地である。調査地は市街地に近く旧街道筋のあった場所である。現況は宅地及び道路で、周知の遺跡は所在しない。調査区から南東約300ｍの位置に、鍋倉城跡（MF45−2091）がみられる。

試掘調査は主要地方道238号線（旧釜石街道）の市街地南西に位置するクランク状（鍵型）の現道改修（拡幅）工事に係るもので、近世城下町の街道及び屋敷跡周辺にあたることから確認を行った。調査の結果、Ｔ２の一部で、旧表土層がみられるものの、その他の範囲では現代の構築物により、地山面（Ⅲ層）まで大きく改変されていた。Ｔ３において攪乱から近代の磁器が出土した。



第58図　可能性あり（下組町地区）調査地点

11　国営和賀中央農業水利事業上堰幹線用水路改修工事

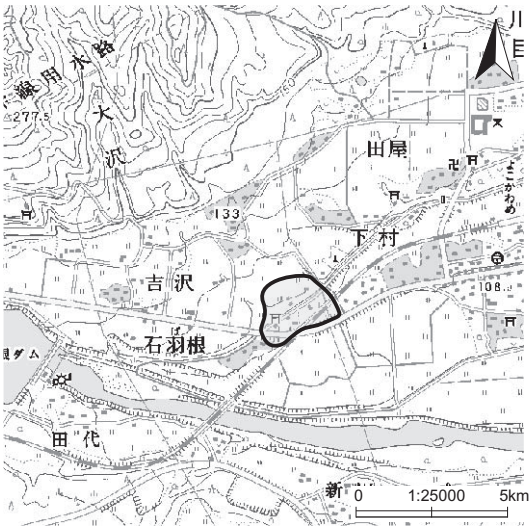
大橋遺跡（ME52－2325）

所 在 地：北上市和賀町横川目地内

事 業 者：東北農政局和賀中央農業水利事業所

調査期日：平成26年11月13日（木）、18日（火）

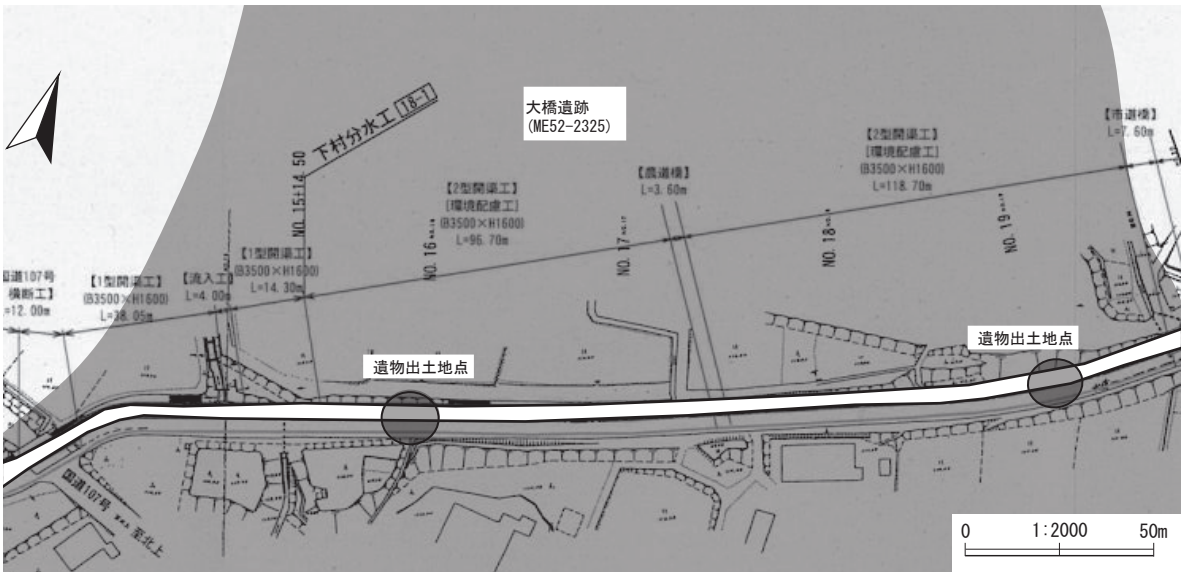
大橋遺跡（ME52−2325）はJR東日本北上線横川目駅の西約1.5km に位置し、和賀川左岸の河岸段丘上に立地する。縄文時代晩期中葉を中心時期とする遺跡であり盛土遺構などもみつかっている。



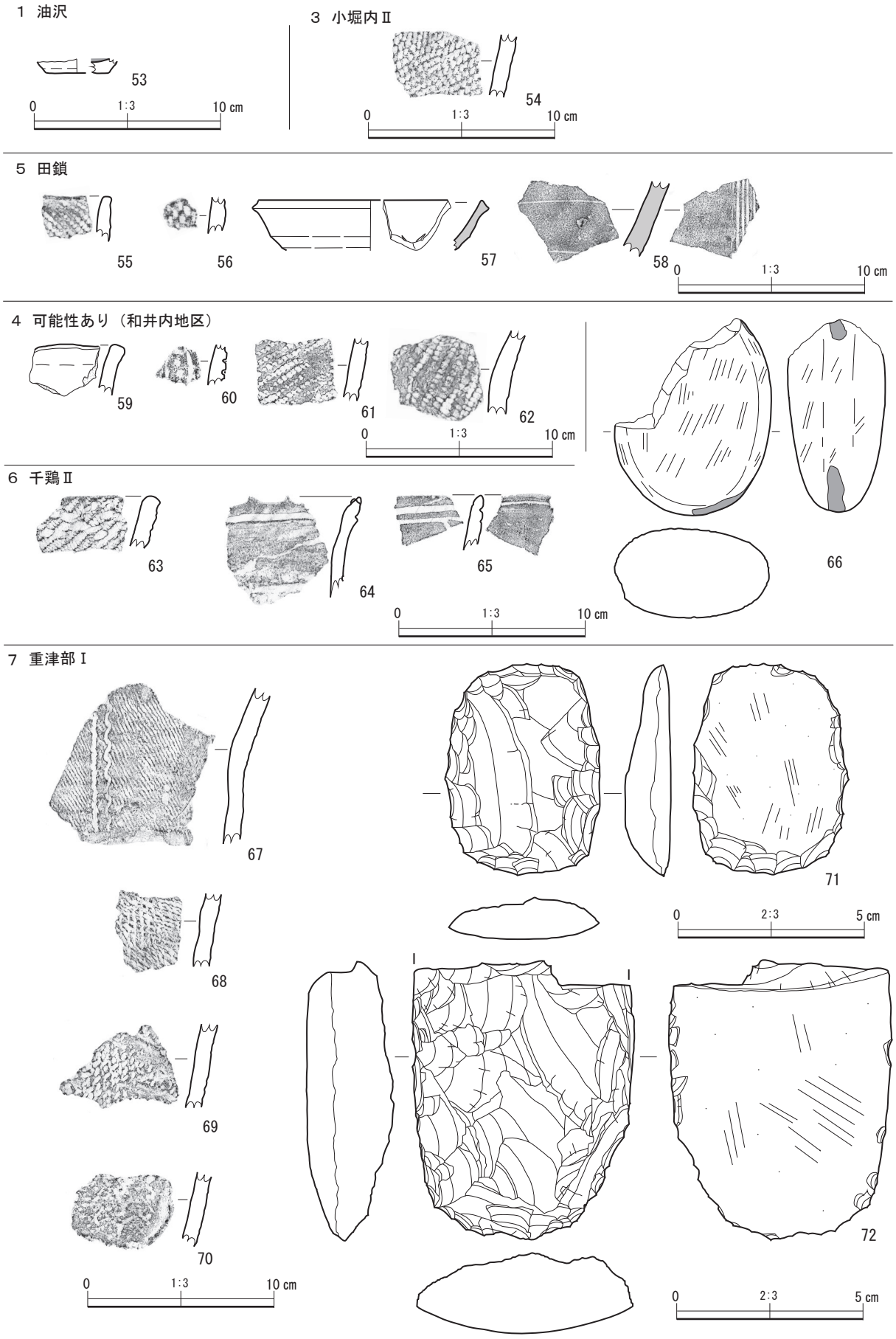
第59図　大橋遺跡位置

工事立会は上堰幹線用水路改修工事に係るもので、大橋遺跡内の道路北側、側溝の掘起こし部分にあたる。

立会の結果、既存道路の対辺（水路北側）に新規掘削部分がみられ、遺構検出面までは掘削が及ばないものの、２箇所で遺物が出土した。縄文土器のほか近代の磁器なども伴出することから、既存水路以前の造成（圃場整備など）により改変されていたと考えられ、工事による埋蔵文化財への影響はないと考えられる。

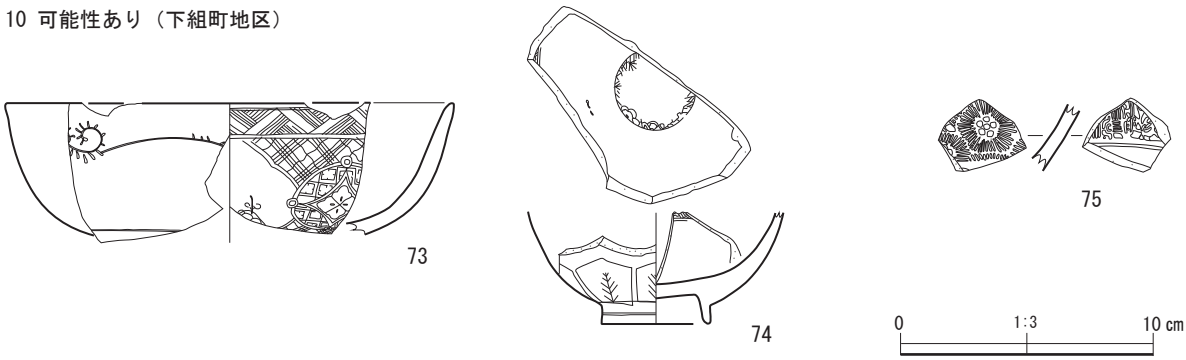


第60図　大橋遺跡調査地点

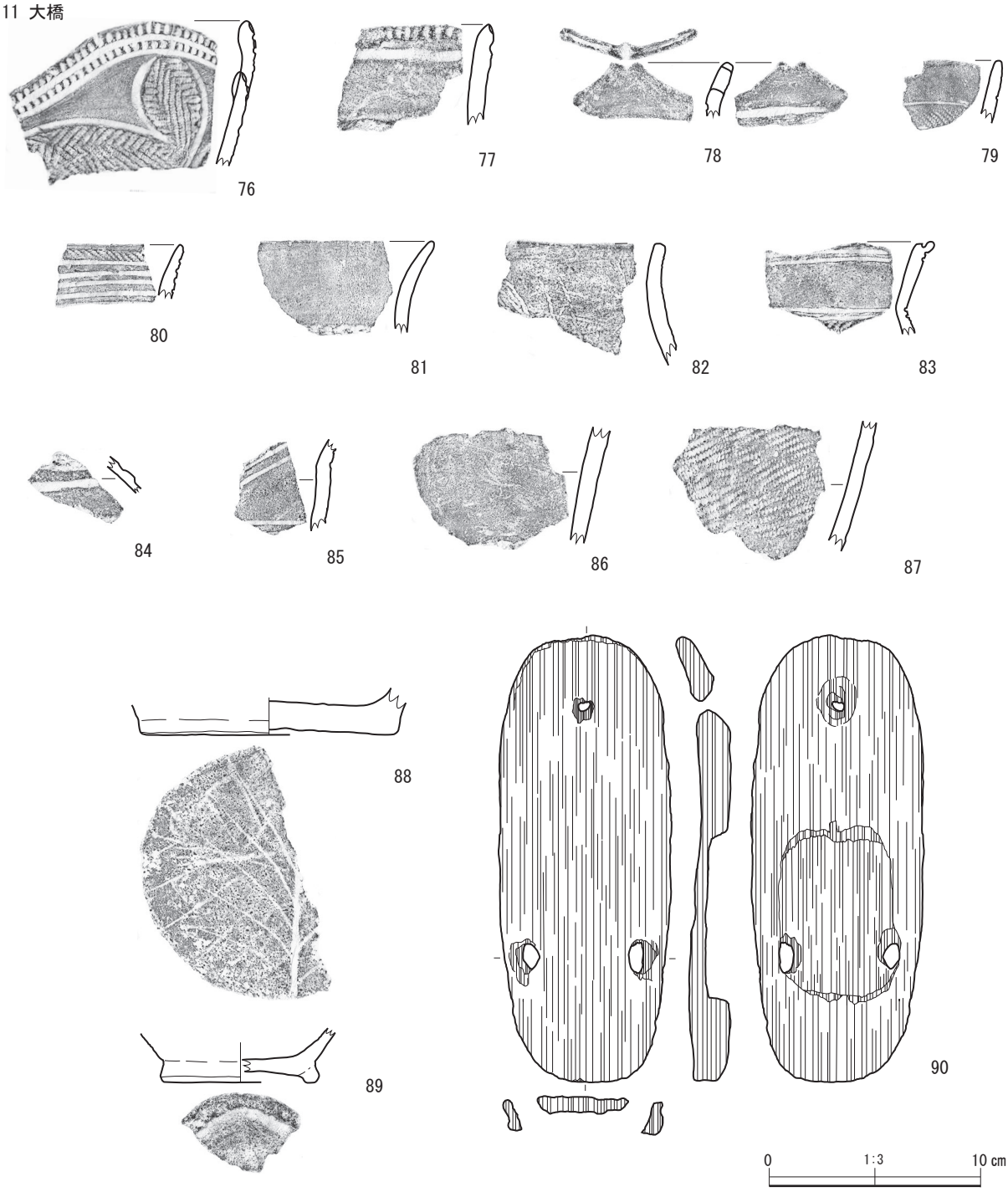


第61図　試掘調査・工事立会出土遺物(1)

10 可能性あり（下組町地区）



11 大橋

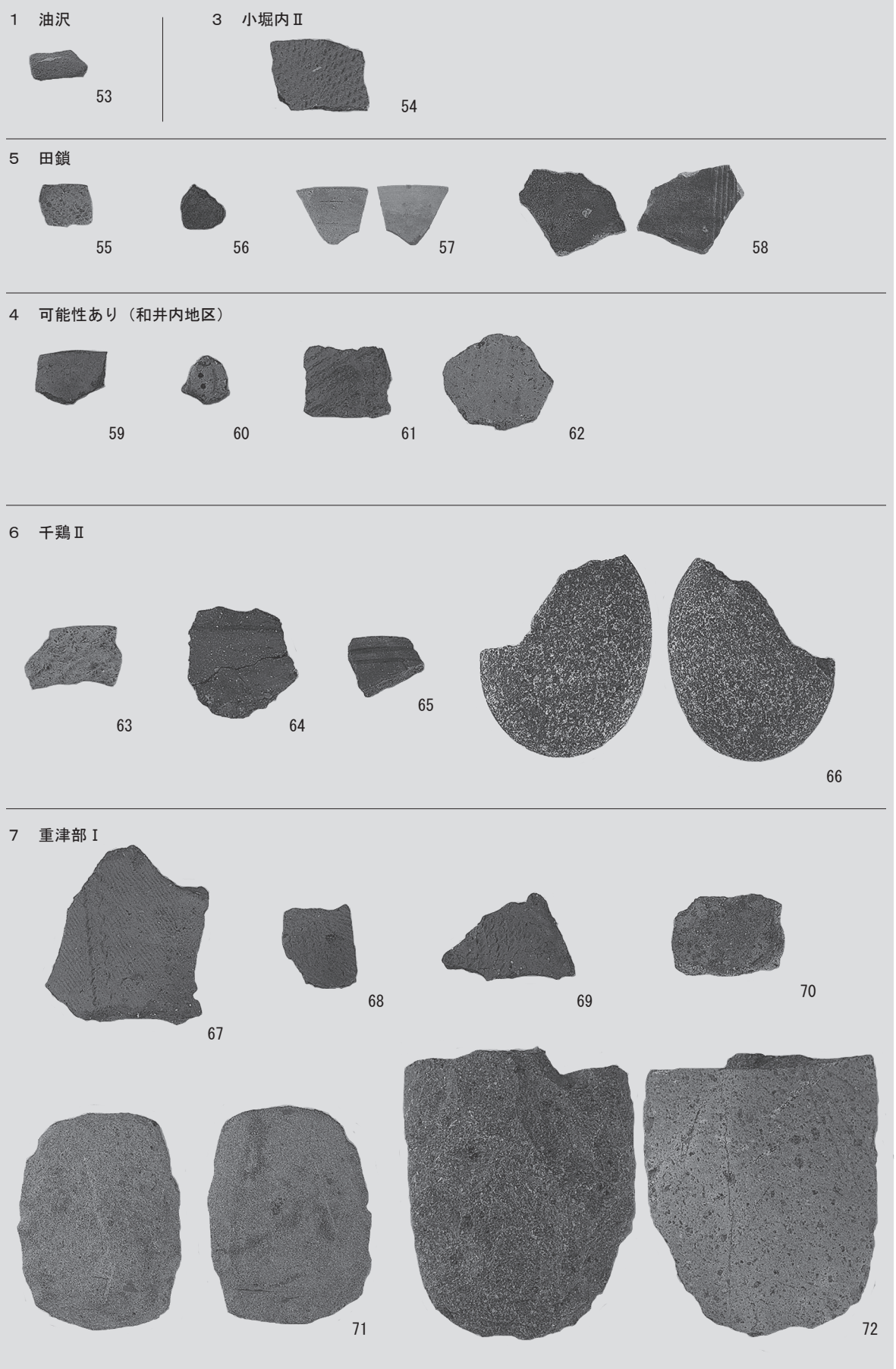


第62図　試掘調査・工事立会出土遺物(2)

第９表　試掘調査・工事立会出土遺物観察表

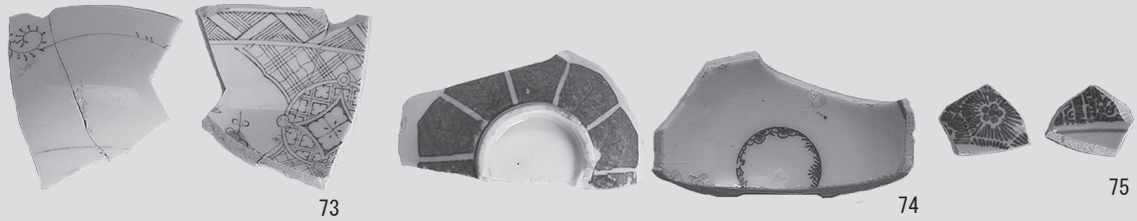
掲載番号	遺跡名	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特徴
							口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	
53	油沢	T1	黒褐色土	土師器	坏	底部		(1.3)	[3.4]		外面磨耗、内面黒色処理
54	小堀内Ⅱ	T3	Ⅰ	縄文土器	深鉢	胴部					繊維含む LRL 横
55	田鎖	T6　焼土周辺		縄文土器	深鉢	口縁部					LR 縦内面ミガキ
56	田鎖	T11	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部					LRL 横
57	田鎖	T6　焼土周辺		陶磁器	卸皿	口縁部	[12.0]	(2.7)			内面卸痕あり古瀬戸前期（13世紀）か
58	田鎖	T6　焼土周辺		陶磁器	すり鉢	胴部					瀬戸・美濃　近世か
59	可能性あり（和井内地区）	T1	Ⅰ	縄文土器	深鉢	口縁部					内外面ナデ
60	可能性あり（和井内地区）	T1	Ⅰ	縄文土器	深鉢	胴部					沈線・刺突
61	可能性あり（和井内地区）	T1	Ⅰ	縄文土器	深鉢	胴部					RLR 縦
62	可能性あり（和井内地区）	T1	Ⅰ	縄文土器	深鉢	胴部					RL 縦
63	千鶏Ⅱ	T1	黒色土 Ⅱ～Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部					０段多条 RL 縦、原体圧痕
64	千鶏Ⅱ	T6 焼土周辺（住居？）		縄文土器	深鉢	口縁部					口唇部指圧？沈線
65	千鶏Ⅱ	T3排土	Ⅱ～Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部					沈線内外面ミガキ
66	千鶏Ⅱ	T3排土	Ⅱ～Ⅲ	縄文土器	磨石類		(10.6)	8.5	5.3	602.5	花崗岩
67	重津部Ⅰ	T4土坑埋土		縄文土器	深鉢	胴部					結節縄文 L 縦原体圧痕
68	重津部Ⅰ	T5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部					重層縄文 RRL?
69	重津部Ⅰ	T6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部					組紐縄文？
70	重津部Ⅰ	T8	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部					隆帯、磨耗
71	重津部Ⅰ	T5	Ⅱ	石器	スクレイパー		5.7	4.2	1.3	39.36	いわゆる力持型スクレイパーか
72	重津部Ⅰ	T6	Ⅱ	石器	スクレイパー		(7.6)	6.0	2.4	134.2	いわゆる力持型スクレイパーか
73	可能性あり（下組町地区）	T3	撹乱	陶磁器	碗	口縁部	[18.0]	(5.3)			近代・染付
74	可能性あり（下組町地区）	T3	撹乱	陶磁器	碗	底部		(4.5)	4.4		近代・染付
75	可能性あり（下組町地区）	T3	撹乱	陶磁器	碗	体部					近代・染付
76	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					刻み、沈線、羽状縄文 LR・RL
77	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					沈線
78	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					口唇部沈線、刻み、内面沈線
79	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					沈線、RL 横
80	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					沈線、RL 横
81	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					原体圧痕 RL
82	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					LR 縦
83	大橋	東側		縄文土器	深鉢	口縁部					口唇部沈線、口縁部沈線、LR 横
84	大橋	東側		縄文土器	深鉢	胴部					沈線
85	大橋	東側		縄文土器	深鉢	胴部					沈線
86	大橋	東側		縄文土器	深鉢	胴部					内外面ナデ
87	大橋	東側		縄文土器	深鉢	胴部					LR 横
88	大橋	東側		縄文土器	深鉢	底部		(1.2)	[12.4]		木葉痕
89	大橋	東側		縄文土器	深鉢	底部		(2.3)	[7.6]		上げ底
90	大橋	東側		木製品	下駄		21.5	8.3	2.5		近世以降か

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

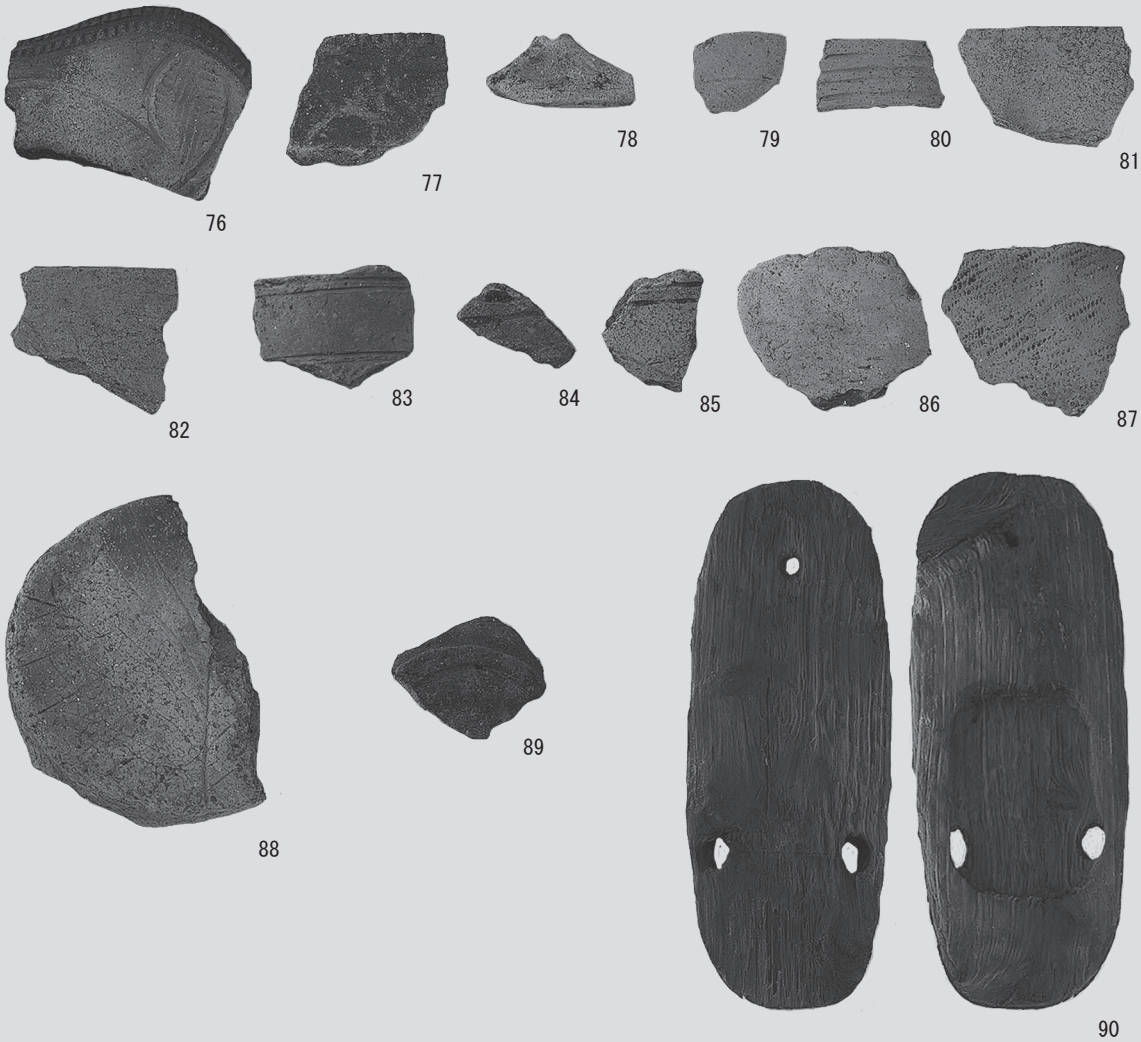


図版17　試掘調査・工事立会出土遺物(1)

10　可能性あり（下組町地区）

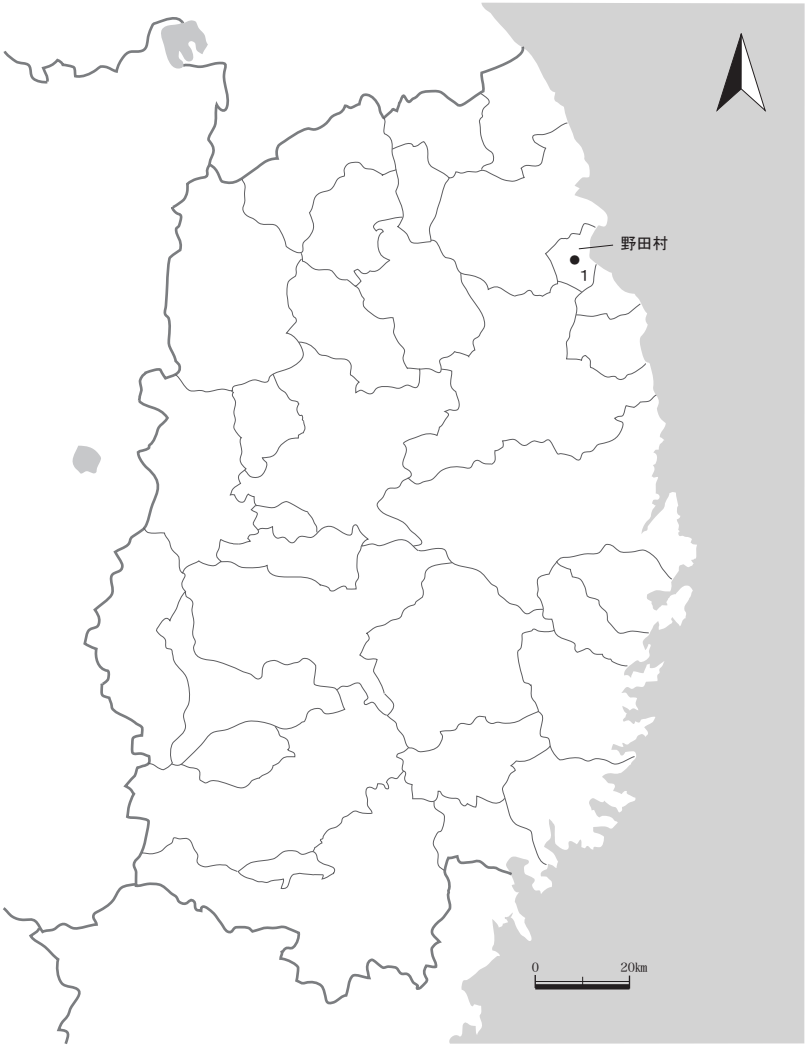


11　大橋



図版18　試掘調査・工事立会出土遺物(2)

Ⅲ　市町村支援



第63図　市町村支援発掘調査位置

市町村支援

1　大平野遺跡（野田村）

1　保育園舎建設工事

大平野遺跡（JG60－0306）

所 在 地：九戸郡野田村大字野田地内

事 業 者：野田村

調査期日：平成24年1月23日（月）～2月8日（水）

大平野遺跡（JG60−0306）は野田村役場の南西650mに位置し、明内川と泉沢川に挟まれた標高19～25mの台地上に立地している。公共下水道管埋設や村道拡幅工事に係り、当遺跡の発掘調査が実施されており、陥し穴状遺構や土坑・溝跡などが検出されている。西側には、県史跡「野田竪穴住居跡群」を含む中平遺跡が隣接しているが、当遺跡の立地する地形面は中平遺跡より僅かに低い。

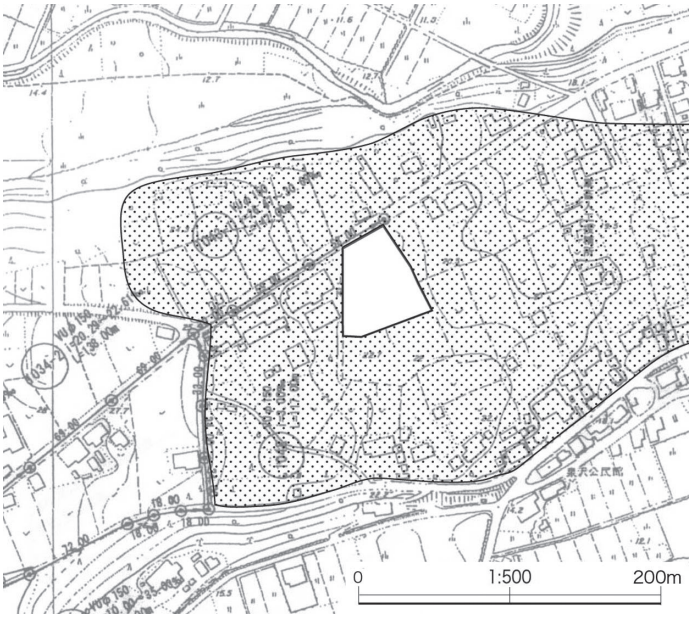
第64図　大平野遺跡位置

今回の調査は津波により被災した保育園の移転・新築工事に係るもので、野田村教育委員会からの支援依頼を受けて、平成23年8月に当課が試掘調査を実施した。事業地は村道城内二又線の南側に接する草地で、南へと緩やかに傾斜している。試掘の結果、事業地中央から北側にかけて竪穴住居跡・土坑・陥し穴状遺構と考えられる遺構が検出され、少量ではあるが土師器・須恵器が出土した。

試掘結果を踏まえて遺構保護の協議が行われ、遺構面まで掘削が及ぶ事業地南側の園舎及び共同溝部分については発掘調査を、盛土保護とした事業地北側の村道沿いの駐車場予定地については、埋蔵文化財の位置と範囲などの記録を目的とした内容確認調査を実施することとなった。野田村教育委員会には専門職員が不在であったため、村教教育委員会からの依頼を受けた当課が1月23日から発掘調査に着手した。

寒冷な本県では冬季の発掘調査は厳しい条件下にあるが、当調査は特に悪条件の下で行わざるを得なかった。一般に本県沿岸部は内陸部に比して冬季でも温暖であり、野田村でも冬季の降雪量は少ない。しかし、調査開始後まもなく寒波が襲来し、野田村でも10㎝程の積雪を見ることとなった。以後、雪は断続的に降り、必要最小限の除雪をしながらの発掘調査となった。寒冷な海風が強く吹き付けて日中でも気温は上がらず、地表が凍結した状態であり、表土除去や遺構埋土掘削には困難がともなった。

調査区の層序は、Ⅰ層：暗褐色土20～40㎝（表土）、Ⅱ層：黒～黒褐色土0～20㎝、Ⅲ層：黄褐色粘質土（層厚不明、地山）である。全般に調査地の土層堆積は非常に薄く、表土直下でⅣ層＝遺構検出面となっていた。試掘調査の際に南側（斜面下方）で人為的な整地層が確認されており、今回調査区一帯が削平されている可能性が高いと推測される。



第65図　大平野遺跡調査位置

遺構

竪穴遺構１棟、土坑13基、陥し穴状遺構６基、溝跡１条、柱穴６個が検出された。

竪穴遺構

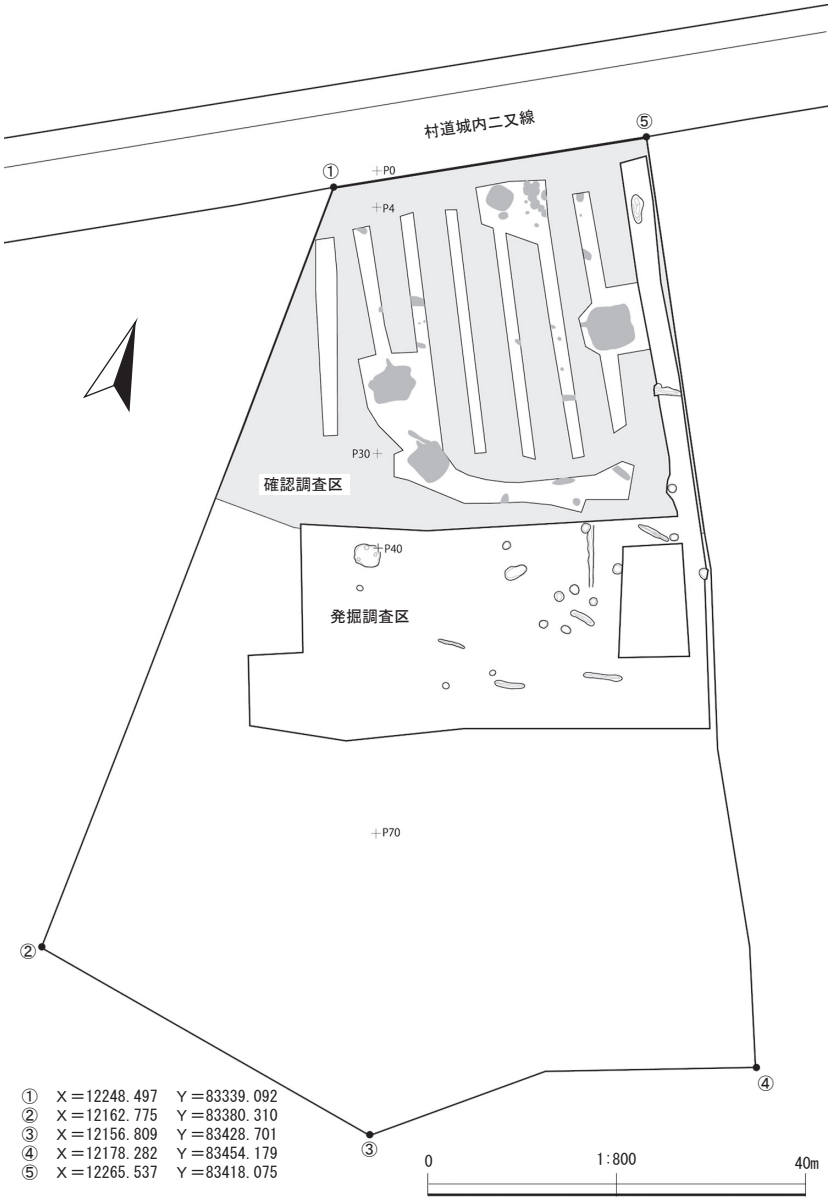
調査区北西部で１棟検出した（SKI 16)。北東隅に基準杭（“＋30杭”）が打設されていたため完掘できなかったが、平面形は東西2.7m×南北2.3mの隅丸方形と推定される。掘込みは浅く、壁高は最大0.2mである。床面で柱穴３個が検出されたが、埋土断面から見て当遺構に伴うものではなく、重複するより新しい時期のものと判断した。遺物は出土しなかった。時期は特定できないが、後述の確認調査区において当遺構と同規模で古代と推測される遺構プランが検出されており、当遺構も古代に属する可能性があると思われる。

土坑

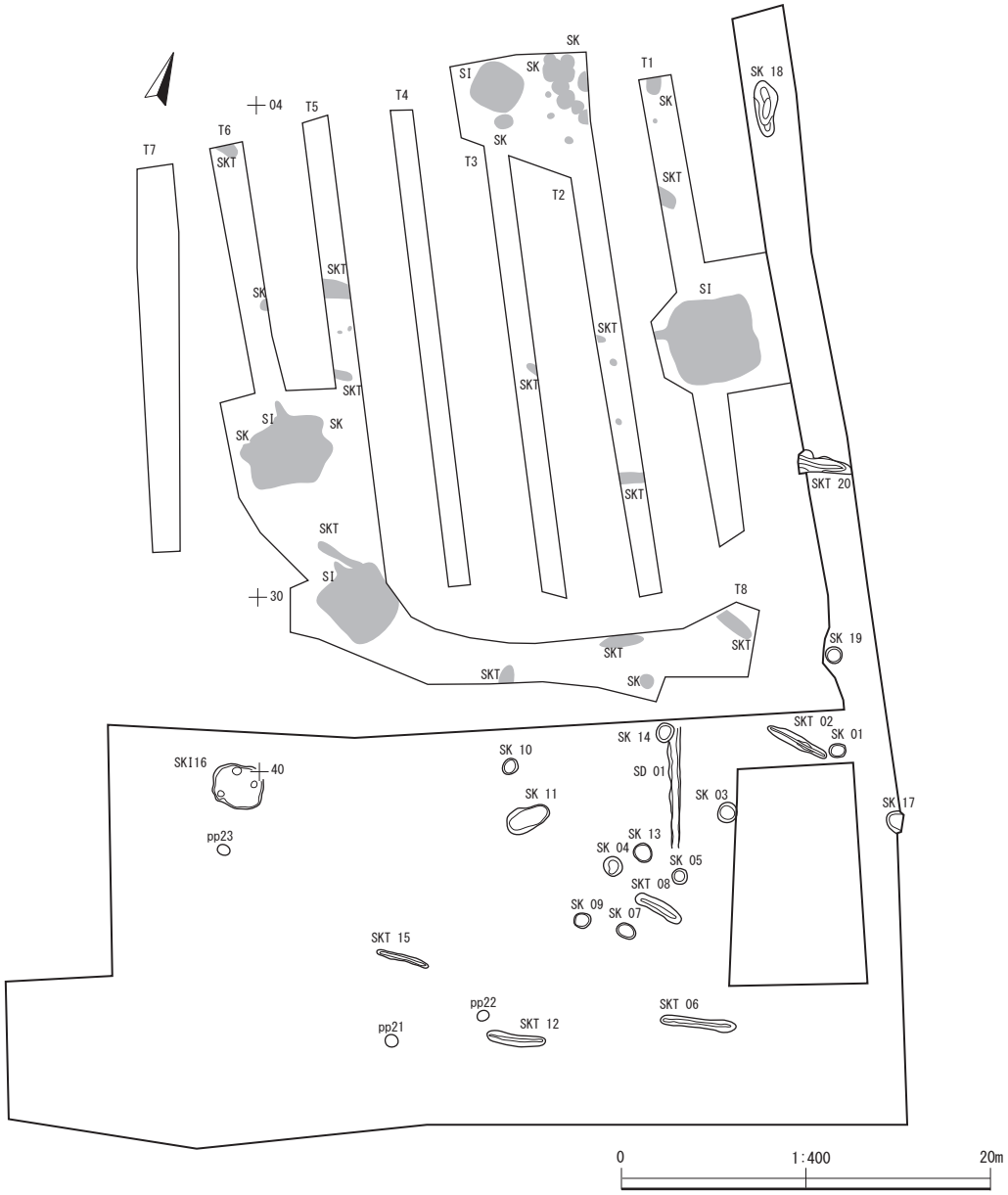
主に調査区東側を中心として分布する。平面形が長楕円形のもの２基（SK 11・18)、その他の11基は円形ないし楕円形である（SK 01・03～05・07・09・10・13・14・17・19)。円形・楕円形のものは開口部径0.7～1.1m、深さ0.1～0.7mと規模にバラつきがある。長楕円形のSK11・18は、長軸2.4～3.0m、短軸0.7～1.3m、深さ0.4～0.8mである。SK04では埋土から獣骨(種別不明）が出土している。その他の土坑は遺物はともなわず、時期や用途を推測できるものはないが、古代に属する可能性がある。

陥し穴状遺構

平面形が溝形を呈するものである(SKT 02・06・08・12・15・20)。開口部は長さ2.7～4.0m・幅0.3～0.7m、深さは0.4～1.1mである。SKT15は深さ0.4mと浅く、掘削途中の陥し穴状遺構とも考えられる。主に調査区東側に分布している。いずれも概ね東西方向に長軸をもつ形であり、数基ごとにグルーピングされるものと推測される。例えば、SKT



第66図　大平野遺跡調査区



第67図　大平野遺跡遺構配置

02・08・12は傾斜に沿って南北方向へ10m程度の間隔で配置されており、一連のものと思われる。遺物は全く出土しなかった。これまでの調査事例から見て、縄文時代に属すると推測される。

溝跡

1条検出した。北西－南東方向で直線的に延びており、北側は調査区外に続き、南側は浅くなって消えている。延長7.0m・幅0.4～0.6mを測る。深さ0.1mと浅く、底面の東寄りには柱穴状の掘込みが連続している。その形態から布掘りの塀跡と推測される。埋土は黄褐色土ブロックを含む黒色土で、遺物は出土しなかった。所属時期は不明であるが、古代のものとは考えにくく、埋土の状態から近現代のものと推測した。図化は割愛した。

柱穴

SKI16と重複するものを含めて６個検出した（pp21～26）。建物跡として認識できるものはなかった。図化は割愛した。

確認調査区

事業地北側の駐車場予定地で、事業地内で最も標高が高い面である。トレンチ状に表土を掘削して遺構の有無を確認した。竪穴遺構（住居跡）、土坑、陥し穴状遺構、柱穴と推測される遺構プランが検出された。竪穴遺構と推測されるものは４棟あり、検出時に埋土から土師器が出土している。精査していないため検出遺構の時期の詳細は特定できないが、陥し穴状遺構についてはその形態から縄文時代のもので、竪穴遺構は出土した土師器の年代観から古墳～奈良時代に属すると推測される。

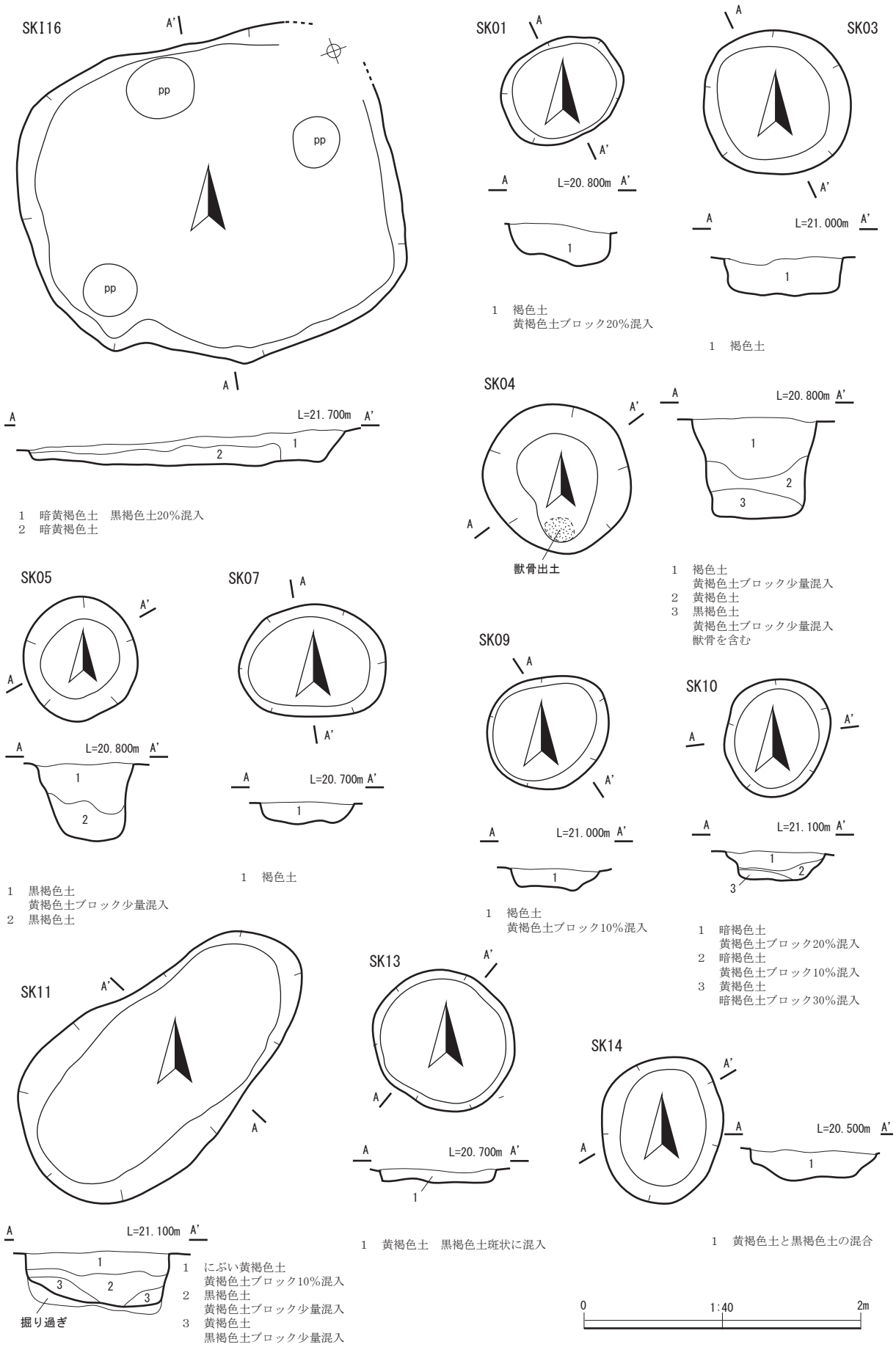
遺物

出土した遺物は少なく、非ロクロ整形の土師器のみである。発掘調査区からは出土せず、主に確認調査区Ｔ５の竪穴住居跡と推測される遺構プランの周辺から出土した。器種は坏（91・99）と甕（92～98）である。91～98はＴ５から出土したものである。91は口径17.8㎝、高さ5.8㎝と大形の坏である。口縁部下に浅い段が付き、底部は丸底である。外面はハケメとナデ、内面はミガキで調整されており、内面黒色処理されている。93・94の口縁部外面には段が付いている。体部はヘラナデした後、主に下半がミガキ調整されている。96・97の底部片には木葉痕が見られる。99はＴ２の竪穴プランから出土した坏である。これらの土師器はその特徴から見て、古墳時代から奈良時代にかけてのものと思われる。

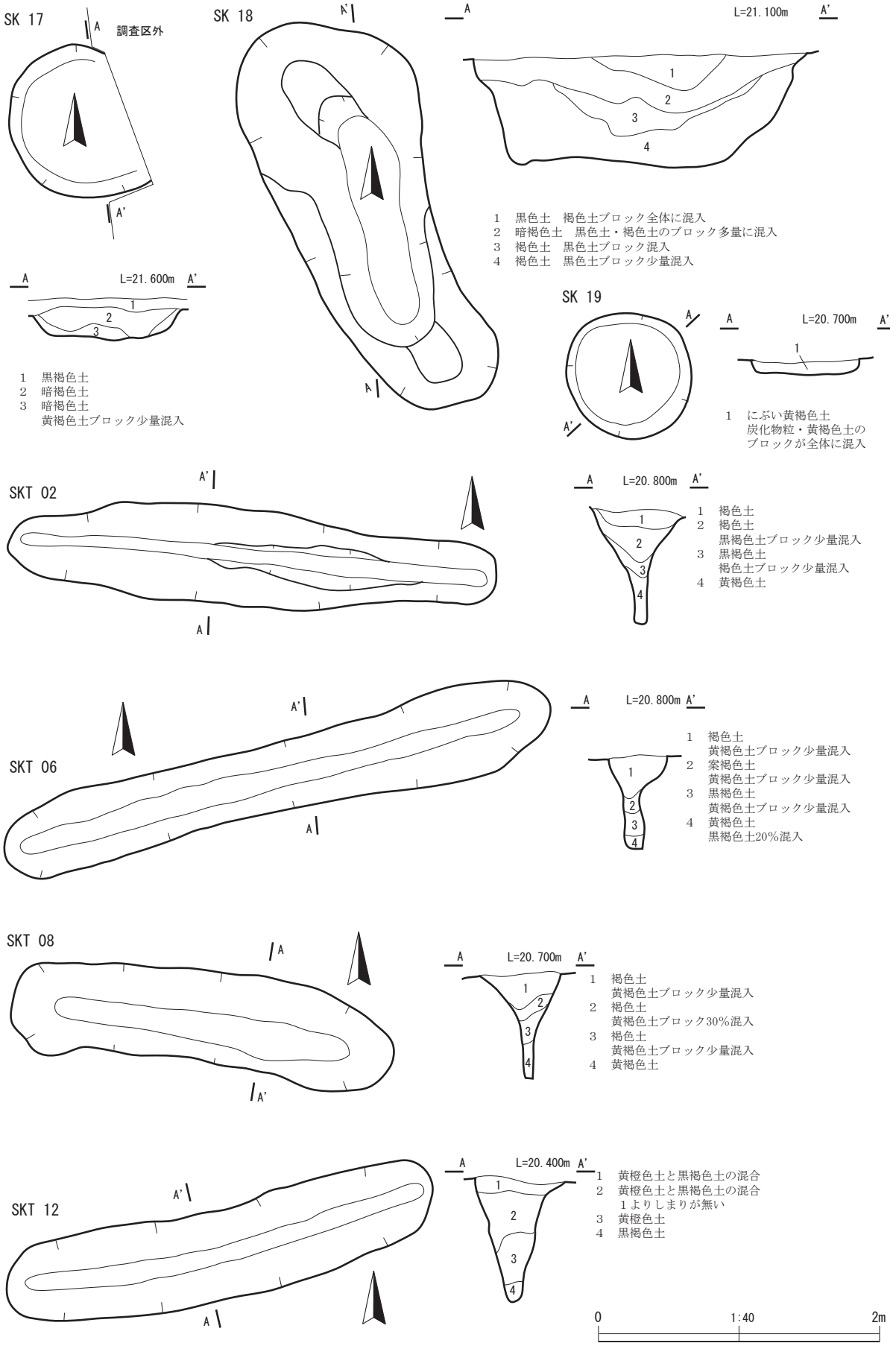
まとめ

調査の結果、今回調査区は古代の集落跡であったことが確認された。確認調査区については精査していないが、古代集落の中心は現村道沿いのより高い面にある様相であると解釈される。事業地北側に接する村道では、舗装改良工事に係り平成21年度に当課が実施した発掘調査では土坑・陥し穴状遺構・溝跡が検出されている（岩手県教育委員会編2011『岩手県文化財調査報告書』第132集）。竪穴住居跡が検出されなかったのは村道設置工事で切土されたためと考えられ、地形的に見れば村道北側にも住居分布域が続いていると思われる。また、当遺跡の西に接する中平遺跡は平安時代を主体とする大集落跡であるが、出土遺物から見れば当遺跡の住居跡群が中平遺跡のそれより古い可能性がある。中平遺跡は丘陵西側のより高い面に立地しており、標高の低い丘陵東側に立地していた古代集落（大平野ムラ：古墳～奈良時代）が徐々に西側の高い面へと移動した（中平ムラ：平安時代）、という動きが想定される。

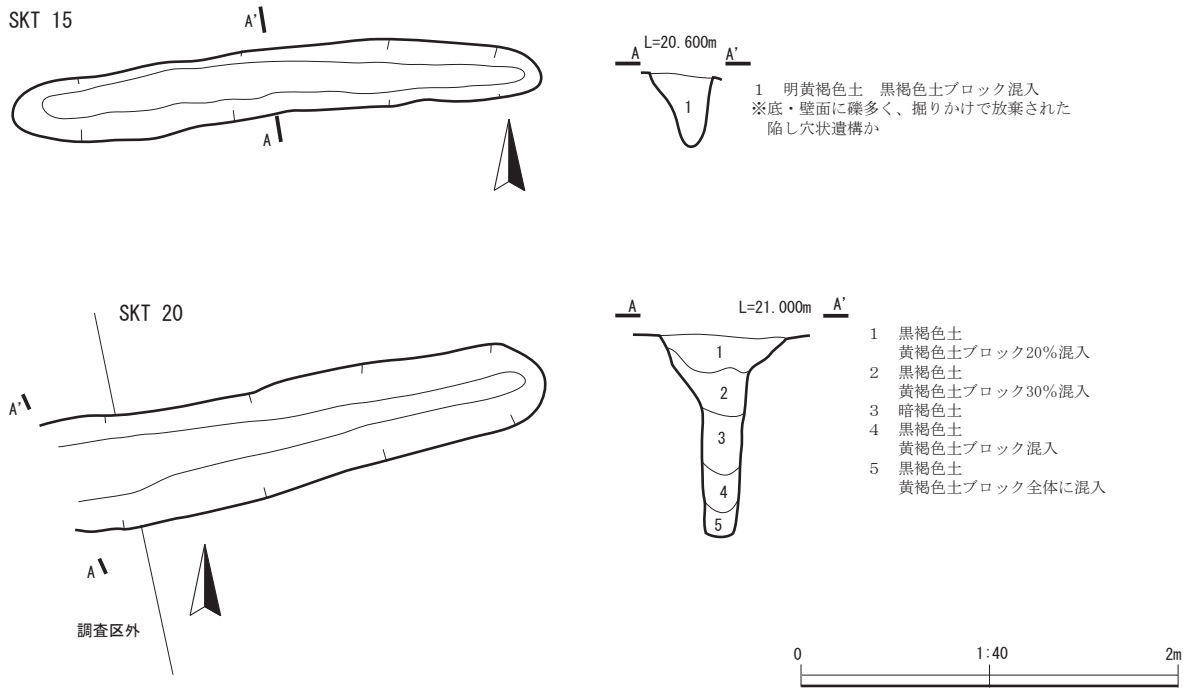
また、時期は特定できないが、陥し穴状遺構が複数基検出されたことから、狩場として利用されていた時期もあったようである。調査事例から考えれば、これら陥し穴状遺構は縄文時代に属するものと推測される。中平遺跡でも陥し穴状遺構が多数検出されており、陥し穴状遺構分布域が台地全体にまで広がっていると解される。



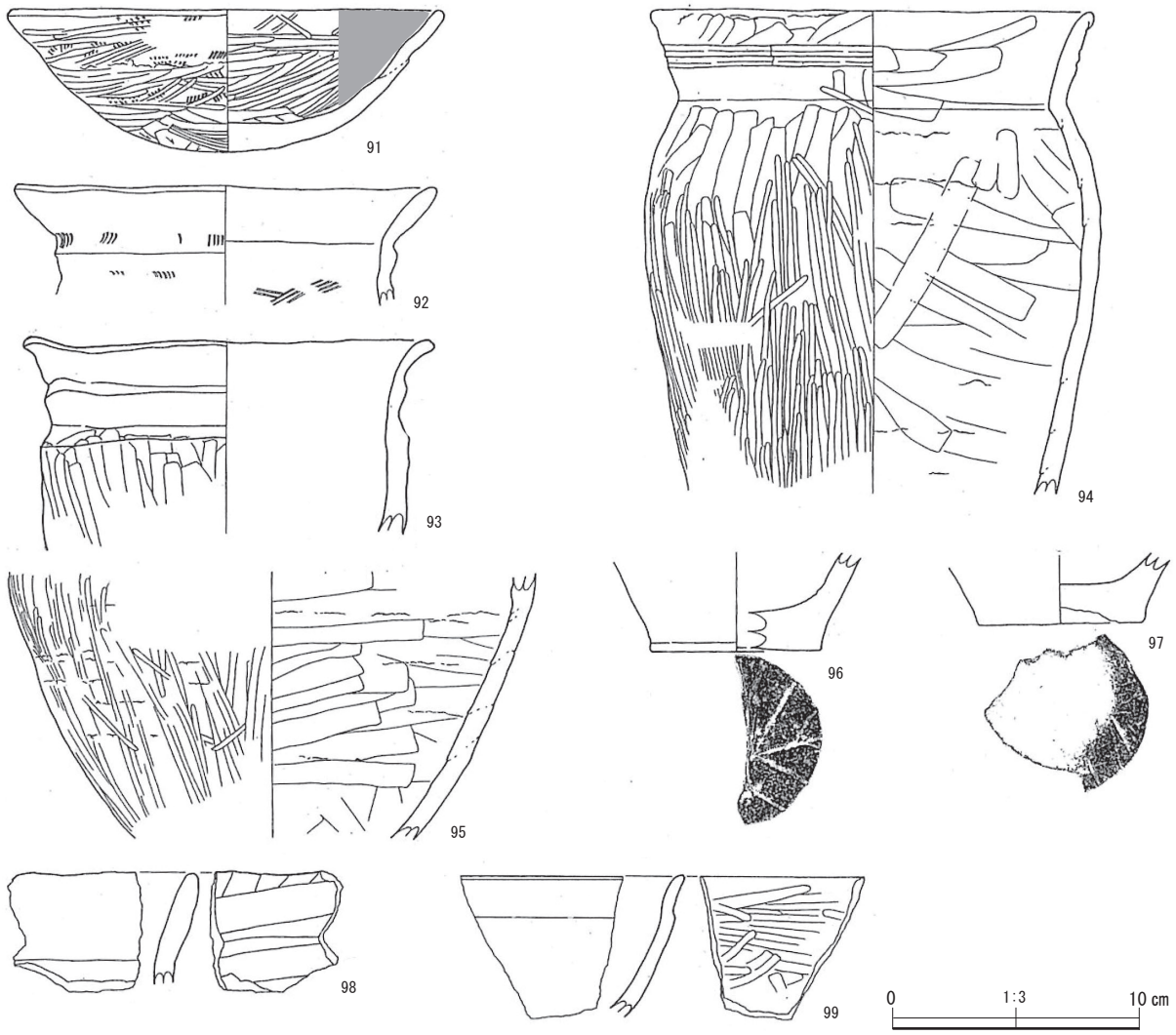
第68図　大平野遺跡検出遺構(1)



第69図　大平野遺跡検出遺構(2)



第70図　大平野遺跡検出遺構(3)



第71図　大平野遺跡出土遺物

第10表　大平野遺跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	
91	T5	表採	土師器	坏	口縁部～底部	17.8	5.8	5.0		内外面ハケメ・ナデ、内面ミガキ、黒色処理
92	T5　竪穴	表採	土師器	甕	口縁部	[17.0]				
93	T5	表採	土師器	甕	口縁部～胴部上半	[16.8]				外面ヘラナデ、下半ミガキ
94	T5	表採	土師器	甕	口縁部～胴部下半	[18.0]				外面ヘラナデ、下半ミガキ、内面ヘラナデ
95	T5　竪穴	表採	土師器	甕	胴部下半					外面ヘラナデ、下半ミガキ、内面ヘラナデ
96	T5　竪穴	表採	土師器	甕	底部			[7.0]		底部木葉痕
97	T5　竪穴	表採	土師器	甕	底部			[6.8]		底部木葉痕
98	T5	表採	土師器	甕	口縁部					内面ヘラナデ
99	T2　竪穴	埋土～床面	土師器	坏	口縁部					内面ミガキ

計測値の［　］は推定値、（　）は残存値を表す。

大平野遺跡　調査区全景（北から）

積雪後の調査区（東から）

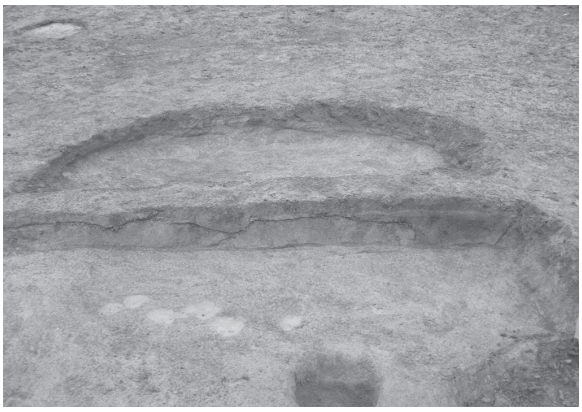
除雪作業（南から）

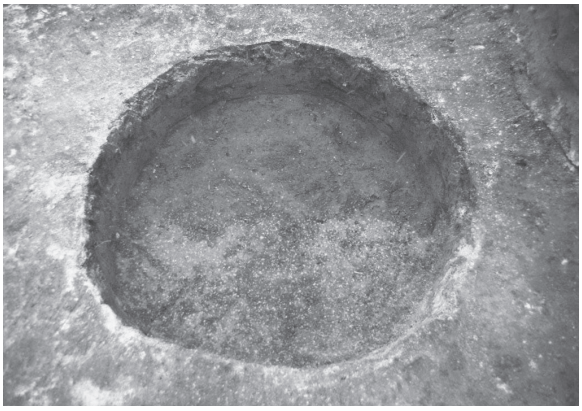
雪中での遺構精査（南から）

雪中での遺構精査（南から）

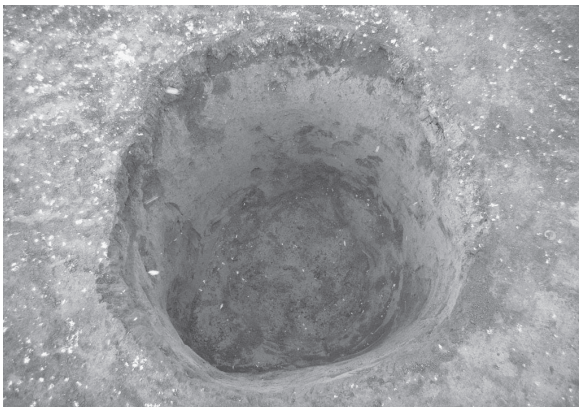
図版19　大平野遺跡調査状況

16号竪穴遺構　完掘（西から）

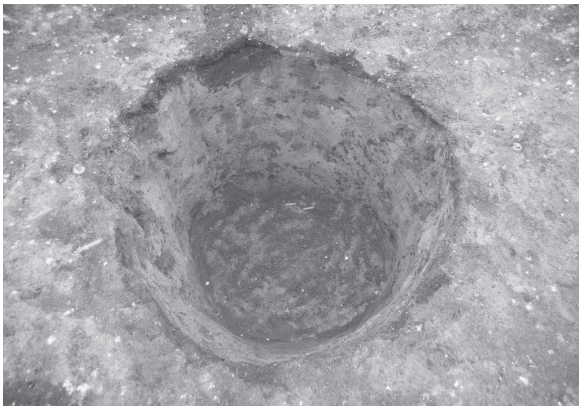

16号竪穴遺構　断面（東から）


１号土坑　完掘（南から）

３号土坑　完掘（西から）

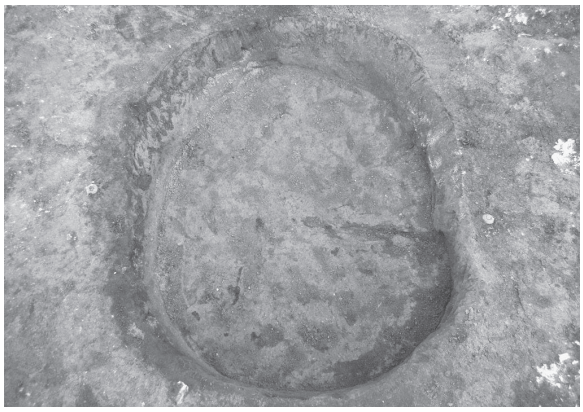

４号土坑　完掘（南から）

４号土坑　断面（南東から）


５号土坑　完掘（南から）

５号土坑　断面（南東から）

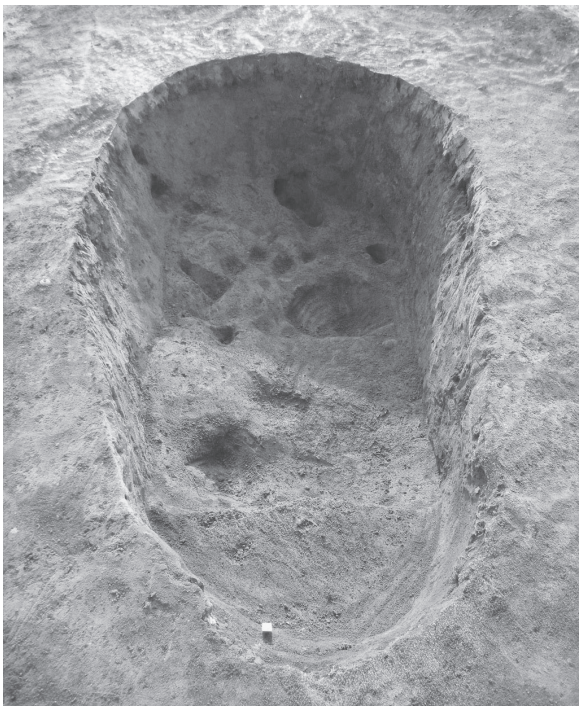
図版20　大平野遺跡検出遺構（1）



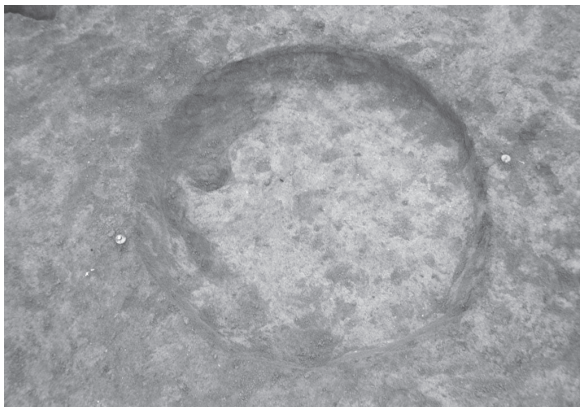
７号土坑　完掘（西から）

９号土坑　完掘（西から）

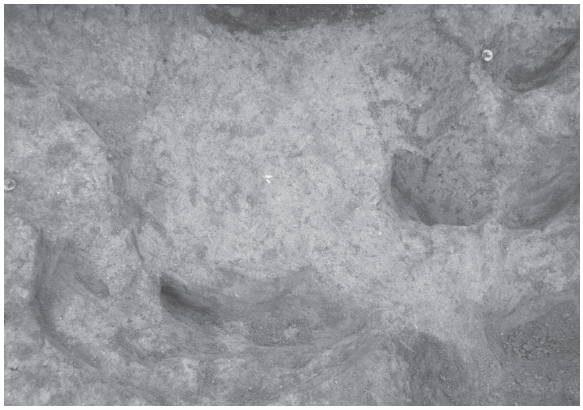
10号土坑　完掘（南から）



11号土坑　完掘（北東から）



13号土坑　完掘（北西から）

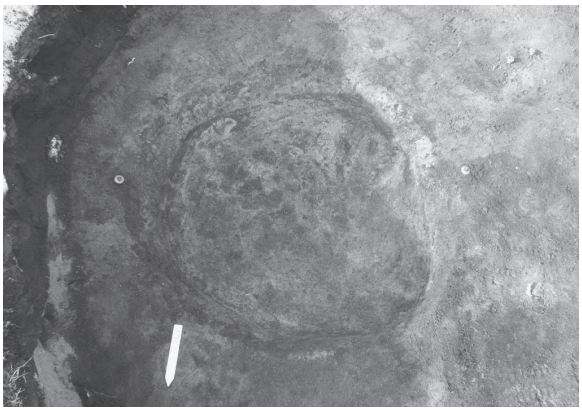


14号土坑　完掘（南から）

17号土坑　完掘（西から）

図版21　大平野遺跡検出遺構(2)

18号土坑　完掘（東から）



19号土坑　完掘（南から）

２号陥し穴状遺構　完掘（西から）

６号陥し穴状遺構　完掘（西から）

８号陥し穴状遺構　完掘（西から）

２号陥し穴状遺構　断面（東から）

６号陥し穴状遺構　断面（東から）

８号陥し穴状遺構　断面（西から）

図版22　大平野遺跡検出遺構(3)

12号陥し穴状遺構　完掘（東から）

15号陥し穴状遺構　完掘（東から）

20号陥し穴状遺構　完掘（東から）

12号陥し穴状遺構　断面（東から）

15号陥し穴状遺構　断面（東から）

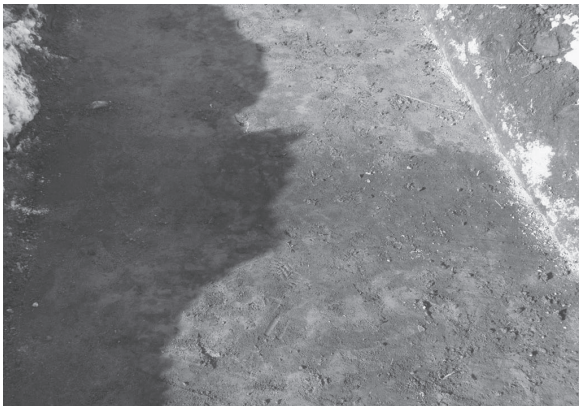
１号溝跡　完掘（南から）

図版23　大平野遺跡検出遺構(4)

Ｔ１　調査状況（南から）

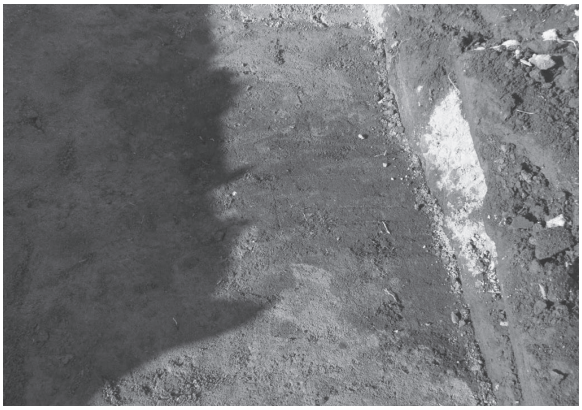
Ｔ１　竪穴遺構　検出状況（北から）

Ｔ２　調査状況（南から）

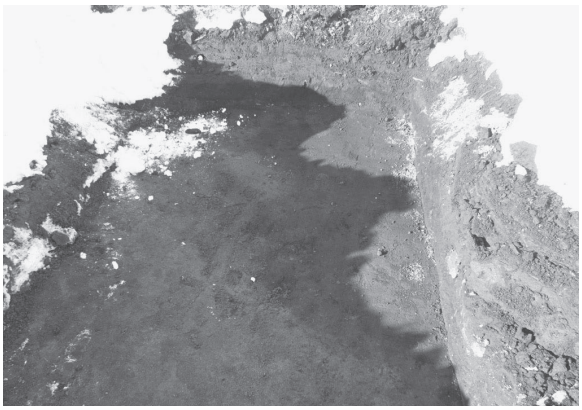


Ｔ２　陥し穴状遺構　検出状況（南から）

Ｔ３　調査状況（南から）



Ｔ３　陥し穴状遺構　検出状況（南から）

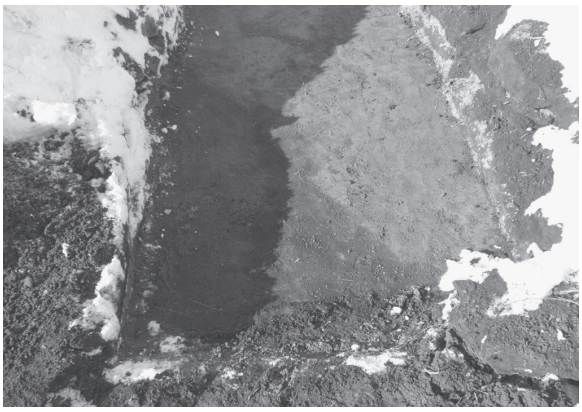


Ｔ３　竪穴遺構　検出状況（南から）

Ｔ４　調査状況（南から）

図版24　大平野遺跡確認調査区(1)

Ｔ５　調査状況（南から）



Ｔ５　竪穴遺構　検出状況（南から）

Ｔ６　調査状況（南から）

Ｔ６　竪穴遺構　検出状況（南から）

図版25　大平野遺跡確認調査区(2)

図版26　大平野遺跡出土遺物

第11表　発掘調査一覧表

※アミフセはⅠ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	検出遺構	面積（㎡）
1	平成26年5月2日～5月30日	北上川上流河川改修事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	霞畑遺跡	一関市	石積遺構２箇所	1,500
2	平成26年5月12日～16日 平成26年6月9日～25日 平成26年10月20日～23日	一般国道456号関口地区交通安全施設整備事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	上野々遺跡	花巻市	竪穴住居跡５棟、土坑１基、溝跡５条、柱穴８個	700
3	平成26年6月9日～24日	一般国道340号和井内地区地域連携道路事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	和井内西遺跡	宮古市	掘立柱建物跡２棟、柵２列、土坑４基、柱穴	1,236
4	平成26年9月16日～10月10日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）湯田地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	段ノ越遺跡	二戸市	なし	666
5	平成27年2月4日	集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	新堰端遺跡	盛岡市	溝跡１条	40

※ No. ３和井内西遺跡は平成27年度継続調査のため、平成28年度刊行調査報告書に掲載予定

第12表　試掘調査一覧表(1)

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果
1	平成26年4月10日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	外台川原遺跡	花巻市	影響なし
2	平成26年4月17日	災害公営住宅（山田町大沢地区）整備事業	県土整備部建築住宅課総括課	新開地Ⅰ遺跡	山田町	影響なし
3	平成26年4月21日～23日、 5月21日～22日	一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	和井内西遺跡	宮古市	本発掘調査
4	平成26年6月5日～6日、6月30日～7月1日	主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	可能性あり①、可能性あり②、大沢館跡、可能性あり③	山田町	影響なし
5	平成26年7月28日～29日	東北自動車道　滝沢南スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社東北支社盛岡管理事務所	高屋敷Ⅱ遺跡、大久保遺跡	滝沢市	影響なし
6	平成26年8月5日	農地整備事業（通作条件整備）手代森3期地区	盛岡広域振興局農政部農村整備室	郷ケ沢遺跡、本宮遺跡	盛岡市	影響なし
7	平成26年8月25日	一関遊水地事業（磐井川堤防拡幅）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	西平Ⅰ遺跡隣接地	一関市	影響なし
8	平成26年9月9日	農地整備事業（通作条件整備）　竹駒地区	沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター農村整備室	北平遺跡、新田Ⅲ遺跡	陸前高田市	影響なし
9	平成26年9月26日	一般県道遠野住田線下組町地区道路改築工事	県南広域振興局土木部遠野土木センター	可能性あり（下組町地区）	遠野市	影響なし
10	平成26年9月26日	経営体育成基盤整備事業天下田地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	下二階遺跡、油沢遺跡	花巻市	本発掘調査
11	平成26年9月29日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	外台川原遺跡	花巻市	影響なし
12	平成26年10月8日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	堀内Ⅳ遺跡	宮古市	影響なし
13	平成26年10月8日～9日	畑地帯総合整備事業(担い手育成型)	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	段ノ越遺跡	二戸市	影響なし
14	平成26年10月9日～10日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	小堀内Ⅰ遺跡	宮古市	影響なし
15	平成26年10月15日、12月2日	地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	可能性あり（和井内地区）	宮古市	影響なし
16	平成26年10月20日	地域連携道路整備事業	東日本高速道路株式会社東北支社北上管理事務所	中島遺跡	奥州市	影響なし
17	平成26年10月21日	中山間地域総合整備事業　愛宕地区	県南広域振興局農政部農村整備室	宮坂遺跡、三本柳遺跡、可能性あり②	奥州市	影響なし
18	平成26年10月27日	農地整備事業（通作条件整備）上野2期地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	下村向遺跡、大沢遺跡	一戸町	影響なし
19	平成26年10月28日	地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	大木遺跡	花巻市	影響なし
20	平成26年10月28日～29日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	伍大坂Ⅰ遺跡、久田Ⅱ遺跡、高田坂遺跡	北上市	影響なし
21	平成26年10月29日～30日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	石行遺跡、小十文字遺跡	奥州地	影響なし
22	平成26年10月30日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	田鎖車堂前遺跡	宮古市	影響なし
23	平成26年11月6日～7日	河川等災害復旧事業　二級市道沼の浜青の滝線沼の浜地区	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	重津部Ⅰ遺跡	宮古市	本発掘調査
24	平成26年11月5日	中山間地域総合整備事業霞沢地区	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり13、14	一関市	影響なし
25	平成26年11月5日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	可能性あり	宮古市	影響なし
26	平成26年11月5日～6日、20日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	小堀内Ⅱ遺跡	宮古市	影響なし

第13表　試掘調査一覧表(2)

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果
27	平成26年11月6日～7日、19日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	小堀内Ⅲ遺跡	宮古市	影響なし
28	平成26年11月11日～12日	地域連携道路整備事業　主要地方道重茂半島線	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	千鶏Ⅱ遺跡	宮古市	本発掘調査
29	平成26年11月19日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	赤前Ⅳ釜屋ヶ沢遺跡	宮古市	影響なし
30	平成26年11月19日～21日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	赤前Ⅴ柳沢遺跡	宮古市	影響なし
31	平成26年11月19日	店舗新築工事　※民間開発事業	株式会社サンデー	有矢野遺跡	八幡平市	影響なし
32	平成26年11月21日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業主要地方道重茂半島線堀内～津軽石地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	堀内Ⅳ遺跡	宮古市	影響なし
33	平成26年11月25日～26日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	田鎖遺跡	宮古市	本発掘調査
34	平成26年12月11～12日	畑地帯総合整備事業(担い手育成型)	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	佐々木館、上平Ⅲ遺跡	二戸市	影響なし
35	平成26年12月3・4日	主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	紅山Ｂ遺跡、可能性あり④	山田町	影響なし
36	平成26年12月4日	地域連携道路整備事業（社会資本整備総合交付金事業・復興枠）　一般国道340号	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター	世田米城跡	住田町	本発掘調査
37	平成26年12月9日	主要地方道大船渡広田陸前高田線大陽工区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター	大陽里Ⅱ遺跡	陸前高田市	影響なし
38	平成26年12月18日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	田鎖車堂前遺跡	宮古市	影響なし
39	平成26年12月24日	地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	野田Ⅰ遺跡	北上市	本発掘調査
40	平成27年1月13日	床上浸水対策特別緊急事業	盛岡広域振興局土木部	南矢巾遺跡、上矢次Ⅰ遺跡	矢巾町	影響なし
41	平成27年1月19日・23日・30日	集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第10号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	志波城跡、新堰端遺跡	盛岡市	本発掘調査
42	平成27年2月9日	畑地帯総合整備事業(担い手育成型)男神・米沢・湯田地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	佐々木館遺跡、段ノ越遺跡	二戸市	影響なし
43	平成27年3月4日	主要地方道一関北上線荒谷地区道路改良工事	県南広域振興局土木部	可能性あり1	奥州市	影響なし
44	平成27年3月27日	畑地帯総合整備事業(担い手育成型)	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	佐々木館遺跡	二戸市	影響なし

第14表　分布調査一覧表(1)

1　林道事業　林道専用道中の又線（開設）　　県南広域振興局林務部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				胆沢郡金ケ崎町永沢大森、永栄中の又地内	平成26年5月27日	影響なし

2　農業農村整備事業　後藤川地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				八幡平市平舘地内	平成26年6月13日	影響なし

3　農村地域防災減災事業　一方井地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	KE16-1302	飼鷹Ⅳ遺跡	縄文・平安	土器小片	散布地	岩手郡岩手町大字一方井今松地内	平成26年6月16日	試掘調査 工事立会
2	KE17-1010	今松遺跡	奈良・平安		集落跡	岩手郡岩手町大字一方井今松地内	平成26年6月16日	試掘調査 工事立会

4　農村水利施設保全合理化事業（南陣場地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり（南陣場地区）				奥州市前沢区字南陣場地内	平成26年6月16日	試掘調査

5　県営土地改良事業調査　松川大堰地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	KE47-0017	上大台館跡	中世		城館跡	盛岡市玉山区好摩及び八幡平市大更地内	平成26年6月16日	影響なし

6　地域連携道路整備事業　主要地方道一関北上線　柵の瀬橋　　県南広域振興局土木部一関土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE87-2023	古館遺跡	中世末		城館跡擬定地	一関市中里字柵ノ瀬地内	平成26年6月16日	試掘調査
2		可能性あり				一関市舞川字中谷起地内	平成26年6月16日	試掘調査

7　農村水利施設保全合理化事業（東稲第二地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり1（2-1号支線）				西磐井郡平泉町長島字小戸	平成26年6月16日	試掘調査
2	NE77-0192 NE77-0190	中村Ⅰ遺跡 中村Ⅱ遺跡	縄文		散布地	西磐井郡平泉町長島字中村	平成26年6月16日	試掘調査
3		可能性あり2（2-3号支線）				西磐井郡平泉町長島字下西風	平成26年6月16日	試掘調査

8　農村水利施設保全合理化事業（長堤地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				奥州市江刺区岩谷堂字寺沢地内（長堤地区）	平成26年6月17日	試掘調査

9　農村水利施設保全合理化事業（二子町南部地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE17-0215	鴻ノ巣館遺跡	(平安)・古代		散布地	奥州市江刺区愛宕字力石地内	平成26年6月17日	試掘調査
2	NE17-0129	大畑遺跡及び隣接地	(平安)・古代		散布地	奥州市江刺区愛宕字大畑地内	平成26年6月17日	試掘調査

10　農村水利施設保全合理化事業（樋茂井地区）　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり1（樋茂井地区）				奥州市江刺区米里字荒町地内	平成26年6月17日	試掘調査
2		可能性あり2（樋茂井地区）				奥州市江刺区米里字根岸地内	平成26年6月17日	試掘調査
3		可能性あり3（樋茂井地区）				奥州市江刺区米里字山ノ林地内	平成26年6月17日	試掘調査
4		可能性あり4（樋茂井地区）				奥州市江刺区玉里峯ノ後	平成26年6月17日	試掘調査

第15表　分布調査一覧表(2)

11　農村災害対策整備事業（猿ケ石東部幹線地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり（白山用水路）				奥州市江刺区玉里字白山通地内	平成26年6月17日	試掘調査
2		可能性あり				奥州市江刺区玉里字小屋敷地内	平成26年6月17日	試掘調査
3		可能性あり				奥州市江刺区玉里字角川原地内	平成26年6月18日	試掘調査

12　農村災害対策整備事業（猿ケ石北部幹線地区）　　県南広域振興局農政部一関農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり1（新地野用水路）				奥州市江刺区梁川字舘下地内	平成26年6月18日	試掘調査
2		可能性あり2（新地野用水路）				奥州市江刺区梁川字日ノ神地内	平成26年6月18日	試掘調査
3		可能性あり3（石関用水路）				奥州市江刺区稲瀬字大迫地内	平成26年6月20日	試掘調査

13　基幹水利施設ストックマネジメント事業　岩手４期地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LE46-0244	上矢次Ⅰ遺跡	古代		キャンプ地	紫波郡矢巾町大字上矢次第3地割字向井	平成26年6月27日	慎重工事
	LE46-2220	細谷遺跡	古代		散布地	紫波郡矢巾町大字煙山第29地割字九田坊	平成26年6月27日	慎重工事

14　一般国道4号　水沢東バイパス（6-2工区）　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり①垣ノ内Ⅰ遺跡隣接地				奥州市水沢区上姉体	平成26年7月9日	試掘調査
2		可能性あり②北余目遺跡隣接地				奥州市水沢区上姉体	平成26年7月9日	試掘調査

15　一般県道大更好摩線五百森地区道路環境整備事業（交通安全）　　盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	KE35-1347	五百森Ⅱ遺跡	古代			八幡平市大更五百森	平成26年7月15日	影響なし
2	KE36-1032	五百森Ⅰ遺跡	縄文・古代			八幡平市大更五百森	平成26年7月15日	影響なし

16　主要地方道盛岡環状線市道取付工事　　盛岡広域振興局土木部道路環境課

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				滝沢市野沢地内	平成26年7月22日	影響なし

17　森林管理道　鷹ノ巣・鰻沢線（第1工区）改築工事　　盛岡広域振興局林務部森林保全課林道チーム

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡葛巻町葛巻地内	平成26年7月23日	影響なし

18　農業水利施設保全合理化事業（金田一地区）　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	IF80-0086	馬場遺跡	奈良		集落跡	二戸市金田一字馬場、字大釜地内	平成26年7月24日	影響なし

19　農村地域防災減災事業（十文字地区）隋道改修区間　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				二戸市下斗米字釜屋敷地内	平成26年7月24日	影響なし
2		可能性あり				二戸市金田一字上平、字新田、字日ノ沢地内	平成26年7月24日	影響なし

20　通常砂防事業市部内の沢（滝ノ沢工区）地区　　盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡葛巻町字市部内地内	平成26年7月31日	影響なし

第16表　分布調査一覧表(3)

21　通常砂防事業ヌナヤ沢地区　　盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡葛巻町字猿方地内	平成26年7月31日	影響なし

22　一般県道普代小屋瀬線道路改築事業　芦渡の1工区　　県北広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				下閉伊郡普代村芦渡地内	平成26年8月18日	影響なし
2		可能性あり1				下閉伊郡普代村芦渡地内	平成26年8月18日	試掘調査
3		可能性あり2				下閉伊郡普代村芦渡地内	平成26年8月18日	試掘調査

23　水産生産基盤整備事業　音部地区　　沿岸広域振興局水産部宮古水産振興センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LG45-2225	音部大下遺跡	縄文		散布地	宮古市音部第5地割大下	平成26年8月18日	影響なし
2	LG45-2239	音部谷地頭Ⅰ遺跡	縄文		散布地	宮古市音部第1地割谷地頭	平成26年8月18日	影響なし

24　災害復旧事業　　沿岸広域振興局

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり1				釜石市箱崎町箱崎地内	平成26年8月19日	試掘調査

25　砂防堰堤事業　普代の沢工区　　県北広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				下閉伊郡普代村普代地内	平成26年8月22日	影響なし

26　両石漁港海岸災害復旧事業　　沿岸広域振興局水産部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				釜石市両石町地内	平成26年8月26日	影響なし

27　広域公園整備事業　御所湖広域公園関根現況保存林ほか維持補修工事　　盛岡広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡雫石町西安庭地内	平成26年8月29日	影響なし

28　中山間地域総合整備事業　大村地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡雫石町大村地内	平成26年10月2日	影響なし

29　北上川上流中流部緊急治水対策事業　紫波地区・黒岩地区　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LE77-0144	北日詰城内Ⅱ遺跡	縄文		集落跡	紫波郡紫波町北日詰字城内地内	平成26年9月16日	試掘調査
2	LE77-0164	北条館遺跡	中世		城館跡	紫波郡紫波町北日詰字城内地内	平成26年9月16日	試掘調査
3	LE77-0194	北日詰城内Ⅰ遺跡	古代		散布地	紫波郡紫波町北日詰字城内地内	平成26年9月16日	試掘調査
4	LE77-1104	南日詰大銀Ⅱ遺跡	古代		散布地	紫波郡紫波町南日詰字小路口地内	平成26年9月16日	試掘調査
5		可能性あり	古代			紫波郡紫波町桜町本町川原地内	平成26年9月16日	試掘調査
1	ME56-1388	黒岩宿遺跡	縄文・弥生・平安		集落跡	北上市黒岩地内	平成26年9月16日～17日	試掘調査

30　農村地域防災減災事業一方井地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	MF25-0050	荒屋Ⅰ遺跡	不明		散布地	遠野市附場牛町下附場牛字荒屋地内	平成26年9月17日	慎重工事

31　地域連携道路整備事業　主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区　　沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LG45-2290	堀内Ⅲ遺跡	縄文		散布地	宮古市赤前第16地割堀内地内	平成26年9月30日	工事立会
2	LG45-2099	熊の平遺跡	縄文		散布地	宮古市音部第４地割須賀長根地内	平成26年10月1日	慎重工事

第17表　分布調査一覧表(4)

32　中山間地域総合整備事業　大村地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡雫石町大村地内	平成26年10月2日	影響なし

33　中山間地域総合整備事業　大村地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				岩手郡雫石町大村地内	平成26年10月2日	影響なし

34　地域連携道路整備事業　主要地方道重茂半島線石浜地区　　沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LG75-1227	石浜Ⅱ遺跡	縄文		散布地	宮古市重茂16地割石浜地内	平成26年10月2日	工事立会
2	LG75-1235	石浜Ⅳ遺跡	古代		散布地	宮古市重茂16地割石浜地内	平成26年10月2日	影響なし
3	LG75-0345	千鶏Ⅱ遺跡	縄文		集落跡	宮古市重茂16地割石浜地内	平成26年10月1日	試掘調査

35　主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業　　沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE76-2347	堀内Ⅳ遺跡	縄文		散布地	宮古市赤前第15地割堀内地内	平成26年10月9日	試掘調査

36　水質保全対策事業　雪谷川地区　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				九戸郡軽米町小軽米地内	平成26年10月15日	影響なし

37　防災安全事業一般県道清水野村崎線飯豊地区　　県南広域振興局土木部北上土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				北上市飯豊地内	平成26年10月16日	影響なし

38　治水施設整備事業　大野地区　　県南広域振興局土木部北上土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				和賀郡西和賀町大野地内	平成26年10月17日	影響なし

39　地域連携道路整備事業小田中地区　　県南広域振興局土木部花巻土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				北上市和賀町煤孫～山口地内	平成26年10月28日	試掘調査

40　地域連携道路整備事業　一般国道340号押角地区　　沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				宮古市和井内字境ノ神～下閉伊郡岩泉町大川字大家地区	平成26年11月17日	影響なし

41　小水力等再生可能エネルギー導入推進事業　瀬月内ダム地区　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				久慈市山形町来内地内	平成26年11月18日	影響なし

42　草地畜産基盤整備事業　北三陸地区　　県北広域振興局農政部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				久慈市山県町川井地内	平成26年11月18日	慎重工事

43　警察施設災害復旧事業（釜石警察署大槌交番）　　県警察本部警務部会計課

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				上閉伊郡大槌町大槌23地内	平成26年12月3日	影響なし

44　地域連携道路整備事業（復興交付金）小友地区　　沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1		可能性あり				陸前高田市小友町地内	平成26年12月5日	影響なし

45　治山事業　丑沢地区　　懸案広域振興局林務部

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE46-1109	古城上野遺跡				奥州市前沢区丑沢地内	平成26年12月8日	慎重工事

第18表　分布調査一覧表(5)

46　梁川ダム建設事業（付替林道、ダム湛水域）　盛岡広域振興局土木部梁川ダム建設事務所

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	LE29-2239	ブスノ沢遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	工事立会
2	LE29-1118	沢口Ⅱ遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	慎重工事
3	LE29-2215	下片貝遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	慎重工事
4	LE39-0219	根田茂沢遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	慎重工事
5	LE39-0352	細野Ａ遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	慎重工事
6	LE39-1324	洗沢遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂地内	平成26年1月27日	慎重工事

47　経営体育成基盤整備事業小山西地区　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE24-2300	十文字遺跡	縄文、古代		散布地	奥州市胆沢区小山字下十文字地内	平成27年2月23日	試掘調査
2	NE25-2033	石行遺跡	縄文、古代		散布地	奥州市胆沢区南都田字石行地内	平成27年2月23日	影響なし

48　経営体育成基盤整備事業小山中央南地区　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	NE35-2102	明山遺跡	縄文		散布地	奥州市胆沢区小山字明山地内	平成27年2月23日、3月18日	試掘調査
2	NE35-2006	恩俗長根遺跡	縄文		散布地	奥州市胆沢区小山字明山、上恩俗地内	平成27年2月23日、3月18日	試掘調査
3		可能性あり				奥州市胆沢区小山地内	平成27年2月23日、3月18日	試掘調査
4	NE35-2012	上恩俗遺跡	縄文		散布地	奥州市胆沢区小山字上恩俗地内	平成27年2月23日、3月18日	試掘調査
5	NE35-2138	長根遺跡	縄文		散布地	奥州市胆沢区小山字長根地内	平成27年2月23日、3月18日	試掘調査

49　経営体育成基盤整備事業増沢西部地区　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	ME97-1323	中野遺跡	縄文		散布地	奥州市江刺区岩谷堂字中野地内	平成27年2月24日	試掘調査
2		可能性あり①				奥州市江刺区岩谷堂字上堰地内	平成27年2月24日	試掘調査
3		可能性あり②				奥州市江刺区岩谷堂地内	平成27年2月24日	試掘調査
4		可能性あり③				奥州市江刺区岩谷堂地内	平成27年2月24日	試掘調査
5	ME97-1042	大名野遺跡	縄文、古代		散布地	奥州市江刺区岩谷堂字丸田地内	平成27年2月24日	試掘調査
6		可能性あり④				奥州市江刺区岩谷堂地内	平成27年2月24日	試掘調査
7	ME98-1154	牧沢遺跡	古代		散布地	奥州市江刺区岩谷堂字丸田地内	平成27年2月24日	試掘調査
8	ME97-1255	四天坊古墳			古墳	奥州市江刺区岩谷堂地内	平成27年3月18日	慎重工事

50　農地整備事業（通作条件整備）赤川地区　県南広域振興局農政部遠野農林振興センター

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時代	遺構遺物	種別	所　在　地	調査日	結果
1	MF66-0167	伊原遺跡	縄文・平安		散布地	遠野市上郷町赤川地区	平成27年3月3日	影響なし
2	MF66-1323	川原Ⅱ遺跡	平安		散布地	遠野市上郷町川原地区	平成27年3月3日	影響なし
3	MF67-1002	甲子Ⅱ遺跡	縄文		散布地	遠野市上郷町甲子地区	平成27年3月3日	影響なし

第19表　工事立会一覧表

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事　業　名	事　業　者	遺　跡　名	所在地	結果
1	平成26年4月18日	骨寺村荘園景観保全の内整備事業 補完工事	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	骨寺村荘園遺跡	一関市	影響なし
2	平成26年4月21日	経営体育成基盤整備事業 徳田第二・下矢次地区第18号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	徳丹城跡 隣接地	矢巾町	影響なし
3	平成26年5月7日	経営体育成基盤整備事業 徳田第二・下矢次地区第18号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	徳丹城運河跡	矢巾町	影響なし
4	平成26年5月7日	経営体育成基盤整備事業 徳田第二・下矢次地区第18号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	風張遺跡	矢巾町	影響なし
5	平成26年5月13日	綱取ダム管理宿舎解体工事	盛岡広域振興局土木部綱取ダム管理事務所	稲久保遺跡	盛岡市	影響なし
6	平成26年5月20日	集落基盤整備事業（地域用水型） 鹿妻新堰地区第6号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	志波城跡	盛岡市	影響なし
7	平成26年7月2日	第一北上中部工業用水道（北上工水） 配水管更新（Ⅰ－Ⅰ工区）工事	岩手県企業局県南施設管理所	二子城遺跡	北上市	影響なし
9	平成26年8月27日	送電鉄塔移設工事	葛巻町教育委員会	戸草沢遺跡	葛巻町	影響なし
10	平成26年9月3日	経営体育成基盤整備事業　石山地区	県南広域振興局農政部農村整備室	松川遺跡、大日前遺跡	奥州市	影響なし
11	平成26年10月3日	県単交通安全施設整備事業 一般国道397号宇南田地区歩道整備工事 宇南田工区	県南広域振興局土木部道路河川環境課道路環境チーム	要害（止々井館）遺跡	奥州市	影響なし
12	平成26年9月4日	地域連携道路整備事業 駒ヶ嶺地区	県北広域振興局土木部二戸土木センター	田余内Ⅰ遺跡	二戸市	影響なし
13	平成26年9月26日	個人住宅建設	西和賀町教育委員会	川尻館遺跡	西和賀町	影響なし
15	平成26年10月10日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	大日前遺跡	奥州市	影響なし
16	平成26年10月16日	一関遊水地事業 磐井川改修石畑地区	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり	一関市	影響なし
17	平成26年10月23日	地域づくり緊急改善事業 主要地方道花巻大曲線湯口地区道路側溝整備工事	県南広域振興局土木部花巻土木センター	鳥谷遺跡、松原遺跡	花巻市	影響なし
18	平成26年10月24日	農用地災害復旧関連区画整理事業 山田地区折笠工区 (用水取水口)	沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター	根井沢Ⅱ遺跡	山田町	影響なし
19	平成26年11月11日	地域連携道路整備事業 一般国道284号室根バイパス	県南広域振興局土木部一関土木センター	八幡沖遺跡隣接地	一関市	影響なし
20	平成26年11月13日・18日	国営和賀中央農業水利事業 上堰幹線用水路改修工事	東北農政局和賀中央農業水利事業所	吉沢遺跡、大橋遺跡	北上市	影響なし
21	平成26年11月17日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	石山遺跡	奥州市	影響なし
22	平成26年11月21日	観音寺地区県単治山（崩壊地復旧）事業	県南広域振興局農政部一関農林振興センター	佐の脇遺跡	一関市	影響なし
23	平成26年12月8日	国営和賀中央農業水利事業 中央幹線放水路改修工事	東北農政局和賀中央農業水利事業所	江釣子古墳群	北上市	影響なし
24	平成26年12月10日	盛岡西警察署繋駐在所新築工事	岩手県警察本部刑務部会計課	繋Ⅳ遺跡	盛岡市	影響なし
25	平成26年12月1日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	猪岡館遺跡	平泉町	影響なし
27	平成27年2月9日	畑地帯総合整備事業藤崎2期地区	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	栗沢遺跡	一関市	影響なし
28	平成27年2月12日	経営体育成基盤整備事業 都鳥3期地区	県南広域振興局農政部農村整備室	清水下遺跡	奥州市	影響なし
29	平成27年2月16日	県単交通安全施設整備事業 宇南田工区	県南広域振興局土木部	宇南田遺跡	奥州市	影響なし
30	平成27年3月17日	都市計画道路上堂鵜飼線諸葛の2地区街路改良工事	盛岡広域振興局土木部	高柳遺跡	滝沢市	影響なし

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副　書　名	平成26年度　国庫補助事業
シ リ ー ズ 名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第145集
編 集 者 名	岩手県教育委員会
編 集 機 関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
所　在　地	〒020−8570　岩手県盛岡市内丸10−1　TEL 019−629−6180
発 行 年 月 日	平成28年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
かすみがはたいせき 霞畑遺跡	いちのせきしかわさきちょうかんざきちない 一関市川崎町門崎地内	03209	OE09-2100	39度 54分 11秒	141度 15分 18秒	20140502〜0530	1,500	記録保存 調査
しんぜきばたいせき 新堰端遺跡	もりおかししもおたあざしんぜきばたちない 盛岡市下太田字新堰端地内	03201	LE15-2359	39度 40分 57秒	141度 6分 25秒	20150204	40	記録保存 調査
うえののいせき 上野々遺跡	はなまきしいしどりやちょうにいぼりちない 花巻市石鳥谷町新堀地内	03205	LE97-2160	39度 27分 51秒	141度 10分 4秒	20140512〜0516 20140609〜0625 20141020〜1023	700	記録保存 調査
だんのこしいせき 段ノ越遺跡	にのへしきんだいちあざだんのこしちない 二戸市金田一字段ノ越地内	03213	IF70-2074	40度 19分 53秒	141度 18分 26秒	20140916〜1010	666	記録保存 調査
おおだいらのいせき 大平野遺跡	くのへぐんのだむらおおあざのだちない 九戸郡野田村大字野田地内	03503	JG60-0306	40度 6分 22秒	141度 48分 48秒	20120123〜0208	2,700	記録保存 調査 確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
霞畑遺跡	河岸跡	近世か	石積遺構2	なし	近世の船着場と推測される石積が２箇所で検出
新堰端遺跡	城柵跡・集落跡	縄文・古代 (平安)	溝跡1	なし	志波城跡に関連すると推測される一町溝跡を検出
上野々遺跡	集落跡	縄文・平安	竪穴住居跡5 土坑1 溝跡5 柱穴8	土師器、須恵器、縄文土器	９世紀後半〜10世紀前半の集落跡 ５世紀の土器出土
段ノ越遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器	
大平野遺跡	集落跡	縄文か 古墳〜奈良	陥し穴状遺構6 竪穴遺構1 土坑13 溝跡1 柱穴6	土師器	古墳〜奈良時代の集落跡

岩手県文化財調査報告書　第145集
岩手県内遺跡発掘調査報告書
（平成26年度　国庫補助事業）

発行日　平成28年3月25日
発　行　岩手県教育委員会
〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10−1
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印　刷　小松総合印刷㈱
〒020-0827　岩手県盛岡市鉈屋町15−4

©岩手県教育委員会　2016

Iwate Board of Education 2016